

# 五代深堀 I 遺跡No.2

五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2015.3

前橋市教育委員会

# 五代深堀 I 遺跡No.2

五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書



D-58号土坑出土  
阿玉台III式土器

2015.3

前橋市教育委員会



五代深堀Ⅰ遺跡No.2 調査区全景（上が北）



五代深堀Ⅰ遺跡No.2 調査区全景（南から）



五代深腹 1 通肩像 N.2 繪文時代 出土遺物



例 言

- 1 本書は、五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴い実施した。五代深堀Ⅰ遺跡№2の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 調査は、前橋市の委託を受け、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は同研究所員 柴田洋孝、小此木真理である。

3 発掘調査期間は、平成 26 年 7 月 7 日～平成 26 年 8 月 29 日である。  
整理作業期間は、平成 26 年 8 月 30 日～平成 27 年 3 月 10 日である。

4 本調査の調査区の地番、面積及び遺跡番号、並びに略称は下記のとおりである。  
所在地地番：前橋市五代町 1800 番地 1 面積：2,290 m<sup>2</sup>  
遺跡番号：0055 略称：26C25

5 本調査の遺構測量は、小出拓磨、竹中洋治（有限会社毛野考古学研究所員）が担当した。

6 本書の編集は前橋市教育良委員会指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が行い、執筆は I 章：藤坂和延（前橋市教育委員会）、II～VI 章：小此木真理、遺物実測図は柴田洋孝・小此木真理・淺間陽・宮田忠洋・日沖剛史・高橋清文・土井道昭（有限会社毛野考古学研究所員）が担当した。

7 調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。

8 発掘調査・整理作業に関わった方々は下記のとおりである。（五十音順、敬称略。）

【発掘調査】赤尾嘉章 赤見公一 秋山文男 浅川正行 淺間陽 新井正治 井口ヒロ子 石井元秋  
石倉稔夫 石田修慶 飯塚常子 确井俊夫 金田守 亀田浩子 北野進二 北山信一 小関泰洋  
佐藤雄輝 佐藤陽子 鈴木正 関口勝司 関根清子 高田和正 高橋孝子 高橋清文 武田茂子  
竹生正明 勅使河原幸枝 富田幸男 永井述史 中島勝由 西島誠 萩原秀子 日沖剛史 松井昭光  
南田法正 水沢美智恵 村田幸子 森山恵子 森山孝男 柳沢敏子 山崎知晴 山本良太  
【整理作業】青木あつ子 青木麻耶 青柳美保 石山亜希子 池内麻美 磐洋子 井上大 内田惠美子  
大瀧千晶 鬼山由子 小野沢朝子 合田幸子 國文小谷 貴世美 関小百里 仙波葉津律美 高橋奈緒  
高橋真弓 田村健志 永井祐二 成田恵美 根本正子 半澤利江 伴場りく 日沖美奈子 深谷道子  
真下弘美 山下奈邦子

9 発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、以下の機関、方々のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる。（敬称略、順不同）

秋田かな子 池田敏宏 岡原英 岡原茂 亀田幸久 川野京子 北野博司 倉石広太 板田敏行 佐藤俊  
J.R 東日本高崎給電メンテナンスセンター 清水克彦 鈴木徳雄 菅谷通保 關根慎二 谷藤保彦  
塙本師也 寺崎裕助 外山政子 長澤廣生 永井智教 中村岳彦 三浦京子 向出博之  
山岸洋一 山口逸弘 有限会社スマヤ測量 有限会社 K.L.E.K 神田弘実 納貫秀哉

## 凡 例

- 挿図の座標北には、日本測地系（国家標準第IX系）を使用した。方位記号は座標北を示す。
  - グリッドは、原点(X=46,200-Y=64,700)より、西から東へX 0、X 1…、北から南へY 0、Y 1…と付した。
  - 等高線や断面図における水準値は、海拔標高を示す（単位：m）。
  - 掲載の遺構図及び遺物実測図の縮尺は以下の通りで、遺構平面 1/60・150・200 遺構断面 1/40・60  
土器 1 / 3・4・6 土製品 1 / 2 石器・石製品 1 / 1・2・3・4・6
  - 本書掲載のTab. 1には国土交通省国土地理院発行の1/200,000「長野」・「宇都宮」、Tab. 2には昭和54年同院発行の1/25,000 地勢図「前橋」・「大胡」・「鼻毛石」・「渋川」、Tab. 3には「前橋市都市計画図」1/2,500 を一部加工して使用した。
  - 土層断面の土色及び土器類の色調名は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修 財团法人日本色彩研究所 色票監修）による。
  - 遺構名の略称は以下の通りである。繩文時代堅穴建物跡…J、奈良・平安時代堅穴建物跡…H  
堅穴状遺構…T、掘立柱建物跡…B、溝…W、土坑…D、ピット…P、道路状遺構…A
  - 須彌壇断面 彩赤 紫 緑 黄 紅 スス・鈍葉・熟変色範囲・靡耗範囲 鉄錆化部・酸化土砂

## 目 次

例言	IV 標準堆積土層	6
凡例		
目次	V 遺構と遺物	7
挿図目次	1 繩文時代	7
表目次	2 奈良・平安時代	11
写真図版目次	遺構実測図	20
	遺物実測図	37
I 調査に至る経緯	遺物観察表	54
II 遺跡の位置と環境	VI まとめ	62
1 地理的環境	参考文献	
2 歴史的環境		
III 調査の方法と経過	写真図版	
1 調査方法	抄録・奥付	
2 調査経過		

## 挿 図 目 次

Fig. 1 遺跡の位置	1	Fig. 16 B区 H-2号竪穴建物跡	
Fig. 2 周辺遺跡図	3	遺構実測図	31
Fig. 3 五代深堀 I 遺跡No.2		Fig. 17 B区 H-3・4号竪穴建物跡	
調査区位置・グリッド設定図	4	遺構実測図	32
Fig. 4 五代深堀 I 遺跡No.2 標準堆積土層	6	Fig. 18 A区 H-5号竪穴建物跡	
Fig. 5 五代深堀 I 遺跡No.2 A区全体図(1)	20	遺構実測図	33
Fig. 6 五代深堀 I 遺跡No.2 A区全体図(2)	21	Fig. 19 A区 H-6号竪穴建物跡	
Fig. 7 五代深堀 I 遺跡No.2 B区全体図	22	平面図・断面図	34
Fig. 8 A・B区 J-1～3号竪穴建物跡		Fig. 20 B区 T-1号遺構	
遺構実測図	23	鍛冶津出土量グラフ	34
Fig. 9 A区 J-4・J-5号竪穴建物跡		Fig. 21 B区 T-1号遺構 遺構実測図	35
D-228号土坑 遺構実測図(1)	24	Fig. 22 B区 B-1号掘立柱建物跡	
Fig. 10 A区 土坑 遺構実測図(1)	25	遺構実測図	36
Fig. 11 A区 土坑 遺構実測図(2)	26	Fig. 23 A区 J-2号竪穴建物跡	
Fig. 12 A区 土坑 遺構実測図(3)	27	遺物実測図	37
Fig. 13 A区 土坑 遺構実測図(4)	28	Fig. 24 A区 J-3号竪穴建物跡	
Fig. 14 A区 土坑 遺構実測図(5)	29	遺物実測図	38
Fig. 15 B区 H-1号竪穴建物跡		Fig. 25 A区 J-4号竪穴建物跡	
遺構実測図	30	遺物実測図	39

Fig. 26 A区 J-4・J-5号竪穴建物跡 遺物実測図	40	Fig. 34 A区 土坑(8) 遺物実測図	48
Fig. 27 A区 土坑(1) 遺物実測図	41	Fig. 35 A区 土坑(9) 遺物実測図	49
Fig. 28 A区 土坑(2) 遺物実測図	42	Fig. 36 A区 土坑(10)・遺構外 遺物実測図	50
Fig. 29 A区 土坑(3) 遺物実測図	43	Fig. 37 A・B区 遺構外 遺物実測図	51
Fig. 30 A区 土坑(4) 遺物実測図	44	Fig. 38 B区 H-1～5号竪穴建物跡 遺物実測図	52
Fig. 31 A区 土坑(5) 遺物実測図	45	Fig. 39 B区 H-5・H-6号竪穴建物跡 T-1号遺構 遺物実測図	53
Fig. 32 A区 土坑(6) 遺物実測図	46		
Fig. 33 A区 土坑(7) 遺物実測図	47	Fig. 40 五代南部団地地区 遺跡全体(模式図)	64

## 表 目 次

Tab. 1 周辺遺跡概要一覧表	3	Tab. 11 繩文時代出土遺物観察表(1)	54
Tab. 2 奈良・平安時代 構状遺構一覧表	14	Tab. 12 繩文時代出土遺物観察表(2)	55
Tab. 3 奈良・平安時代 道路状遺構一覧表	14	Tab. 13 繩文時代出土遺物観察表(3)	56
Tab. 4 土坑一覧表(1)	15	Tab. 14 繩文時代出土遺物観察表(4)	57
Tab. 5 土坑一覧表(2)	16	Tab. 15 繩文時代出土遺物観察表(5)	58
Tab. 6 土坑一覧表(3)	17	Tab. 16 奈良・平安時代出土遺物観察表(1)	58
Tab. 7 土坑一覧表(4)	18	Tab. 17 奈良・平安時代出土遺物観察表(2)	59
Tab. 8 ピット一覧表(1)	18	Tab. 18 石器一覧表(1)	60
Tab. 9 ピット一覧表(2)	19	Tab. 19 石器一覧表(2)	61
Tab. 10 B区 B-1号掘立柱建物跡 ピット一覧表	36		

## 写真図版目次

### 巻頭写真

- 五代深堀I遺跡No.2 調査区全景（上が北）  
五代深堀I遺跡No.2 調査区全景（南から）

### P L. 1

- J-1号竪穴建物跡 完掘状況（南から）  
J-2号竪穴建物跡 遺物出土状況（南から）  
J-2号竪穴建物跡 完掘状況（南から）  
J-3号竪穴建物跡 遺物出土状況（東から）  
J-4号竪穴建物跡 遺物出土状況（東から）  
J-4号竪穴建物跡 完掘状況（南から）  
J-5号竪穴建物跡 完掘状況（南から）  
D-288号土坑 完掘状況（北から）

### P L. 2

- D-34号土坑 遺物出土状況（南東から）  
D-38号土坑 遺物出土状況（北西から）  
D-58号土坑 遺物出土状況（南から）  
D-61号土坑 遺物出土状況（南から）  
D-123号土坑 遺物出土状況（西から）  
D-193号土坑 遺物出土状況（北東から）  
D-198号土坑 遺物出土状況（南から）  
D-219号土坑 遺物出土状況（北から）

### P L. 3

- H-1号竪穴建物跡 完掘状況（南から）  
H-2号竪穴建物跡 完掘状況（南から）  
H-4号竪穴建物跡 遺物出土状況（西から）  
H-4号竪穴建物跡 墨書き器出土状況（南から）  
H-5号竪穴建物跡 遺物出土状況（西から）

H-5号堅穴建物跡	墨書き器出土状況（南から）	P L. 10
H-6号堅穴建物跡	遺物出土状況（西から）	土坑 遺物写真（3）
H-6号堅穴建物跡カマド周辺		P L. 11
遺物出土状況（西から）		土坑 遺物写真（4）
<b>P L. 4</b>		<b>P L. 12</b>
T-1号遺構	検出状況（北東から）	土坑 遺物写真（5）
T-1号遺構	遺物出土状況（東から）	<b>P L. 13</b>
T-1号遺構D2周辺	遺物出土状況（東から）	土坑 遺物写真（6）
T-1号遺構	完掘状況（西から）	<b>P L. 14</b>
H-1号堅穴建物跡カマド内		土坑・ピット・遺構外 遺物写真
丸瓶出土状況（南東から）		<b>P L. 15</b>
H-3号堅穴建物跡カマド内		遺構外 遺物写真
鎌出土状況（南から）		D 34-2 展開写真
W-3・5号構	完掘状況（西から）	<b>P L. 16</b>
B-1号掘立柱建物跡	完掘状況（南から）	D 38-4 展開写真
<b>P L. 5</b>		D 58-1 展開写真
J-2・3号堅穴建物跡	遺物写真	D 198-1 展開写真
<b>P L. 6</b>		<b>P L. 17</b>
J-3・4号堅穴建物跡	遺物写真	D 219-1 展開写真
<b>P L. 7</b>		D 240-1 展開写真
J-4・5号堅穴建物跡	遺物写真	遺構外-1 展開写真
土坑	遺物写真	<b>P L. 18</b>
<b>P L. 8</b>		H-1～5号堅穴建物跡 遺物写真
土坑	遺物写真（1）	<b>P L. 19</b>
<b>P L. 9</b>		H-6号堅穴建物跡 遺物写真
土坑	遺物写真（2）	T-1号遺構 遺物写真

## I 調査に至る経緯

平成 26 年 5 月、前橋市産業課より当該地を工場用地として売却を予定しているが、埋蔵文化財に関する手続きは必要であるかとの問い合わせがあった。前橋市教育委員会で当該地の発掘調査歴を確認し、「五代深堀 I 遺跡」として一部の発掘調査が実施されていることを把握する。発掘調査は一部分のみであったところから、工場建設にあたっては、試掘・確認調査を実施して、埋蔵文化財の取扱いについて改めて協議が必要であることを回答する。教育委員会は産業課からの試掘調査の依頼をうけ、同年 6 月 2 から 5 日に試掘調査を実施し、縄文時代中期の堅穴住居跡・土坑、古墳時代から奈良・平安時代の堅穴住居跡・土坑・溝跡を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、売却および設計の変更は不可能であるため、発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することとなり、平成 26 年 7 月 7 日付けで前橋市長、民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査・整理業務委託の契約を締結され、同年 7 月 7 日から現地調査が開始された。

## II 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

五代深堀 I 遺跡 No.2 は、前橋市の中心部から北東へ約 5 km の場所にある五代南部工業団地 (42.3ha) 内に位置する。前橋市は群馬県のはば中央部にあたり、北東に赤城山、北西に榛名山を望む。西は利根川、東は渡良瀬川に囲まれておおり、南の裾野は関東平野へと続いている。この裾野は、主に火砕流堆積物や扇状地堆積物から構成されている。赤城山は複式成層火山で、本遺跡は赤城火山斜面と呼ばれる赤城山の南麓に形成された傾斜地上に立地し、標高 132 m ~ 135 m の間にある。この火山斜面には山頂付近から流路をとる河川があり、開析谷が放射状に発達している。このため大部分の地域が、多くの舌状台地と谷地部によって構成される地形である。遺跡周辺

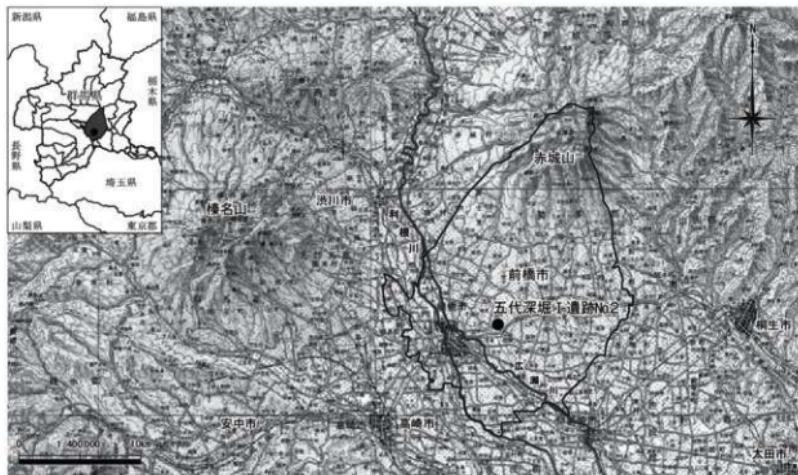


Fig. 1 遺跡の位置

の中小河川には、利根川水系の藤沢川・寺沢川などがあり、遺跡の東側を藤沢川、西側を寺沢川と薬師川が南流する。遺跡の北側には大正用水が東西方向に流れる。赤城火山斜面の末端部は旧利根川が形成した広瀬川低地帯に接しており、中小河川はこの低地帯をとおって桃ノ木川に合流する。これらの中小河川が赤城火山斜面に形成した舌状台地には、本遺跡も含め多数の遺跡が立地する。現在は主に桑畠等が広がり、谷地部では狭い範囲で水田が営まれている。

## 2 歴史的環境

五代南部団地地区では平成12～20年度にわたり発掘調査が実施され、縄文時代前期・中期の堅穴建物跡・土坑、古墳時代と奈良・平安時代の堅穴建物跡や掘立柱建物跡が検出されている。本遺跡が所在する前橋市五代町及びその近隣地域でも、住宅団地造成事業や現在も伸長している上武道路（国道17号線）の工事に伴い、多くの発掘調査が行われている。ここでは、本遺跡の該当時期である縄文時代・奈良・平安時代を中心に概観して述べる。

### 縄文時代

赤城山南麓斜面の代表的な遺跡としては、後期旧石器とともに縄文時代前期中葉～後葉の石器配置遺構が発見された柳久保遺跡群・柳久保遺跡（前橋市荒子町）や頭無遺跡（同町）があげられる。

五代町周辺でも多くの縄文時代の遺跡が確認されている。時期別にみていくと、本遺跡西側の谷底平野に位置する湯気遺跡（44）では縄文時代草創期及び前期、川白田遺跡（24）では早期の土器片が出土した。芳賀北部団地遺跡（26）、芳賀東部団地遺跡（27）では、前期の堅穴建物跡と中期後半の敷石住居跡が検出された。芳賀西部団地遺跡（28）では、前期の堅穴建物跡とともに配石遺構が検出された。本遺跡西側の台地では、鳥取福藏寺遺跡（49）、鳥取福藏寺II遺跡（48）で前期から後期の堅穴建物跡が検出され、扇状地では芳賀北曲輪遺跡（25）、小神明遺跡群II・西田遺跡（47）で前期、堤遺跡（30）で前期から後期の堅穴建物跡が確認された。本遺跡北東側では、五代砂留遺跡群（32）、萩原東爪遺跡（35）、上泉新田塚遺跡群（34）で前期及び中期の堅穴建物跡が検出された。

五代南部工業団地（Fig. 3）では、五代木福I遺跡（②）で、五代中原遺跡（I～III）（⑩・⑪・⑫）、五代山街道I遺跡（⑬）では諸磯a～c式、関山式の土器が出土した前期の堅穴建物跡・土坑が検出されている。五代伊勢宮遺跡（II～VI・（1）・（2））（⑦・⑧・⑪～⑯・⑭・⑮・⑯）で前期～中期後葉までの堅穴建物跡や土坑群が検出された。東側の台地では、五代深堀遺跡（I・II）（⑤・⑨）で中期後葉の堅穴建物跡が検出された。本遺跡の西側に位置する五代伊勢宮遺跡（IV～VI）（⑪～⑯）は同時期の遺物が出土しており、同じ環状集落である可能性が推測される。

これらの遺跡の分布から、五代南部団地地区周辺では、各台地上で継続的に縄文時代の集落が営まれていたことがうかがえる。また五代町の遺跡の特徴としては、東北、北陸、東関東など他地域の特徴をもつ土器や、搬入石材で製作されたとみられる石器が出土したことなどから、広範囲の文化交流があったことが指摘されている。

### 奈良・平安時代

この地域の代表的な遺跡は、芳賀北部団地遺跡（26）、芳賀東部団地遺跡（27）があげられる。芳賀北部団地遺跡は奈良・平安時代の堅穴建物跡が237軒検出され、勝沢城址の一帯もみつかった。芳賀東部工業団地遺跡では、古墳時代・奈良・平安時代の堅穴建物跡が500軒、掘立柱建物跡が206棟のほか、鍛冶遺構が5基検出された。五代町周辺は古代の旧芳賀郡にあたり、両遺跡が「芳賀地区」の拠点的集落であった可能性が想定される。本遺跡の西側にあたる台地では、鳥取福藏寺遺跡・鳥取福藏寺II遺跡で、古墳時代と奈良・平安時代の堅穴建物跡・掘立柱建物跡のほか、鍛冶関連遺構が検出された。北東に位置する檜峰遺跡（40）では、古墳時代・奈良・平安時代の堅穴建物跡とともに奈良三彩小壺（前橋市指定重要文化財）が検出された。

芳賀地区も含めた五代町周辺では、9世紀代になると集落数が増加する。また、8～9世紀の製鉄・精錬・鍛冶に関わる遺構が確認されていることから、それらの生産遺跡との関係性もうかがえる。

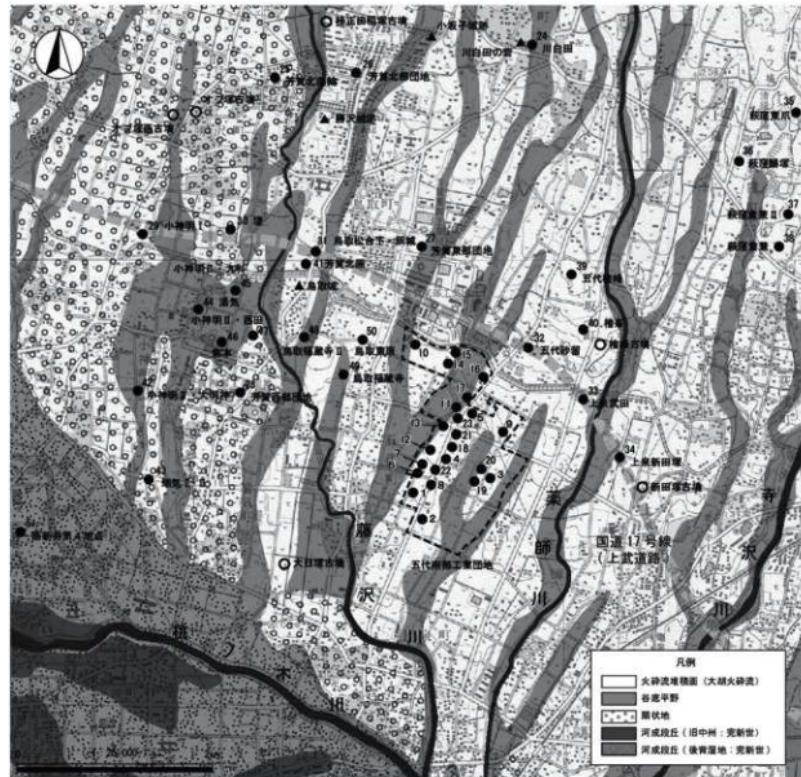


Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1 周辺遺跡概要一覧表

No.	遺跡名	概要	No.	遺跡名	概要
1	五代古墳複数基 (12G21)	古墳・奈良・平安整穴	27	芳賀東高地遺跡	純文・古墳・奈良・平安整穴・對軸・圓石遺構
2	五代木桶 I 盆跡 (12G23)	純文・古墳・奈良・平安整穴	28	芳賀西高地遺跡	純文整穴・古墳 (1基) [5世紀後半~6世紀前頭]
3	五代木桶 II 盆跡 (12G24)	純文・古墳・奈良・平安整穴	29	小糸明治跡群 I	純文・奈良・平安整穴
4	五代古井番跡 (12G22)	純文・古墳・奈良・平安整穴	30	佐藤跡	純文草創跡・古墳・後頭・奈良・平安整穴
5	五代深堀 I 盆跡 (12G25)	古墳・奈良・平安整穴	31	角地松合下遺跡・開渠遺跡	田代村・純文草創跡・古墳・奈良・平安整穴
6	五代伊御宮 I 盆跡 (12G26)	古墳・奈良・平安整穴	32	五代古墳跡群	田代村・純文草創跡・古墳・奈良・平安整穴・圓石遺構
7	五代伊御宮 II 盆跡 (12G27)	純文・古墳・奈良・平安整穴	33	上武田遺跡	古墳・奈良・平安整穴
8	五代伊御宮 III 盆跡 (12G28)	純文土器・奈良・平安整穴	34	上武田遺跡跡	純文前・中頃・古墳・奈良・平安整穴・円墳 (7世紀代)
9	五代伊御宮 IV 盆跡 (12G29)	純文・古墳・奈良・平安整穴	35	稻葉丘遺跡	純文前・中頃・古墳・奈良・平安整穴
10	五代中井 I 盆跡 (12G30)	純文・古墳・奈良・平安整穴・近世土坑	36	和田御崎跡	奈良・古墳・平安整穴
11	五代伊御宮 V 盆跡 (12G31)	純文草創・奈良・平安整穴	37	稻葉丘第 1 遺跡	奈良・平安整穴
12	五代伊御宮 VI 盆跡 (12G32)	純文・古墳・奈良・平安整穴	38	和田御崎跡	奈良・平安整穴
13	五代伊御宮 VII 盆跡 (12G33)	純文・古墳・奈良・平安整穴・掘池遺跡	39	五代古墳跡群	古墳整穴
14	五代中井 II 盆跡 (12G34)	純文・古墳・奈良・平安整穴	40	利根跡	古墳・奈良・平安整穴
15	五代中井 III 盆跡 (12G35)	古墳・奈良・平安整穴	41	秀實北原遺跡	古墳・奈良・平安整穴
16	五代山中井 III 盆跡 (12G36)	純文・古墳・平安整穴	42	小糸明治跡群 II・大明神遺跡	古墳整穴
17	五代山中井 III 盆跡 (12G37)	純文土器	43	強乳遺跡跡 I・II	純文整穴・竹生方面用溝渠・古墳整穴
18	五代伊御宮 VIII 盆跡 (12G22)	純文・古墳・奈良・平安整穴・中・近世地下式土坑	44	強乳遺跡跡 II	奈良後期・古墳・奈良・平安整穴
19	五代伊御宮 IX 盆跡 (12G23)	古墳・奈良・平安整穴・獨立柱建物跡	45	小糸明治跡群 III・九科遺跡	純文・古墳・奈良・平安整穴
20	五代伊御宮 X 盆跡 (12G23)	奈良・平安整穴	46	菅原跡	奈良中期・後頭期穴
21	五代深堀草創跡 (12G25)	純文整穴・土器・唐	47	小糸明治跡群 IV・西田遺跡	純文・古墳整穴
22	五代伊御宮遺跡 (1) (12G37)	奈良・平安整穴	48	御取堀跡第 3 号跡	純文・鐵文・古墳・奈良・平安整穴・圓石遺構
23	五代伊御宮遺跡 (2) (12G37)	純文・奈良・平安整穴	49	御取堀跡第 4 號跡	純文・鐵文・古墳・奈良・平安整穴・圓石遺構
24	川口跡	純文整穴	50	和田原遺跡	古墳整穴・近世墓
25	芳賀北輪遺跡	純文・古墳・奈良	51	西新井遺跡 第 4 地点	純文晚期主体の含む層
26	芳賀北輪遺跡	純文・奈良・平安整穴			

◎ 案穴・柱穴埋跡 ◉ 地形分類図は野川周辺・河内編第 1 「都馬車主要地域の地形分類図」を元に作成した。

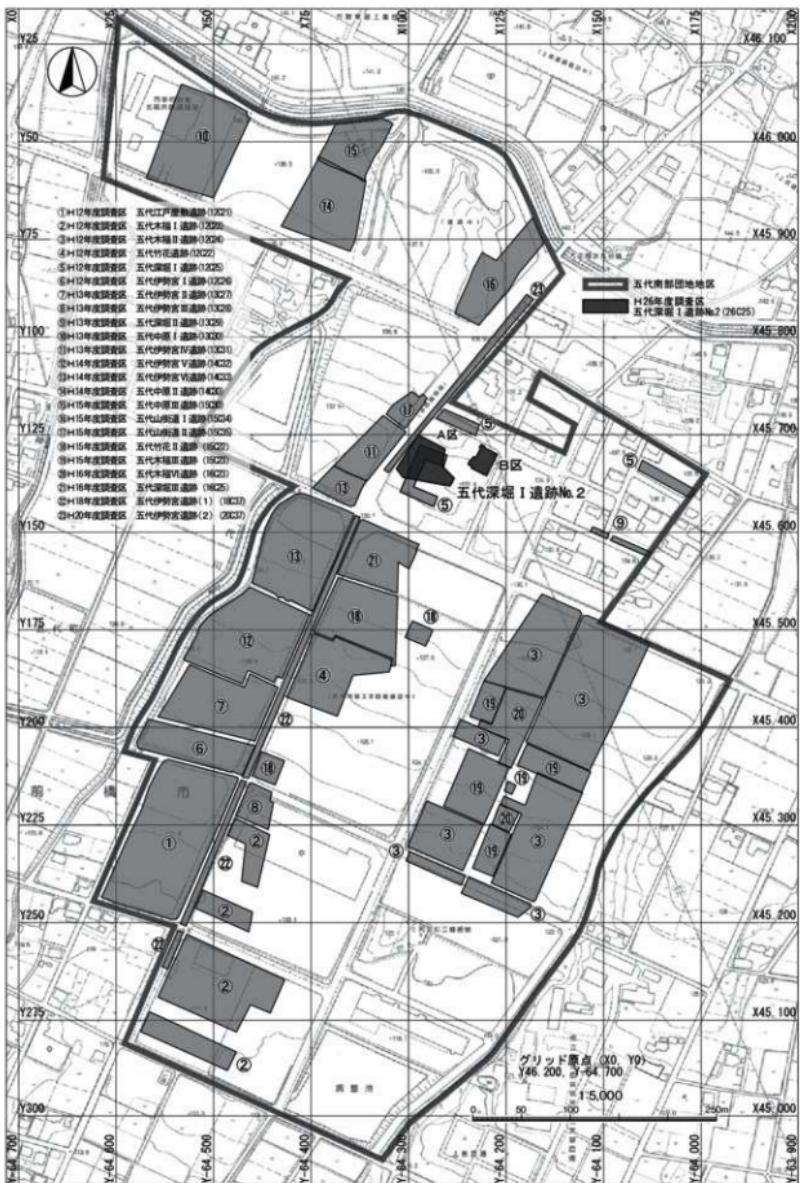


Fig. 3 五代深堀Ⅰ遺跡No.2 調査区位置・グリッド設定図

### III 調査の方法と経過

#### 1 調査方法

本遺跡地内はすでに前橋市教育委員会による試掘調査が実施されており、その調査成果と周辺遺跡の状況からA区とB区の2区を調査することになった。各調査区の主な調査対象は、縄文時代の堅穴建物跡・土坑・溝（A区）と奈良・平安時代の堅穴建物跡・土坑（B区）と想定されていた。

重機掘削による表土除去はB区北側から実施し、A区に移行した。A区の表土除去では、調査区北側で奈良・平安時代の遺構と縄文時代の一部の土坑を、基本土層1層中位で検出した。しかし、重機掘削後の遺構確認作業では縄文時代の遺構の平面プランの視認が非常に困難であった。そこでA区中央付近に傾斜に合わせて南北方向のトレンチを数か所設定したところ、確認面の0.3m程度下位で袋状土坑（D-231号土坑）の平面プランと断面の立ち上がりを確認した。現状のレベルでは人力による遺構確認及び掘削は困難と判断し、前橋市教育委員会との協議ののち、再度重機を投入してA区中央から以南にかけて約0.3～0.5m掘り下げを行ったところ、200基以上の土坑・ピットを検出した。

B区では表土除去後に人力による遺構確認・検出作業を実施し、A区では2度目の重機掘削と同時並行で遺構確認作業を実施した。堅穴建物跡には遺構中央に南北方向の土層観察用ベルトを設定し、縄文時代は東西南北4分割、奈良・平安時代は東西2分割した上で、掘削ならびに遺物の取り上げを行った。その他の土坑やピットに関しては、土層観察用ベルトを設定するか埋没土の1/2を残して断面を確認しながら掘削を行った。

遺構から出土した遺物は、遺構の床面直上もしくは特徴的に出土した場合は、写真測量による遺物出土状況の平面図を作成したのち、トータルステーション（以下、TS）を用いて1点ずつ取り上げを行った。遺構に伴わない調査区内の遺物は、残存状態が良好なものはTSで出土位置の座標と標高を測量し、取り上げた。

測量作業は、調査区周辺に基準杭を設定し、平面図をTS測量、断面図を方眼紙を用いた手実測で行った。遺構平面図は1/20、遺構断面図は1/20または1/10の縮尺で作成した。また土坑・ピットに限っては全ての遺構の土層断面図の作成が時間的に困難であったため、エレベーション図の作成を併用した。

写真撮影は、35mm判フィルムカメラ（モノクロ・カラーリバーサルフィルム）とデジタルカメラ（1,500万画素相当）で撮影し、遺構掘削終了後にラジコンヘリコプターによる調査区全体の空中写真撮影を実施した。

検出された遺構は時代に関わらず、遺構別に検出した順番で遺構記号一番号を付した。本書では調査時の遺構番号をそのまま使用している。

#### 2 調査経過

現地での発掘調査は平成26年7月7日から8月29日まで、整理・報告書作成業務は、平成26年9月1日から平成27年3月10日にかけて有限会社毛野考古学研究所において実施した。

【発掘調査】平成26年7月7日：草刈りと調査区の設定。発掘機材の搬入。現場事務所設置。7月9日：B区表土除去開始。7月12日：A区表土除去開始。B区の遺構確認作業に着手。7月14日：B区遺構掘削作業の開始。7月18日：A区表土除去終了。7月24日：A区遺構確認作業に着手。縄文時代の平面プランの視認が困難を極める。7月31日：A区にトレンチを設定し掘削を開始。8月5～6日：A区2度目の重機掘削開始。同時に遺構確認作業に着手。8月13日：B区遺構掘削作業終了。8月27日：空中写真撮影を実施。8月28日：A・B区の堅穴建物跡の掘方調査を実施。8月29日：前橋市教育委員会の立ち合いによる終了検査の実施。現地発掘調査完了。

【整理・報告書作成】平成26年9月1日：図面修正。遺物洗浄の開始。9月24日：遺物注記を開始。10月：原稿執筆・図版作成。遺物接合、T-1号遺構の箇作業。10月22日：遺物実測・写真撮影。11月20日：原稿執筆・図版作成。遺物接合終了、樹脂による復元作業。12月：遺物実測・写真撮影（縄文時代）。1月20日～：版組み作業。平成27年1月30日：報告書入稿、校正作業。2月23日：印刷・製本。3月10日：報告書刊行。

## IV 標準堆積土層

今回の調査では、基本土層観察用トレンチをA区の3か所に設置した。A区での調査開始時の表土除去は、I層中位からII層上位まで掘削を行い、遺構を確認した。しかし縄文時代の遺構のほとんどはII層中で視認することが困難であったため、不明瞭な範囲を中心にIII層上位まで掘り下げて遺構を確認した。このためA区の遺構確認面は場所によって異なり、I～III層の3層にわたっている。基本土層観察用トレンチは、確認面が異なるA区の北側、中央西側、南側にそれぞれ設置して記録を行った。北からそれぞれ基本土層1・2・3とした(Fig. 4)。

B区では基本土層観察用トレンチは設置していないが、調査区東端のトレンチでIII層までを確認している。B区の遺構確認面はII層上位である。

当初はIV層をAs-B P G r o u p(浅間一板鼻褐色軽石群: 19,000～24,000年前)としていたが、火山灰の降下時期と堆積状態を考慮すると、As-S r(浅間一白糸軽石: 18,000年前)である可能性も考えられる。本報告ではAs-B P G r o u pとして捉えておきたい。I～II層中にはAs-A・As-B軽石が含まれていたとみられるが、今回の調査では分類が困難であったため、Hr-F A軽石のみ記載した。基本土層の主体となるものを比率(%)で表している。

**表土:**現耕作土。  
**I層:**暗褐色土(Hue10YR3/4)表土60%、ソフトローム40%、黄色粒・Hr-F A白色軽石を中量含む。しまり弱い。粘性弱い。  
**II層:**明黄褐色土(Hue10YR7/6)ソフトローム50%、ハードローム50%、黄色粒・白色粒を多量に含む。しまり弱い。粘性弱い。ソフトローム層(II層)とハードローム層(III層)の漸移層とみられる。  
**III層:**明黄褐色土(Hue10YR7/6)ハードローム層。下位にAs-B P G r o u pを少量含む。しまり強い。粘性ややあり。  
**IV層:**黄褐色土(Hue10YR8/8)As-B P G r o u p。しまりあり。粘性弱い。  
**V層:**にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)As-B P G r o u p40%、白色粘質土60%。しまり強い。粘性強い。As-B P G r o u p(V層)と白色粘質土層(VI層)の漸移層とみられる。  
**VI層:**灰黄褐色土(Hue10YR6/3)白色粘質土層。しまり強い。粘性非常に強い。

### テフラ(火山噴出物)の略称

As-A 浅間山A軽石: 1873年

As-B 浅間山B軽石: 1108年

Hr-F P 棟名ニッ岳伊香保テフラ: 6世紀中葉

Hr-F A 棟名ニッ岳渋川テフラ: 6世紀初頭

As-C 浅間C軽石: 3世紀後半

As-B P G r o u p 浅間一板鼻褐色軽石群: 19,000～24,000年前

As-S r 浅間一白糸軽石: 18,000年前

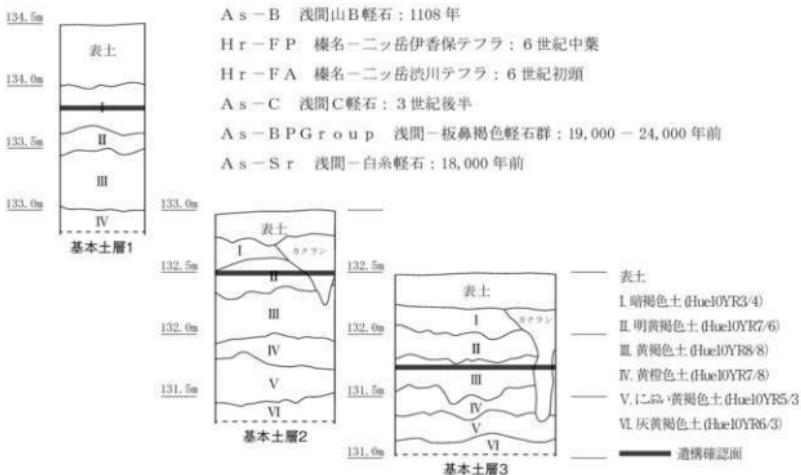


Fig. 4 五代深堀 I 遺跡No.2 標準堆積土層

## V 遺構と遺物

### 1 縄文時代

縄文時代の遺構は、主にA区で確認されている。A区では竪穴建物跡4軒（J-2～5）、土坑124基、ピット34基、B区で竪穴建物跡1軒（J-1）を検出した。

#### 1 竪穴建物跡

##### J-1号竪穴建物跡 (Fig. 7・8, PL. 1)

位置：B区。X 121, Y 135 グリッド。東側は調査区外。**重複**：南側は擾乱によって削平されており、上面では平安時代以降とみられる道路状遺構を検出している。**平面形状**：全容は不明であるが、円形を呈すると想定される。**規模**：3.11 × 1.84 m、残存深度 64 cm。**床面**：ほぼ平坦だが、しまりはあまり強くない。**柱穴**：調査区内では検出されなかった。**炉跡**：確認した範囲では検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没とみられる。基本土層1層の暗褐色土を主体とするソフトローム混じりの埋没土である。**遺物**：勝坂式・焼町類型の特徴をもつ深鉢の破片数点と磨石が出土した。**時期**：縄文時代中期中葉。

##### J-2号竪穴建物跡 (Fig. 6・8, PL. 1・5)

位置：A区。X 108・109, Y 132・133 グリッド。**重複**：なし。**平面形状**：やや不整円形。**規模**：3.81 × 3.48 m、残存深度 51 cm。**床面**：細かな凹凸はあるものの全体的に平坦で、よく締まる。**柱穴**：14基のピットを検出した。そのうちP 1～3・5～8は同規模の掘り込みと同様の埋没土であることから、遺構に伴うものと想定される。**炉跡**：中央付近に被熱範囲が2箇所確認された。北側の炉は43 cm × 22 cmで浅い掘り込みを持つ。南側の炉は20 cm × 14 cmで北側より小さく、掘り込みは持たない。**遺構埋没状態**：人為的な埋没と想定され、ロームブロック主体の土で埋没している。**遺物**：西側の深鉢（4・6）、東側の深鉢（2）は覆土中位から下位にかけて出土した。北側の床面直上からは深鉢（1・3）、石皿、磨石が出土した。**時期**：縄文時代中期中葉。

##### J-3号竪穴建物跡 (Fig. 5・8, PL. 1・5・6)

位置：A区。X 104・105, Y 130・131 グリッド。**重複**：D-114・182・230・234・235、P-227と重複し、これらより新しいとみられる。**平面形状**：円形と想定される。**規模**：4.77 m × 4.27 m、残存深度 75 cm。**床面**：中央付近から南東部にかけて平坦で、西側から北側にかけて緩やかに立ち上がる。**柱穴**：17基のピットを検出している。そのうちP 1・3・4・5・7は、同規模の掘り込みと同様の埋没土から遺構に伴うものと想定される。**炉跡**：中央よりやや北西付近から検出した。掘り込みを持つタイプで規模は72 cm × 66 cm、深さ 10 ~ 33 cm である。掘り込み内には被熱した礫が複数落とし込まれており、ロームブロック及び炭化物を含む黒色土とともに埋没していた。しまりが強く硬化していたが、焼土や赤化した範囲は検出されなかった。**遺構埋没状態**：人為的な埋没と想定され、埋没土は上位から中位に非常にしまりの強い黒褐色土、下位はローム粒を含む黄褐色土である。大きく2段階にわたって埋め戻されており、下層上面では焼土ブロックの面的な広がりを確認した。J-3の下層は別の土坑もしくは竪穴建物跡の可能性が考えられる。**遺物**：覆土中から多量の土器片、石器類が出土した。深鉢（1・7）は炉の上面からまとめて出土した。**時期**：縄文時代中期中葉。

##### J-4号竪穴建物跡 (Fig. 5・9, PL. 1・6・7)

位置：A区。X 109～111, Y 136～138 グリッド。**重複**：P-49・D-237・D-243と重複し、新旧関係はP-49→D-243→J-4→D-237の順に構築されている。**平面形状**：円形。**規模**：5.59 m × 5.17 m、残存深度 56 cm。**床面**：全体的に立ち上がりは緩やかで、西側に中場を持つ。やや凹凸があり、しまりが非常に強い。**柱穴**：21基のピットを検出し、そのうちP 1・3・4・6・8・9は主柱穴とみられる。南側のP 3・4・7・8は近接しており、柱の建て替えも推測される。**炉跡**：住居中央のやや北寄りに18 cm × 14 cm の被熱範囲を確認した。掘り込みは持たない。**遺構埋没状態**：下位から中位にかけては人為的な埋没と想定される。**遺物**：同一個

体の浅鉢（10）が、北側と西側の立ち上がり付近から出土しており、10aは内面、10bは外側が上面になった状態であった。浅鉢10aと深鉢の胴下部（4）は床面上から出土した。P 10の上面に蓋をするように北陸系の特徴をもつ浅鉢（13）下半部の破片が出土した。時期：縄文時代中期中葉。

#### J-5号竪穴建物跡 (Fig. 6・9, PL. 1・7)

位置：A区、X 107、Y 129・130 グリッド。重複：D-229号、P-248と重複し、これらに切られる。平面形状：不整円形。規模：3.28 × 2.81 m、残存深度 35 cm。床面：凹凸があり、堅く締まる。立ち上がりは緩やかである。柱穴：5基のピットを検出しが、主柱穴と判断できるものは検出されなかつた。炉跡：炉に伴う被熱範囲及び掘り込みは検出されなかつた。遺構埋没状態：自然埋没と想定され、基本土層Ⅱ層を主体とする土で埋没している。遺物：中央の覆土下位から深鉢（1）が出土した。時期：縄文時代中期中葉。

## 2 土坑

A区で確認した縄文時代の土坑は124基である。形状は円形や橢円形を呈するものが多く、断面形状は袋状、台形状、箱型状、U字状、碗型状などがある。出土遺物や遺構の重複関係から帰属する時期を決定したが、出土遺物の少ない土坑については、ほかの遺構との切り合い関係や埋没土の特徴等から時期を判断した。それさえも困難なものについては時期不明とした。ほとんどの土坑は縄文時代中期中葉に帰属することが想定される。ここでは、覆土上位から床面にかけて、残存状態が良好な個体や多量の遺物が出土した土坑について、遺物出土状況と埋没状態に重点を置いて記述する。その他の土坑については一覧表でまとめて報告する。

#### D-23号土坑 (Fig. 6・10, Tab. 4, PL. 7)

A区、X 109、Y 137 グリッド。平面形はほぼ円形、断面形状は碗型状である。残存深度は22 cmで比較的浅い土坑である。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はソフトロームを主体とした黄褐色土で、掘り込みは基本土層Ⅲ層まで及ぶ。遺物は、覆土上位から浅鉢と深鉢の胴部（1）が重なった状態で出土した。深鉢は浅鉢の下面から横位状態で出土した。

#### D-28号土坑 (Fig. 6・10, Tab. 4, PL. 7)

A区、X 109、Y 136 グリッド。平面形はほぼ円形、断面形状は箱型状である。D-29号土坑と重複し、これより新しい埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はソフトローム及びハードロームを主体とする黄褐色土である。掘り込みは基本土層Ⅲ層まで及ぶ。覆土上位から中位にかけて、土器片や小礫が出土し、底面直上から深鉢（1）と打製石斧が出土した。深鉢は胴下部から上部にかけてほとんど形状を保った状態で、その深鉢の下面から打製石斧が出土した。

#### D-34号土坑 (Fig. 6・10, Tab. 4, PL. 2・8・9・15)

A区、X 108、Y 138 グリッド。平面形はほぼ円形、断面形状は底部付近で外側にオーバーハングする袋状である。遺構は基本土層Ⅲ層で検出し、掘り込みはIV層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はしまりが弱く白色粒を多量に含む黒色土が主体で、下位になるとロームブロックを含む。覆土中位から 10 ~ 30 cm 前後の礫片が 20 点以上出土し、その下面から土器、磨石、石皿の端材などが出土した。底面付近の土器は特に大型で、胴下部や突起部などが多い（1・2・5・7）。遺物の出土状態から、底面付近の土器、覆土下位の土器、覆土中位の礫片とおおよそ 3 段階にわたって廃棄されたことが推測される。

#### D-38号土坑 (Fig. 6・10, Tab. 4, PL. 2・9・16)

A区、X 108、Y 137 グリッド。平面形は円形、断面形状は碗型状である。D-37と重複し、これを切る。遺構は基本土層Ⅲ層で検出し、掘り込みはIV層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はしまりがあり白色粒を多量に含む黒色土が主体である。燒土を少量含んでおり、底面付近になるとローム粒が多い黄褐色土で埋没している。遺物は、この黒色土から多量に出土しており、中位から底面付近まで土器片、剥片石器、礫

石器等が土坑内に隙間なく詰まつた状態で出土した（1～3・6・7・8）。遺物はそれぞれがかみ合っており、特に北西側では底面直上まで遺物が集中していた。この北西側で、口縁部下に4単位の突起を持つ深鉢が2個体分出土した（4・5）。4は底面直上から、5は4より高いレベルからである。これらの出土土器には阿玉台式、勝坂式、焼町類型、大木8a式の特徴をもつものがある。石器は磨石、打製石斧、スクレイバー等である。

#### D-48号土坑 (Fig. 6・10, Tab. 4, PL. 10)

A区、X 107、Y 137 グリッド。平面形は円形、断面形状は袋状である。上位から下位にかけてはほぼ垂直に掘り込まれ、底面付近でオーバーハングする。遺構は基本土層Ⅲ層中で検出した。残存深度は50cmで、掘り込みはIV層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅢ・IV層を主体とする。覆土上位から打製石斧、深鉢の破片（2）、底面直上から深鉢（1）が一個体出土した。（2）に新巻類型の特徴が見受けられる。

#### D-58号土坑 (Fig. 6・10, Tab. 4, PL. 2・10・16)

A区、X 106、Y 137 グリッド。平面形は円形、断面形状は台形状で、掘り込みは基本土層IV層まで及ぶ。遺構はⅢ層中で検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ層を主体とし、炭化物粒を多量に含む。覆土中位から底面にかけて出土した大型自然礫、剥片、深鉢の多くが被熱していた。底面付近から深鉢（2）一個体分の破片と、阿玉台Ⅲ式の特徴をもつ深鉢（1）が逆位状態で出土した。この深鉢は胴下部と突起の一部が欠けているのみで完形に近い。

#### D-61号土坑 (Fig. 6・10, Tab. 4, PL. 2・10)

A区、X 107、Y 133 グリッド。平面形は円形、断面形状は浅い箱型状で緩やかに立ち上がる。遺構はⅡ層中で検出した。埋没状態は人為埋没と想定され、埋没土は基本土層Ⅰ層と黒色土を主体とし、炭化物粒を多量に含む。覆土下位から底面にかけて出土した自然礫、小礫、剥片、深鉢の破片（1）の多くが被熱していた。

#### D-86号土坑 (Fig. 5・11, Tab. 5, PL. 14)

A区、X 100、Y 132 グリッド。平面形は梢円形、断面形状は碗型状で壁面は緩やかに立ち上がる。D-184と重複し、これより新しい。遺構は基本土層Ⅰ層下位で検出し、掘り込みはⅡ層まで及ぶ。埋没状態は人為埋没と想定され、埋没土はⅠ層を主体とし、覆土下位に炭化物粒を含む。遺構検出面で半分に割れた石皿（1）と深鉢の破片数点が出土した。

#### D-96号土坑 (Fig. 6・11, Tab. 5, PL. 10)

A区、X 105、Y 137 グリッド。平面形は円形、断面形状は碗型状で立ち上がりは緩やかである。遺構は基本土層Ⅲ層で検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ層を主体とする。覆土中位で壁面に寄りかかるようにして完形に近い浅鉢（1）が正位に近い状態で出土した。

#### D-119号土坑 (Fig. 5・11, Tab. 5, PL. 10)

A区、X 104、Y 132 グリッド。平面形はほぼ正円形、断面形状は浅い碗型状である。遺構は基本土層Ⅱ層で検出し、掘り込みはⅢ層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ層を主体とする。北東側に土坑に伴うとみられるピットを1基確認した。底面直上から浅鉢（1）が1点出土した。

#### D-123号土坑 (Fig. 11, Tab. 5, PL. 2・11)

A区、X 104、Y 134 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状、立ち上がりは急で片側はややオーバーハングする。遺構は基本土層Ⅲ層中で検出し、掘り込みはIV層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ・Ⅲ層を主体とする。覆土下位から大型の自然礫、小礫、深鉢の上部（1）が出土した。大型礫は遺構の壁面付近から、小礫は遺構の中央付近にまとまっていたり、立ち上がり付近に散っているものがみられた。土器は深鉢や浅鉢の破片で、礫の下面から出土している。

#### D-128号土坑 (Fig. 5・11, Tab. 5, PL. 11)

A区、X 103、Y 135 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状、立ち上がりは急で、片側はややオーバーハングする。遺構は基本土層Ⅲ層中で検出し、掘り込みはIV層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋

没土はⅢ層を主体とする。覆土中位から大型の自然礫、礫の下面から底面にかけて深鉢の破片（1）が出土した。  
D-129号土坑 (Fig. 5・11, Tab. 5, Pl. 11)

A区、X 103, Y 135 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺構は基本土層Ⅲ層で検出し、掘り込みはⅣ層まで及ぶ。埋没状態は人為的な埋没で、埋没土はⅢ層を主体とする。遺物はほぼ検出面である覆土上位と底面付近から出土している。覆土上位からは横位状態の深鉢（1・2）が2点、底面付近からは、磨石が2点出土した。少なくとも2期にわたって遺構が埋没したと考えられる。

D-193号土坑 (Fig. 5・13, Tab. 6, Pl. 2・12)

A区、X 102, Y 129 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状である。遺構は基本土層Ⅱ層で検出した。埋没状態は人為的な埋没で、埋没土はⅡ・Ⅲ層を主体とする非常にしまりの強い灰黄褐色土である。遺物は覆土上位から、横位状態の深鉢（1）、口縁部片（2）、底部付近まで沈線が入る深鉢の破片（3）が同レベルで出土した。覆土中位以下底面まで、遺物は少量である。

D-198号土坑 (Fig. 5・13, Tab. 6, Pl. 2・12・16)

A区、X 99, Y 132 グリッド。平面形は円形、断面形状は箱型状で上位から下位にかけてほぼ垂直に掘り込まれている。基本土層Ⅱ層で遺構を検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土は焼土や炭化物を多量に含む灰褐色土である。遺物は、底面直上で多量の土器片、石器とともに小礫が出土した。土器は深鉢3個体分の破片（1～3）が出土した。石器は磨石が1点、打製石斧が2点出土した。また、棒状の土製品（5）が1点あるが、器種は不明である。土器は阿玉台式、勝坂式、焼町類型の特徴をもつものがある。

D-218号土坑 (Fig. 6・13, Tab. 6)

A区、X 105, Y 129 グリッド。集石遺構。平面形は楕円形、断面形状は碗型状で底面にやや凹凸がみられる。遺構は基本土層Ⅰ層で検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅡ層を主体とする。土坑内には、約 66 × 77 cm の楕円形の範囲に直径 10 ~ 30 cm の礫や剥片が集中しており、このうち約 60% が焼石であった。集石の範囲は掘方のやや内側で収まっており、礫の並べ方は、形状と大きさによる凹凸はあるものの、上面は平坦に近い状態である。掘り込みは浅く集石の上面を含めて約 20 cm 程度で、Ⅲ層上面でとまる。焼土や炭化物の混入は確認できなかった。

D-219号土坑 (Fig. 6・13, Tab. 6, Pl. 2・13・17)

A区、X 105, Y 129 グリッド。集石遺構。平面形は円形、断面形状は碗型状で、底面にやや凹凸がみられる。基本土層のⅠ層で遺構を検出した。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅠ層を主体とし、径 3 ~ 5 cm のロームブロックを少量含む。焼土や炭化物は含まれていない。土坑内には直径 60 × 70 cm の範囲に径 10 ~ 20 cm の自然礫や剥片が集中しており、このうち 20% が焼石であった。底面が不明瞭であったため、基本土層Ⅲ層まで断ち割り調査を行った結果、掘り込みはⅡ層でおさまることが分かった。また、礫や剥片とともに深鉢の破片（1）が一個体分出土した。ほかの集石遺構 D-218・220・229・243 では土器はほとんど出土していない。

D-220号土坑 (Fig. 6・14, Tab. 6)

A区、X 106, Y 130 グリッド。集石遺構。平面形は楕円形、断面形状はやや深い碗型状である。掘り込みは浅く、D-218 と同様に 20 cm 程度である。基本土層Ⅰ層で遺構を検出し、掘り込みはⅡ層まで及ぶ。埋没状態は人為埋没と想定され、埋没土はⅠ層を主体としたローム粒を少量含む暗褐色土で、焼土や炭化物は含まれていない。土坑内には径 20 ~ 30 cm の自然礫や剥片が中央付近に集中しており、焼けた小礫も検出された。土器は出土していない。

D-228号土坑 (Fig. 5・9, Tab. 7, Pl. 1・12)

A区、X 104, Y 127 グリッド。平面形は円形、断面形状は浅い碗型状で緩やかに立ち上がる。遺構は基本土層Ⅰ層下位で検出し、掘り込みはⅢ層まで及ぶ。底面は細かな凹凸はあるものの全体的に平坦で、ややしまりが強い。人為的な埋没と想定され、遺構内でピットを 2 基検出した。炉と想定できる焼土範囲及び掘り込みは確認できない。

かた。出土遺物は、深鉢の破片（1）、浅鉢の破片（2）、打製石斧8点、棒状石器1点、礫石器10点、回石（3）2点、石皿（4）1点のほか、多量の剥片がある。出土遺物と遺構形態から堅穴建物跡である可能性が推測される。

#### D-229号土坑 (Fig. 6・9, Tab. 7)

A区、X 107、Y 130 グリッド。集石遺構。平面形は不整形な円形で、断面形状は碗型状で底面には凹凸がみられる。遺構は基本土層Ⅰ層中で検出した。J-5号堅穴建物跡と重複し、これより新しい。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土はⅠ層を主体とする。焼土や炭化物の混入は確認できなかった。土坑内では直径90×60 cmの範囲に径10～20 cmの自然縞や剥片が集中しており、そのうち約60%が被熱した縞であった。集石範囲の上面には平坦性があり、底面付近の集石の状態も同様である。掘り込みの底面が不明瞭であったため、基本土層Ⅲ層まで断ち割って断面観察を行った結果、土坑の底面はⅡ層中におさまることが分かった。

#### D-240号土坑 (Fig. 6・14, Tab. 7, Pl. 13・17)

A区、X 102、Y 129 グリッド。平面形は円形を呈し、断面形状は碗型状である。上面が攪乱と重複する。埋没状態は人為的な埋没と想定され、埋没土は基本土層Ⅰ・Ⅱ層を主体としており、掘り込みはⅢ層まで及ぶ。底面直上から、深鉢（1）がほぼ形状を保ったまま横位状態で出土した。胴下部から底部にかけては欠損している。胴部が土坑底面に接地しており、廻転される以前に欠損していたことが推測される。土器は阿玉台Ⅰa・Ⅱ式の特徴をもつ。

#### D-243号土坑 (Fig. 6・14, Tab. 7, Pl. 1)

A区、X 110、Y 136 グリッド。集石遺構。平面形はやや歪んだ楕円形を呈し、断面形状は不明である。J-4号堅穴建物跡と重複し、これを切る。当初はJ-4号堅穴建物跡内の遺物集中範囲と想定して掘削を進めていたが、縞の集中範囲と土坑の平面プランを確認したため、別の遺構と判断した。集石は主に直径15～30 cmの自然縞や剥片で、このうち約10%が被熱した縞であった。これらの中には磨石と石皿の端材が含まれており、縞は土坑の底面付近まで入っていた。時期を決定できる土器は出土しなかったが、ほかの集石遺構やJ-4との重複関係から、縞文時代中期中葉以降と想定される。

### 4 ピット (Fig. 5・6・13, Tab. 8・9, Pl. 1)

縞文時代中期中葉と想定されるピットは、A区で34基を検出した。これらのピットには、堅穴建物跡に伴うような配置や、掘立柱建物跡が想定される配置などは確認できなかった。ピットについては一覧表でまとめて報告する。

## 2 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、A区で堅穴建物跡3軒（H-4～6）、溝1条（W-7）、B区で堅穴建物跡3軒（H-1～3）、溝6条（W-1～6）、掘立柱建物跡1棟（B-1）、ピット29基、道路状遺構2条（A-1・2）を検出した。B区は調査区内への攪乱の影響が大きく、H-3付近で約30 cm、T-1付近で60 cm近く地山（基本土層Ⅲ層）が削平されている。

### 1 堅穴建物跡

#### H-1号堅穴建物跡 (Fig. 7・15, Pl. 3・4・18)

位置：A区、X 121・122、Y 131・132 グリッド。平面形状：方形と想定される。南東側を攪乱によって削平される。規模：5.19×4.24 m、残存深度61 cm。床面：ロームブロック・As-BPG・白色粘質土を混和した貼床で、しまりが非常に強く堅緻である。柱穴・貯蔵穴：完掘段階では検出できず、掘方調査で西隅と東隅で浅い掘り込みを2箇所確認した。カマド：基本土層Ⅱ～Ⅲ層を掘り込んで造設される。燃焼部・煙道部を掘り込み、袖部を掘り込んだのち、白色粘質土をレンガ状に成形したものを構築材として袖に使用している。左袖は残存していたが、右袖はカマド前面でブロック状に崩れていた。焼成部の横断面で、火床面と灰層をそれぞれ2層確認したため、

カマド内部の補修もしくは造り替えが行われた可能性がある。焼成部中央付近の覆土下位から銅製の丸鞘（2）が出土した。**遺構埋没状態**：人為的な埋没と想定される。遺構の北西側から南東側にかけては流入土が観察でき、最終的に擾乱によって削平されている。**遺物**：土師器坏（1）、銅製丸鞘（2）のほか、土師器の破片が数点出土した。**時期**：8世紀後半以降と想定される。

#### H-2号堅穴建物跡 (Fig. 7・16, PL. 3・18)

**位置**：A区、X 118・119、Y 133～135 グリッド。**重複**：擾乱とW-1号溝に切られる。**平面形状**：方形。**規模**：5.13 × 4.70 m、残存深度 62 cm。**床面**：ロームブロック・暗褐色土を混和した貼床で、しまりが非常に強く堅緻である。カマド前は特にしまりが強い。**柱穴・貯蔵穴**：検出されなかった。**カマド**：カマドは2基である。カマド1・2ともに東カマドで、W-1号溝及び擾乱によって一部が削平される。2基とも地山のII～III層を掘り込んで造設される。カマド1の袖部は地山の基部にロームブロックと白色粘質土の混和土で構築されていた。カマド2の袖はほとんど残存していない。カマド1・2の上場部分で、逆U字状に焼土・ロームブロック・白色粘質土の混和土を検出しており、構築材の一端とみられる。両カマドの煙道口付近と推定される場所から土師器壺の破片が出土した。カマド2の焼土範囲上面に、カマド1の焼土・炭化物の散在範囲と硬化面が広がっていたことから、カマド2→カマド1の順に使用していたと考えられる。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定され、ローム粒を含むII層を主体とする暗褐色土で埋没している。遺物は初期段階の埋没土に包含されている。**遺物**：主にカマド1の北側付近に集中しており、床面より5 cm程度高い位置から出土した。須恵器坏（3）、須恵器蓋（5）、土師器壺（6・7）、須恵器底部の転用硯（8）、砥石（9）などである。須恵器壺（4）は、埼玉県南比企産とみられるもので、床面上から出土した。**時期**：8世紀第3四半期頃と想定される。

#### H-3号堅穴建物跡 (Fig. 7・17, PL. 4・18)

**位置**：A区、X 119・120、Y 128～130 グリッド。**重複**：擾乱・D-1号土坑と重複し、これらに切られる。**平面形状**：長方形。**規模**：4.60 × 2.82 m、残存深度 16 cm。**床面**：全体的に硬化していたが、明確な貼床は確認できなかった。**柱穴・貯蔵穴**：カマドの北側と南側に貯蔵穴とみられる土坑を検出した。貯蔵穴1は78 × 62cm、深さ 24 cm、貯蔵穴2は81 × 63cm、深さ 26 cmである。主柱穴と判断できるピットは検出されなかった。**カマド**：東カマドである。擾乱とD-1によって両袖の上面と右袖が切られるが、左袖は部分的に残存していた。火床面は不明瞭であった。**遺構埋没状態**：遺構上面のはほとんどを擾乱によって削平されており、遺構の残存深度は10 cm前後である。埋没土は焼土・ローム粒を含む黄褐色土で、床面もしくは掘方内の埋没土であることが推定される。**遺物**：貯蔵穴1からカマドの構築材、須恵器片が出土した。貯蔵穴2から灰釉陶器（1）、カマド内から鎌の刃先（2）、床面上から台石（3）が出土した。**時期**：9世紀前半と想定される。

#### H-4号堅穴建物跡 (Fig. 5・17, PL. 3・18)

**位置**：A区、X 105、Y 128・129 グリッド。**平面形状**：方形。**規模**：2.80 × 2.19 m、残存深度 26 cm。**床面**：他の堅穴建物跡のような硬化した貼床は検出されなかった。しまりはあるものの、床面は全体的に凹凸があり、中央に細長い楕円形の掘り込みを検出した。**柱穴・貯蔵穴**：南西端と南東端に貯蔵穴とみられる土坑を検出した。貯蔵穴1は62 × 56cm、深さ 21 cm、貯蔵穴2は34 × 38cm、深さ 41 cmである。貯蔵穴1の脇から壁の立ち上がりにかけて、焼土と炭化物が少量混入する白色粘質土の塊が検出された。主柱穴と判断できるピットは検出されなかった。**カマド**：東カマドである。天井部・袖部はほとんど破壊されていた。左袖の一部が残存している。**遺構埋没状態**：上位～中位は自然埋没、下位は人為的な埋没と想定される。**遺物**：遺構中央の掘り込み付近から、2点の墨書き土器（1・2）、貯蔵穴から土師器坏が出土した。**時期**：9世紀第4四半期～10世紀初頭と想定される。

#### H-5号堅穴建物跡 (Fig. 5・18, PL. 3・18)

**位置**：A区、X 101・102、Y 128・129 グリッド。**平面形状**：方形。**規模**：5.84 × 4.15 m、残存深度 87 cm。**床面**：ロームブロックと黒色土を混和した貼床で、非常にしまりが強く堅緻である。カマド前は特に硬化していた。南西側にかけて床面が5～7 cm程度高くなる。出入口もしくは間仕切りとしての役割があった可能性も考慮

えられる。また遺構中央のやや南寄りから、上面が平坦な台石を検出した。断ち割りを行った結果、掘方段階で据えてから、貼床をしていたことが分かった。**柱穴・貯蔵穴**：カマド南側から深さ72cmのD1を検出した。D1の北側にD2・D3、西側にD4があり、D3・D4は床下土坑とみられる。D1は基本土層VI層の白色粘質土層まで掘り込まれており、覆土下位はこの白色粘質土層が堆積していたことから、粘質土を採集するための土坑であった可能性が考えられる。D2は上面にカマドの構築材とみられる粘質土が広がっていた。D3・D4はローム粒・焼土粒・炭化物粒を含んだ土で埋められており、上面には貼床が及んでいた。**カマド**：東カマドである。残存する煙道部から火床面の窪みの端まで1.6m、火床面からの上面までの高さが0.6mである。天井部が一部残存しており、煙道の先端部は擾乱に切られるものの、煙出口の一部を確認することができた。右袖が一部残存していた。袖部は地山であるソフトローム（基本土層II層）を掘り込み、掘り残した袖の基部に自然縫を立て、白色粘質土と黒色粘質土で構築する。**遺構埋没状態**：人為的な埋没と想定される。上位はII層を主体とする暗褐色土、下位はロームブロック主体の黄褐色土で埋没している。**遺物**：墨書き器（1）と灰釉陶器（4）は壁周溝付近の床面、コモ編石（8）は台石と隣接して床面上から出土した。**時期**：9世紀後半と想定される。

#### H-6号窓穴建物跡 (Fig. 5・19, PL. 3・19)

**位置**：A区、X 100・101、Y 134・135グリッド。**平面形状**：方形。**規模**：4.96 × 3.81 m、残存深度45～50cm。**床面**：ロームブロックと黒色土を混和した貼床で、中央付近が特にしまりの強い硬化面であった。**柱穴・貯蔵穴**：検出した6基のビットのうち、P4・6は掘り込みが明瞭で柱穴の可能性が考えられる。カマド南側に貯蔵穴とみられる土坑を検出した。**カマド**：東カマドである。地山であるハードローム（基本土層III層）を掘り込んでいる。全長1.45m、下幅0.5mである。カマドの前面に天井部の構築材とみられる切り石が崩落していた。灰白色を呈する凝灰岩質砂岩で、被熱による赤化が顕著であった。カマド燃焼部付近の上面に黒色粘質土が張り付けられており、構築材の一部とみられる。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定され、上位はII層主体、下位はロームブロックを主体とする暗褐色土で埋没している。**遺物**：土師器壺（3）が貯蔵穴内から出土した。土師器壺（1・2）は貯蔵穴が埋まつたあと廃棄されたものとみられる。須恵器壺（4）、短頸壺（7）は床面上から出土し、短頸壺はカマド正面に正位状態で置かれていた。**時期**：8世紀第2・3四半期と想定される。

## 2 窓穴状遺構

#### T-1号遺構 (Fig. 7・20・21, PL. 4・18)

**位置**：A区、X 117・118、Y 131～133グリッド。**平面形状**：隅丸方形と想定される。**重複**：擾乱、W-4・W-6号溝と重複し、これらより旧い。**規模**：4.60 × 2.82 m、残存深度16cm。**床面**：掘り込みは基本土層IV層まで及ぶ。中央付近に平坦性はあるものの、貼床と明瞭な硬化面は検出されなかった。中央付近から縁辺に向かって緩やかに立ち上がる。**柱穴**：遺構内では3基のビットを確認した。埋没土と検出状況から遺構に伴うことが想定されるが、底面に礫や硬化部などではなく、P3はD3のすぐ脇で検出されているため、これらを主柱穴とする確証は得られなかった。P1の底面からは灰の塊と炭化物を検出した。**炉跡**：中央からやや北寄りの場所に1基検出した。炉上面には流入土とともに被熱痕跡の認められる自然礫が5石並んでおり、これらの下面から火床面を検出した。礫の中には鍛冶滓の付着した金床石（14）とみられるものがあった。炉はIV層を掘り込んだ地床炉で、中央付近が特に赤化していた。**遺構埋没状態**：人為的な埋没と想定される。遺構内のD1～5と窓穴遺構内の埋没土に大きな差異はなく、堆積状況や遺物出土状況などから、土坑を含めて一体的に埋没した過程が考えられる。埋没土はI・II層を主体とし、ロームブロック・ローム粒を含む。特に遺構の北西側、中央付近の埋没土には多量の鍛冶滓が含まれていた。**遺物**：遺物は主に遺構の北側を中心に出した。北西側には碗型鍛冶滓（9・10）などの遺物が上位から床面まで集中しており、D1から須恵器壺（2）、D5から須恵器壺（3）、D2からは花崗岩とみられる金床石の端材が出土地。再結合滓（13）は東側の立ち上がり付近の床面出土である。

また、D 1～3・5内の埋没土の箇と水洗を行った結果、砂鉄・鍛造刹片・粒状滓を検出した。時期：9世紀前半頃と想定される。

### 3 挖立柱建物跡

#### B-1号建物跡 (Fig. 7・21, PL. 4)

10基の柱穴 (P-1～10) から構成される。それぞれの配置から2間×3間の掘立柱建物跡とみられる。棟持柱と想定されるピットは検出されなかつた。柱穴の計測値は一覧表で報告する。

### 4 土坑 (Fig. 5～7, Tab. 4～7)

繩文時代以外の土坑はA区で89基、B区で10基、計99基を検出した。いずれも明確な時期は不明であり、確実に奈良・平安時代と想定される土坑は検出されていない。B区で確認した土坑は絶じて円形で残存深度が5～10cmであった。A区では同様の埋没土の特徴をもつ土坑が検出されており、掘り込みが50cm以上のものもある。B区で検出した土坑も、本来はこれらの土坑と同程度の掘り込みをもっていた可能性が考えられる。

### 5 ピット (Fig. 5～7, Tab. 8・9)

奈良・平安時代に帰属すると想定されるピットは、B-1号掘立柱建物跡の柱穴を除き、A区で5基、B区29基、計34基を検出した。時期の決定が困難であったピットは時期不明とし、A区で150基を確認した。ピットについては一覧表でまとめて報告する。

### 6 溝状遺構 (Fig. 5～7, Tab. 2, PL. 4)

溝状遺構はA区で1条、B区で5条、計6条を検出した。B区のW-1～6号溝は遺構の重複関係と埋没土の特徴から、奈良・平安時代以降に帰属することが推測される。A区のW-7号溝は上面が削平されており、部分的な検出であった。各遺構の計測値は一覧表で報告する。

### 7 道路状遺構 (Fig. 7, Tab. 3)

B区の南東端で並行する2条の道路状遺構を検出した。調査区の端部であったため部分的に調査を行った。遺構の平面形態は、灰黄褐色を呈する硬化面でやや鉄分が沈着する。硬化面の厚みは2～5cmであった。2条は重複しておらず、両側に溝や高まり等は検出されなかつた。配置や硬化面の状態から、A-1・A-2号道路状遺構はほぼ同時期に機能していたとみられる。遺構に伴う遺物はほとんど出土しておらず、甕の破片が数点である。出土遺物から平安時代以降と想定される。B区北東から南東部にかけては基本土層II層以下から落ち込みが始まるため、東側に谷地があると考えられる。道路状遺構の計測値は一覧表でまとめて報告する。

Tab. 2 奈良・平安時代 溝状遺構一覧表

遺構	区	位置	検出長(m)	検出幅(m)	残存深度(cm)	主軸方位	断面	重複	時期
W-1	B区	X117, Y134～X121, Y134	16.52	0.59～0.85	28	N-79°～W	縦型	H-2・P-11と重複し、これを切る。	平安時代以降
W-3	B区	X119, Y130～X122, Y130	12.55	0.61～0.94	23	N-84°～E	縦型	D-5・P-12と重複し、これらを切る。	平安時代以降
W-4	B区	X118, Y133～X120, Y133	10.4	0.56～1.04	27	N-69°～W	縦型	T-1・W-6と重複し、これらを切る。	平安時代以降
W-5	B区	X118, Y130～X123, Y130	30.72	1.04～1.6	25	N-85°～E	縦型	W-4と重複し、これに切られる。	平安時代以降
W-6	B区	X118, Y132～X118, Y134	7.28	0.70～0.81	10	N-3°～E	縦型	W-4より側面は削平を受ける。	平安時代以降
W-7	A区	X102, Y127～X107, Y127	16.18	0.43～0.73	20	N-68°～E	縦型	側面より表面は削平を受けており、中央付近は一部連絡する。	平安時代以降

Tab. 3 奈良・平安時代 道路状遺構一覧表

遺構	区	位置	検出長(m)	検出幅(m)	主軸方位	時期
A-1	B区	X120～121, Y133～135	6.27	0.24～0.82	N-45°～E	平安時代以降
A-2	B区	X120～121, Y135～136	3.25	0.24～0.82	N-48°～E	平安時代以降

Tab. 4 土坑一覧表(1)

添( )は残存値を示す

調査区	番号	道標位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	平面	断面	覆土	時期	備考
B区	D-1	X120, Y129	186	99	26	円形	箱型	A		
B区	D-2	X120, Y129	95	82	10	円形	箱型	A		
B区	D-3	X121, Y130	96	93	14	円形	箱型	A		
B区	D-4	X120, Y130	103	97	19	円形	箱型	A		
B区	D-5	X120, Y130	113	(56)	6	円形	箱型	A		
B区	D-6	X122, Y131	81	71	14	円形	箱型	A		
B区	D-7	X119, Y133	89	(84)	6	円形	箱型	A		
B区	D-8	X120, Y132	95	67	14	不整円形	箱型	A		
B区	D-12	X122, Y133	94	85	17	円形	箱型	A	P-13・14と重複	
A区	D-13	X104, Y130	98	102	43	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-14	X106, Y129	93	79	6	円形	U字型	-	縄文時代中期中葉	集石土坑
A区	D-15	X106, Y128	96	89	27	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-16	X106, Y128	117	(115)	10	円形	箱型	A		
A区	D-17	X107, Y128	121	107	16	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-19	X109, Y136	95	77	12	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
B区	D-20	X119, Y125	96	67	55	円形	箱型			
A区	D-21	X109, Y128	85	73	31	不整円形	箱型	B		
A区	D-22	X109, Y137	162	136	39	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-23	X109, Y137	73	68	22	不整円形	箱型	D		
A区	D-24	X109, Y138	134	98	52	椭円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-25	X109, Y136	90	94	26	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-26	X109, Y136	94	55	31	椭円形	箱型	B		
A区	D-27	X108, Y136	106	100	33	円形	箱型	B		
A区	D-28	X109, Y136	102	104	30	円形	箱型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-29	X109, Y136	119	(79)	29	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-30	X108, Y137	99	90	15	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-31	X108, Y137	300	231	44	椭円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	D-30と重複
A区	D-32	X108, Y137	98	841	53	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	D-30と重複
A区	D-33	X108, Y137	90	77	22	不整円形	箱型	B		
A区	D-34	X108, Y138	100	106	92	円形	袋状	C		
A区	D-36	X108, Y137	64	62	42	円形	U字型	D		
A区	D-37	X108, Y137	144	112	34	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-38	X108, Y137	141	111	27	円形	箱型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-39	X107, Y128	60	(63)	7	円形	箱型	B		
A区	D-40	X109, Y135	121	114	47	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-41	X108, Y134	123	122	37	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-42	X107, Y135	109	100	45	円形	袋状	B		底面にピット
A区	D-43	X107, Y135	104	(86)	21	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-44	X107, Y135	108	95	40	円形	箱型	B		
A区	D-45	X108, Y135	56	58	49	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-46	X107, Y136	104	93	67	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-47	X108, Y136	110	109	38	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-48	X107, Y137	110	104	50	円形	袋状	B		
A区	D-49	X107, Y137	78	76	33	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-50	X107, Y138	91	79	25	円形	箱型	B		
A区	D-51	X107, Y137	96	69	50	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-52	X107, Y137	48	42	24	椭円形	箱型	B		
A区	D-53	X107, Y137	69	54	42	椭円形	箱型	B		
A区	D-54	X107, Y135	96	94	78	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-55	X107, Y135	91	841	28	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	底面にピット
A区	D-56	X106, Y135	76	60	15	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-57	X106, Y135	45	40	14	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-58	X106, Y137	109	107	37	円形	箱型	C	縄文時代中期中葉	D-59と切る。
A区	D-59	X106, Y137	94	87	55	円形	箱型	D	D-58に切られる。	
A区	D-60	X108, Y133	56	52	31	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-61	X107, Y133	98	90	18	円形	箱型	-		
A区	D-62	X106, Y134	114	109	44	円形	箱型	D	縄文時代中期中葉、中央下層で土器がまとまって出土	
A区	D-63	X106, Y135	99	98	52	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-64	X106, Y135	115	113	67	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	P-79と重複
A区	D-65	X106, Y135	130	130	78	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	剥片
A区	D-66	X106, Y135	105	84	39	円形	箱型	D		
A区	D-67	X106, Y135	102	92	95	円形	U字型	-	縄文時代中期中葉	P-106と重複
A区	D-68	X106, Y134	59	55	1	円形	箱型	-		底面不整形
A区	D-69	X106, Y135	80	87	23	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	D-70と重複
A区	D-70	X106, Y135	132	129	57	円形	箱型	D	D-69と重複	
A区	D-71	X106, Y139	103	96	28	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-72	X105, Y139	90	85	31	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-73	X108, Y129	126	118	13	円形	箱型	-		
A区	D-74	X107, Y129	92	79	175	円形	箱型	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-75	X108, Y130	70	57	21	椭円形	箱型	B		
A区	D-76	X108, Y130	52	47	43	円形	箱型	-		
A区	D-77	X108, Y130	75	75	20	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	

## 【土坑の覆土分類】

A・黒色土・白色粒・焼土・炭化物粒を含む。しまりあり。粘性あり。B・灰黄色土色。炭化物粒・黄色粒を多量に含む。しまり非常に強い。粘性弱い。C・灰褐色土色。炭化物粒・焼土粒を多量に含む。しまり強い。粘性あり。遺物を多量に包含する。D・暗褐色土。白色粒・炭化物粒を少量、ソフトロームを多量に含む。しまりあり。粘性あり。

Tab. 5 土坑一覧表（2）

※（ ）は残存値を示す

調査区	番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	平面	断面	覆土	時期	備考
A区	D-78	X109, Y130	107	83	20	不整円形	凹凸	A		
A区	D-79	X110, Y130	(115)	(37)	12	楕円形	U字型	A	D-78+P-220+P-221と重複	
A区	D-80	X112, Y136	129	111	23	円形	碗型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-81	X106, Y132	107	94	24	円形	碗型	D		
A区	D-82	X107, Y132	65	60	20	円形	箱型	-	P-112と重複	
A区	D-83	X106, Y131	106	101	51	円形	-	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-84	X106, Y131	117	110	9	円形	箱型	B		
A区	D-85	X105, Y132	84	80	23	円形	碗型	B		
A区	D-86	X100, Y132	103	74	32	円形	U字型	D	縄文時代中葉	D-184を切る。
A区	D-87	X106, Y134	86	82	19	円形	碗型	D		
A区	D-88	X105, Y134	69	67	17	円形	碗型	B		
A区	D-89	X105, Y134	112	107	47	円形	碗型	D	縄文時代中期中葉	P-121と重複
A区	D-90	X105, Y135	196	150	67	円形	碗型	-	縄文時代中期中葉～後 期	D-90+92と重複
A区	D-91	X105, Y135	(97)	99	50	円形	碗型	-	縄文時代中期中葉	D-90+92と重複
A区	D-92	X105, Y135	57	54	11	円形	碗型	-		D-90+91と重複
A区	D-93	X105, Y135	174	140	55	不整円形	箱型	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-94	X105, Y135	98	93	39	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-95	X105, Y135	104	100	41	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-96	X105, Y137	109	106	38	円形	U字型	B		
A区	D-97	X105, Y138	80	(70)	28	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-98	X105, Y139	69	(65)	53	円形	碗型	-		
A区	D-100	X106, Y131	65	57	32	円形	箱型	-		
A区	D-101	X105, Y131	106	100	38	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-104	X105, Y131	145	136	46	円形	箱型	-	縄文時代中期中葉	横円形土坑と重複
A区	D-106	X105, Y134	42	39	36	円形	箱型	D		
A区	D-107	X104, Y134	88	72	23	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-108	X104, Y135	137	123	35	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-109	X104, Y135	94	104	36	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-110	X104, Y136	147	122	72	円形	袋状	D	縄文時代中期中葉	
A区	D-111	X104, Y136	88	65	39	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-112	X104, Y135	86	78	26	円形	碗型	B		
A区	D-113	X105, Y130	72	62	15	不定形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-114	X105, Y131	97	(71)	20	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-115	X105, Y131	87	59	32	円形	碗型	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-116	X105, Y132	123	106	47	円形	碗型	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-117	X108, Y137	(78)	(47)	31	円形	碗型	B		
A区	D-118	X104, Y132	96	95	28	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-119	X104, Y132	232	224	24	円形	箱型	B		
A区	D-121	X104, Y132	92	86	39	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	底面にピット
A区	D-122	X103, Y133	65	61	29	円形	碗型	B		
A区	D-123	X104, Y134	99	112	60	円形	袋状	B		下層～底面に繩
A区	D-124	X103, Y134	95	87	41	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-125	X103, Y134	76	74	25	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-126	X104, Y135	84	(23)	13	円形	碗型	B		
A区	D-127	X103, Y135	105	90	42	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-128	X103, Y135	121	106	59	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-129	X103, Y135	124	108	66	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-130	X103, Y137	103	101	18	円形	碗型	B		
A区	D-131	X103, Y131	107	106	36	円形	箱型	A		
A区	D-132	X103, Y131	136	134	63	円形	袋状	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-133	X103, Y132	90	85	36	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-134	X103, Y132	131	115	70	円形	箱型	B		
A区	D-135	X102, Y132	52	47	15	円形	碗型	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-136	X102, Y132	128	109	67	円形	袋状	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-138	X103, Y132	89	47	45	楕円形	U字型	-		
A区	D-139	X105, Y131	70	70	24	円形	U字型	-		
A区	D-140	X102, Y133	121	98	37	円形	碗型	B		
A区	D-141	X103, Y133	106	(71)	24	円形	碗型	B		
A区	D-142	X105, Y133	126	84	44	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-143	X103, Y133	69	(39)	22	円形	碗型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-144	X103, Y134	77	(29)	26	円形	碗型	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-145	X103, Y134	82	53	12	不整円形	箱型	-		
A区	D-146	X103, Y134	98	67	28	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-147	X102, Y134	104	91	55	円形	袋状	D	縄文時代中期中葉	前期初頭・花植下層

## 【土坑の覆土分類】

- ▲…黑色土・白色土・褐色土・桃土・炭化物粒を含む。しまりあり。粘性あり。  
 □…灰褐色土・褐色土・炭化物粒・黄色土を多量に含む。しまり多い。粘性あり。  
 ◎…褐色土・灰褐色土・炭化物粒・多量に含む。しまり多い。粘性あり。  
 ○…暗褐色土・白色土・炭化物粒を多量に含む。しまりあり。粘性あり。

Tab. 6 土坑一覧表(3)

※( )は残存値を示す

調査区	番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	平面	断面	覆土	時期	備考
A区	D-148	X102, Y134	90	85	48	円形	縫型	D	縄文時代中期中葉	前期前葉:門山II
A区	D-149	X99, Y132	134	124	91	円形	袋状	D	縄文時代中期中葉	前期初頭:花植下層1
A区	D-151	X102, Y134	164	119	71	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-152	X103, Y135	120	119	75	円形	縫型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-153	X104, Y134	120	92	49	円形	袋状	D		片側が膨らむ
A区	D-154	X102, Y135	103	102	70	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-155	X101, Y135	104	80	24	円形	縫型	B		北陸系の土器片
A区	D-157	X104, Y128	125	98	60	橢円形	縫型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-158	X105, Y132	46	46	50	橢円形	凹凸	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-160	X101, Y135	89	120	26	円形	縫型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-161	X104, Y126	103	102	34	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-162	X103, Y127	75	59	18	橢円形	縫型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-163	X100, Y130	85	86	21	橢円形	縫型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-164	X103, Y127	77	71	28	橢円形	縫型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-165	X104, Y132	66	60	64	円形	-	B		
A区	D-166	X104, Y132	99	79	35	円形	箱型	B		
A区	D-167	X102, Y129	101	101	24	円形	縫型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-168	X102, Y130	154	130	59	円形	箱型	B		
A区	D-169	X102, Y130	153	(152)	96	円形	縫型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-170	X101, Y130	91	66	36	円形	U字型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-171	X101, Y130	146	134	48	円形	縫型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-173	X102, Y131	149	133	53	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-175	X101, Y130	63	58	42	円形	U字型	B		
A区	D-176	X100, Y130	101	78	38	円形	縫型	A		
A区	D-177	X100, Y130	102	(66)	21	(不整円形)	縫型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-178	X101, Y129	137	129	36	円形	縫型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-179	X111, Y137	72	72	27	橢円形	凹凸	-		
A区	D-180	X101, Y130	143	121	42	円形	縫型	A	縄文時代中期中葉	底面にビット。
A区	D-181	X100, Y131	130	115	79	円形	箱型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-182	X104, Y130	139	84	26	(橢円形)	縫型	B		
A区	D-183	X101, Y132	94	89	43	円形	縫型	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-184	X100, Y132	117	(67)	56	円形	箱型	B		
A区	D-186	X100, Y131	101	82	17	円形	縫型	A		
A区	D-187	X99, Y132	76	70	21	円形	縫型	A		
A区	D-188	X99, Y132	66	(52)	25	円形	縫型	D		北側にカクラン
A区	D-189	X99, Y132	97	(61)	32	円形	縫型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-190	X99, Y132	73	(59)	20	円形	U字型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-191	X100, Y132	108	122	41	円形	縫型	D	縄文時代中期中葉	P-231を切る。
A区	D-192	X102, Y129	108	98	45	円形	袋状	C	縄文時代中期中葉	
A区	D-193	X102, Y129	106	103	44	円形	縫型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-194	X110, Y138	148	129	82	円形	縫型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-195	X99, Y132	116	98	84	円形	縫型	B	縄文時代中期中葉	D-189・212・149と重複。
A区	D-197	X102, Y132	93	(73)	63	円形	縫型	B	縄文時代中期中葉	D-136に切られる。
A区	D-198	X100, Y132	129	110	69	円形	縫型	C		
A区	D-199	X111, Y137	98	44	14	橢円形	凹凸	-	縄文時代中期中葉	
A区	D-200	X101, Y133	138	125	85	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-201	X101, Y134	137	126	86	円形	縫型	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-202	X102, Y133	79	57	26	円形	縫型	B		底面にビット
A区	D-203	X111, Y137	73	59	43	円形	縫型			
A区	D-204	X100, Y134	118	83	26	橢円形	縫型	A		
A区	D-205	X99, Y134	81	64	15	円形	縫型	A		
A区	D-208	X99, Y133	103	90	73	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	
A区	D-209	X99, Y135	72, 5	70, 8	37, 6	円形	-	-		
A区	D-211	X110, Y138	77	(62)	28	円形	縫型	D	縄文時代中期中葉	
A区	D-212	X99, Y132	139	125	94	円形	袋状	D		
A区	D-213	X99, Y136	85	71	25	円形	縫型	A		
A区	D-216	X105, Y129	94	(66)	4	円形	U字型	A		
A区	D-217	X106, Y128	99	99	8	円形	箱型	A	縄文時代中期中葉	
A区	D-218	X105, Y129	120	91	20	橢円形	縫型	C	縄文時代中期中葉	集石土坑
A区	D-219	X105, Y129	100	96	30	円形	箱型	C	縄文時代中期中葉	集石土坑
A区	D-220	X106, Y130	82	71	27	円形	縫型	C	縄文時代中期中葉	集石土坑
A区	D-221	X109, Y131	94	51	42	不整円形	U字型	-		
A区	D-222	X109, Y131	91	72	30	橢円形	U字型	D		
A区	D-223	X110, Y130	86	78	21	円形	U字型	B		
A区	D-224	X110, Y130	59	57	24	円形	縫型	-		

## 【土坑の覆土分類】

A…褐色土・白色粒・燒土・炭化物粒を含む。しまりあり。粘性あり。B…灰褐色粘土。炭化物粒・黄色粒を多量に含む。しまり非常に強い。粘性弱い。C…灰褐色土・炭化物粒・焼土粒を多量に含む。しまり強い。粘性あり。還物を多量に包含する。D…暗褐色土。白色粒・炭化物粒を少量。ソフトロームを多量に含む。しまりあり。粘性あり。

Tab. 7 土坑一覧表(4)

調査区	番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	平面	断面	覆土	時期		備考
									U字型	縦	
A区	D-225	X109, Y129	93	84	38	円形	U字型	-	縄文時代中期中葉	P-226と重複	
A区	D-226	X109, Y129	87	(76)	26	円形	縦型	-		P-225と重複	
A区	D-227	X110, Y130	140	85	23	不規形	凹凸	A	縄文時代中期中葉		
A区	D-228	X104, Y127	281	271	37	円形	縦型	B	縄文時代中期中葉		
A区	D-229	X107, Y129	61	(34)	32	円形	U字型	A	縄文時代中期中葉	集石土坑	
A区	D-230	X104, Y130	138	125	80	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉		
A区	D-231	X104, Y131	206	152	79	円形	袋型	B	縄文時代中期中葉		
A区	D-232	X101, Y130	127	123	26	円形	縦型	B	縄文時代中期中葉	底面にピット。	
A区	D-233	X102, Y129	87	73	38	円形	縦型	B			
A区	D-234	X104, Y130	99	94	53	円形	縦型	B	縄文時代中期中葉	J-3と重複	
A区	D-235	X105, Y130	123	109	77	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	J-3に切られる。	
A区	D-236	X103, Y134	161	97	67	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉	0-14%に切られる。B-144と重複。	
A区	D-237	X110, Y138	144	(105)	21	円形	縦型	B	縄文時代中期中葉		
A区	D-238	X108, Y136	117	103	57	円形	袋状	B	縄文時代中期中葉		
A区	D-239	X103, Y132	78	76	47	円形	縦型	C	縄文時代中期中葉		
A区	D-240	X102, Y129	97	91	46	円形	縦型	D	縄文時代中期中葉		
A区	D-241	X111, Y137	95	85	19	円形	U字型	B			
A区	D-242	X112, Y138	83	(46)	27	円形	縦型	B			
A区	D-243	X110, Y36	114, 4	79, 3	-	格形	縦型	C	縄文時代中期中葉	集石土坑。J-4と重複。	
A区	D-244	X105, Y134	71	56	45	円形	縦型	B	縄文時代中期中葉		
A区	D-245	X134, Y102	(69)	(69)	(45)	不規形	縦型	D	縄文時代中期中葉		
A区	D-246	X102, Y134	79	(60)	(11)	不規形	縦型	D			

D = 9, 10, 18, 35, 99, 105, 102, 103, 105, 120, 137, 159, 156, 159, 172, 174, 185, 196, 206, 207, 210, 214, 215は欠番。

## 【土坑の覆土分類】

A…高砂、白砂粒、焼土・焼土化物粒を含む。しまりあり。粘性あり。  
 B…灰黄褐色土。炭化物粒・黄色粒を多量に含む。しまり非常に強い。粘性弱。  
 C…灰褐色土。炭化物粒、後土粒を多量に含む。しまり強い。粘性あり。遺物を多量に包含する。  
 D…暗褐色土。白色粒・炭化物粒を中量、ソフロマムを多量に含む。しまりあり。粘性あり。

Tab. 8 ピット一覧表(1)

調査区	番号	位置	長径 [m]	短径 [m]	深度 [m]	時期	調査区	番号	位置	長径 [m]	短径 [m]	深度 [m]	時期
B区	P-12	X120, Y130	36	37	19	奈良・平安時代	A区	P-55	X109, Y135	32	30	20	
B区	P-13	X122, Y133	68	36	28	奈良・平安時代	A区	P-56	X109, Y136	53	44	20	
B区	P-14	X122, Y133	26	23	26	奈良・平安時代	A区	P-57	X108, Y136	35	34	23	
B区	P-15	X121, Y134	49	44	38	奈良・平安時代	A区	P-58	X109, Y136	32	32	25	
B区	P-16	X120, Y134	39	(31)	56	奈良・平安時代	A区	P-59	X109, Y136	25	22	33	
B区	P-17	X121, Y134	42	(36)	33	奈良・平安時代	A区	P-60	X109, Y136	37	(12)	9	
B区	P-18	X121, Y132	41	27	40	奈良・平安時代	A区	P-61	X109, Y137	41	34	18	調文時代中期中葉
B区	P-19	X121, Y132	28	27	53	奈良・平安時代	A区	P-62	X109, Y137	46	35	68	
B区	P-20	X121, Y134	54	51	36	奈良・平安時代	A区	P-63	X109, Y138	59	48	20	
B区	P-21	X121, Y133	53	46	35	奈良・平安時代	A区	P-64	X108, Y137	38	33	74	
B区	P-22	X121, Y133	47	44	42	奈良・平安時代	A区	P-65	X108, Y137	44	40	44	
B区	P-23	X121, Y134	59	(43)	16	奈良・平安時代	A区	P-66	X109, Y134	42	28	37	
B区	P-24	X121, Y134	52	(43)	16	奈良・平安時代	A区	P-67	X109, Y134	47	40	36	
B区	P-25	X120, Y135	47	42	32	奈良・平安時代	A区	P-68	X107, Y137	63	59	48	調文時代中期中葉
B区	P-26	X120, Y135	53	36	30	奈良・平安時代	A区	P-69	X108, Y135	59	34	35	
B区	P-27	X121, Y134	43	46	30	奈良・平安時代	A区	P-70	X108, Y135	49	44	8	
B区	P-28	X121, Y134	79	55	39	奈良・平安時代	A区	P-71	X129, Y102	48	38	29	調文時代中期中葉
B区	P-29	X121, Y134	56	56	29	奈良・平安時代	A区	P-72	X108, Y134	37	33	43	
B区	P-30	X121, Y134	49	36	37	奈良・平安時代	A区	P-73	X108, Y134	44	34	68	
B区	P-31	X120, Y134	33	31	29	奈良・平安時代	A区	P-74	X108, Y134	24	25	46	
B区	P-32	X118, Y132	50	32	13	奈良・平安時代	A区	P-75	X108, Y134	26	24	75	
B区	P-33	X118, Y132	44	35	20	奈良・平安時代	A区	P-76	X107, Y135	36	34	53	
B区	P-34	X120, Y132	27	27	42	奈良・平安時代	A区	P-77	X108, Y137	38	38	30	
B区	P-35	X120, Y132	51	44	16	奈良・平安時代	A区	P-78	X103, Y126	32	31	19	調文時代中期中葉
B区	P-36	X120, Y131	52	52	17	奈良・平安時代	A区	P-79	X107, Y136	43	(29)	47	
B区	P-37	X119, Y130	37	35	62	奈良・平安時代	A区	P-80	X107, Y137	60	47	39	
B区	P-38	X119, Y130	37	25	17	奈良・平安時代	A区	P-82	X107, Y137	49	42	37	
B区	P-39	X121, Y134	31	(23)	53	奈良・平安時代	A区	P-84	X107, Y138	44	39	39	
B区	P-41	X121, Y130	39	33	36	奈良・平安時代	A区	P-85	X105, Y135	47	36	46	調文時代中期中葉
A区	P-42	X112, Y137	38	38	11	調文時代中期中葉	A区	P-86	X107, Y137	29	29	44	
A区	P-43	X112, Y137	29	29	10		A区	P-87	X107, Y137	35	29	61	
A区	P-44	X112, Y137	-	-	0		A区	P-88	X107, Y137	29	28	47	
A区	P-45	X112, Y137	-	41	6	調文時代中期中葉	A区	P-89	X107, Y137	28	26	59	
A区	P-46	X112, Y137	(29)	39	17	調文時代中期中葉	A区	P-90	X106, Y135	48	41	30	
A区	P-48	X110, Y138	60	45	29	調文時代中期中葉	A区	P-92	X106, Y137	60	54	11	
A区	P-49	X110, Y138	32	25	54		A区	P-93	X107, Y136	59	48	20	
A区	P-50	X110, Y135	49	39	34		A区	P-95	X106, Y135	32	30	47	
A区	P-51	X110, Y135	48	42	31		A区	P-96	X106, Y136	59	35	40	
A区	P-52	X109, Y134	60	49	23		A区	P-97	X107, Y134	46	38	49	
A区	P-53	X109, Y135	36	34	23		A区	P-98	X104, Y132	43	37	64	
A区	P-54	X109, Y135	37	32	31		A区	P-99	X107, Y134	53	41	53	

Tab. 9 ピット一覧表(2)

調査区	番号	位置	長径 [m]	短径 [m]	深さ [m]	時期	※ ( ) は残存値を示す						
							調査区	番号	位置	長径 [m]	短径 [m]	深さ [m]	時期
A区	P-100	X107, Y134	39	32	32		A区	P-176	X100, Y133	56	47	88	縄文時代中期中集
A区	P-101	X104, Y127	39	34	39	9世紀	A区	P-177	X102, Y130	59	40	70	縄文時代中期中集
A区	P-102	X104, Y127	41	41	29	9世紀	A区	P-178	X100, Y133	39	35	61	
A区	P-103	X106, Y134	26	23	8		A区	P-179	X100, Y132	53	48	40	
A区	P-104	X106, Y135	45	40	19		A区	P-180	X103, Y126	49	35	22	縄文時代中期中集
A区	P-105	X106, Y135	65	47	34		A区	P-182	X101, Y133	69	49	24	
A区	P-106	X106, Y135	35	25	30		A区	P-183	X101, Y131	54	50	27	
A区	P-107	X106, Y135	30	28	18		A区	P-184	X103, Y129	80	76	55	
A区	P-109	X104, Y136	59	48	36		A区	P-185	X102, Y128	34	22	19	
A区	P-110	X106, Y133	28	26	24		A区	P-186	X103, Y127	42	37	46	縄文時代中期中集
A区	P-113	X106, Y132	54	45	29		A区	P-187	X103, Y126	32	31	18	縄文時代中期中集
A区	P-115	X106, Y132	65	55	17		A区	P-188	X102, Y128	50	37	46	
A区	P-116	X106, Y133	52	51	30		A区	P-189	X103, Y126	45	43	51	
A区	P-117	X106, Y133	26	26	60		A区	P-190	X103, Y126	48	35	22	
A区	P-118	X105, Y133	67	61	34		A区	P-191	X103, Y126	42	37	29	縄文時代中期中集
A区	P-120	X106, Y134	35	31	18		A区	P-192	X103, Y126	32	23	40	縄文時代中期中集
A区	P-122	X133, Y99	48	(30)	28		A区	P-193	X103, Y131	40	37	29	
A区	P-123	X105, Y135	50	34	47	縄文時代中期中集	A区	P-194	X103, Y131	39	29	35	
A区	P-124	X105, Y135	38	31	31		A区	P-195	X103, Y131	49	47	25	
A区	P-125	X105, Y135	48	39	47		A区	P-196	X108, Y130	56	41	50	
A区	P-126	X105, Y136	32	30	17	縄文時代中期中集	A区	P-197	X103, Y126	41	35	56	
A区	P-127	X105, Y137	36	34	63		A区	P-198	X109, Y131	31	31	29	
A区	P-128	X105, Y134	50	40	29		A区	P-199	X109, Y130	40	33	17	
A区	P-129	X105, Y134	40	35	59		A区	P-200	X109, Y130	45	43	21	
A区	P-130	X105, Y134	23	(11)	8		A区	P-201	X109, Y130	38	35	44	縄文時代中期中集
A区	P-131	X104, Y135	52	37	21		A区	P-202	X108, Y130	38	30	39	
A区	P-132	X104, Y135	61	52	21		A区	P-203	X103, Y129	42	34	43	
A区	P-133	X103, Y137	48	45	31		A区	P-204	X102, Y128	44	35	29	
A区	P-134	X111, Y136	48	37	48		A区	P-205	X109, Y129	34	30	37	
A区	P-135	X104, Y136	47	46	49		A区	P-206	X109, Y129	56	48	37	
A区	P-136	X111, Y136	77	66	26		A区	P-207	X109, Y129	33	31	25	
A区	P-137	X111, Y136	52	38	42	縄文時代中期中集	A区	P-208	X108, Y129	35	30	23	
A区	P-138	X104, Y137	44	34	20		A区	P-209	X102, Y128	38	35	29	
A区	P-139	X111, Y136	37	30	72		A区	P-211	X102, Y129	37	34	36	
A区	P-141	X104, Y132	43	38	36		A区	P-212	X109, Y130	33	31	27	
A区	P-142	X104, Y132	37	28	51	縄文時代中期中集	A区	P-213	X119, Y130	39	38	12	
A区	P-143	X103, Y132	69	41	22	縄文時代中期中集	A区	P-214	X109, Y130	38	36	17	
A区	P-144	X103, Y132	39	35	16		A区	P-215	X109, Y130	42	30	23	
A区	P-145	X103, Y132	50	47	49		A区	P-216	X109, Y130	51	44	25	縄文時代中期中集
A区	P-146	X103, Y132	36	27	18		A区	P-217	X110, Y130	36	35	21	縄文時代中期中集
A区	P-147	X104, Y132	32	29	35		A区	P-218	X103, Y129	56	44	55	
A区	P-148	X104, Y132	40	36	53		A区	P-219	X110, Y130	50	39	19	
A区	P-149	X111, Y137	60	52	25		A区	P-220	X110, Y130	50	40	5	
A区	P-150	X104, Y133	44	34	51		A区	P-223	X104, Y127	39	31	29	奈良・平安時代
A区	P-151	X103, Y133	44	41	48		A区	P-225	X104, Y126	43	35	57	9世紀
A区	P-152	X103, Y134	31	30	70		A区	P-226	X105, Y132	50	43	45	縄文時代中期中集
A区	P-153	X103, Y134	60	54	18		A区	P-227	X104, Y130	18	18	19	
A区	P-154	X103, Y135	48	37	13		A区	P-228	X109, Y130	53	44	138	
A区	P-155	X103, Y135	60	45	22		A区	P-229	X106, Y130	71	68	33	
A区	P-156	X103, Y126	34	33	22		A区	P-230	X101, Y132	44	36	14	
A区	P-157	X102, Y135	49	42	54		A区	P-231	X109, Y132	25	19	26	
A区	P-158	X111, Y137	66	52	25	縄文時代中期中集	A区	P-232	X100, Y132	29	23	11	
A区	P-159	X102, Y136	54	35	20		A区	P-233	X105, Y129	57	47	72	縄文時代中期中集
A区	P-161	X101, Y136	43	40	14		A区	P-234	X120, Y102	45	45	29	縄文時代中期中集
A区	P-162	X101, Y135	65	64	30		A区	P-235	X104, Y129	33	32	37	
A区	P-163	X103, Y127	53	38	59		A区	P-236	X111, Y136	44	43	42	
A区	P-164	X100, Y135	56	47	88		A区	P-237	X111, Y136	57	48	21	
A区	P-165	X99, Y135	52	48	32		A区	P-238	X111, Y137	72	66	37	
A区	P-166	X99, Y135	27	23	27		A区	P-239	X105, Y134	46	46	30	
A区	P-167	X102, Y128	56	41	31		A区	P-240	X111, Y136	57	51	33	
A区	P-168	X99, Y136	33	33	37	縄文時代中期中集	A区	P-241	X105, Y129	54	42	18	
A区	P-169	X102, Y128	39	31	16		A区	P-243	X107, Y132	39	35	26	
A区	P-170	X99, Y135	54	51	20		A区	P-244	X111, Y137	48	32	23	
A区	P-171	X111, Y137	47	27	21	縄文時代中期中集	A区	P-245	X108, Y137	56	41	83	
A区	P-172	X98, Y135	74	58	21	中期後段5	A区	P-246	X106, Y135	30	25	45	
A区	P-173	X98, Y136	36	23	23		A区	P-247	X105, Y129	57	41	17	
A区	P-174	X111, Y138	40	26	13	縄文時代中期中集	A区	P-248	X107, Y130	48	40	68	
A区	P-175	X111, Y136	89	63	72	縄文時代中期中集	A区	P-249	X102, Y132	50	41	45	



Fig. 5 五代深掘Ⅰ遺跡No.2 A区全体図(1)

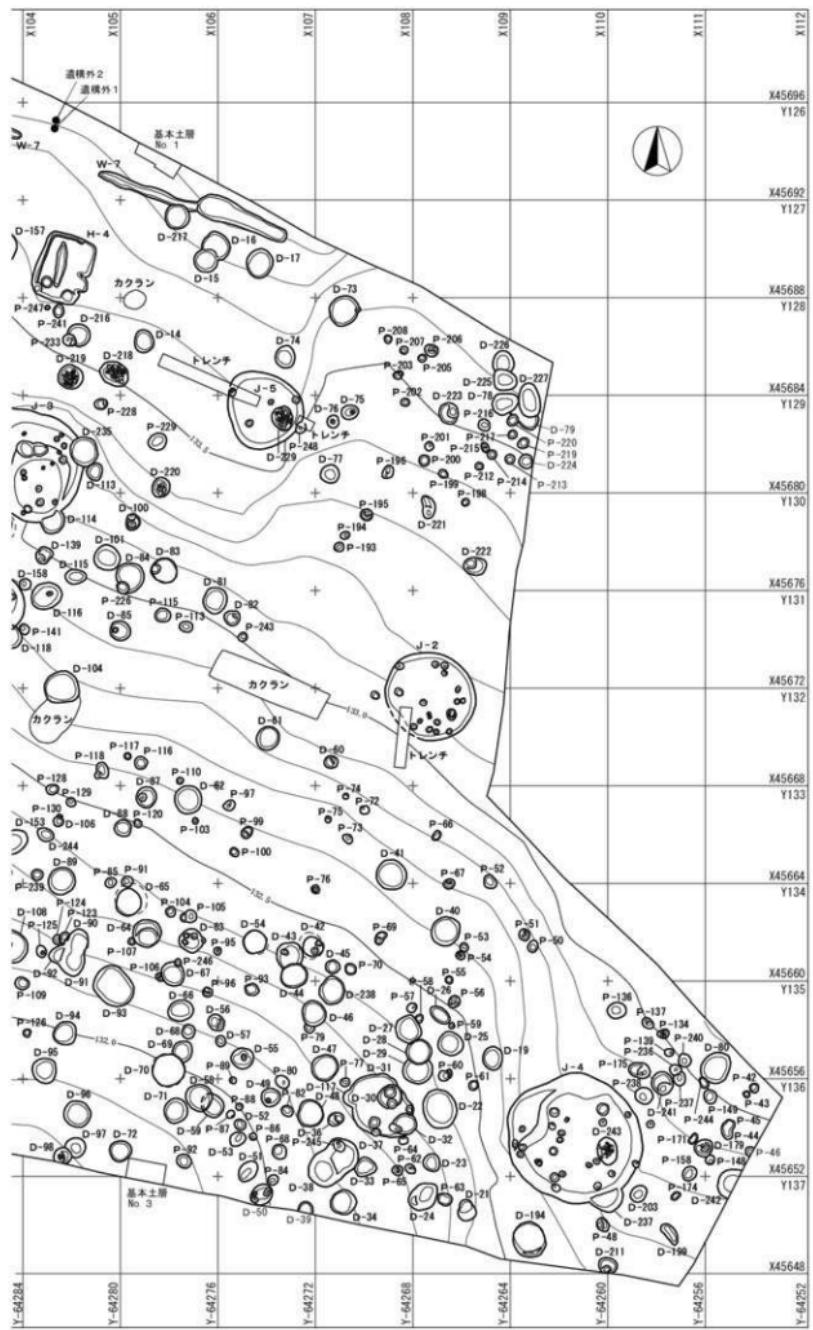


Fig. 6 五代深堀 I 遺跡No.2 A区全体図 (2)

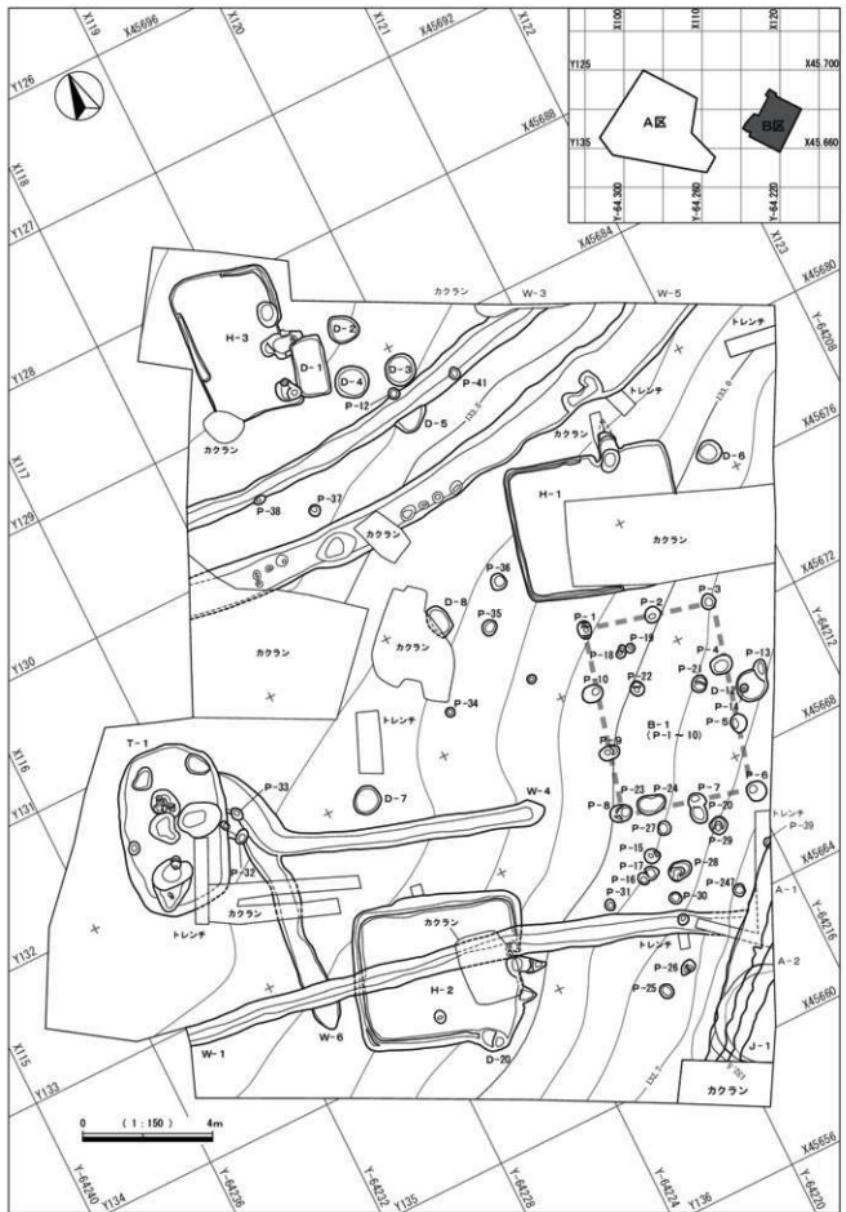
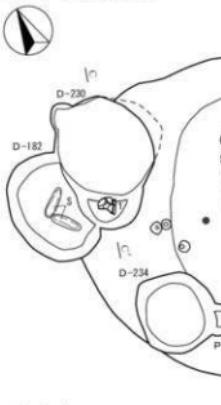


Fig. 7 五代深堀 I 遺跡No. 2 B区全体図

B区 J-1号竖穴建物跡

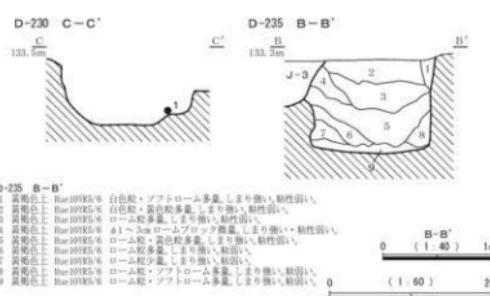
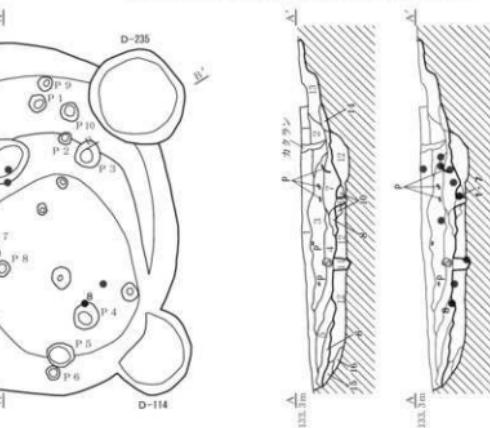
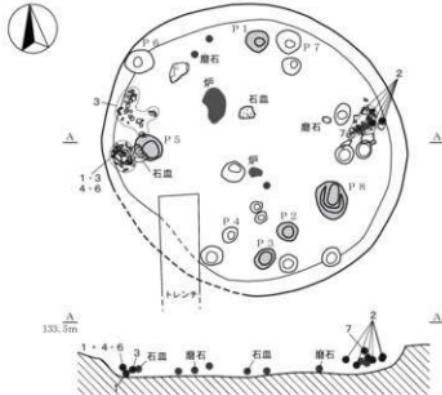


A区 J-3号竖穴建物跡



- 1 灰褐色土 100K5/3 ソフトローム多量。白色粒少量。しまり強い。粘性弱い。
- 2 黄褐色土 100K3/3 ソフトローム少量。しまり強い。粘性弱い。
- 3 灰黃褐色土 100K5/3 ロームの量。白色粒。しまり強い。
- 4 灰黃褐色土 100K5/2 硬化物物少量。しまりあり。粘性弱い。
- 5 灰黃褐色土 100K5/4 硬化物物少量。しまり強い。粘性弱い。
- 6 明黄褐色土 100K6/2 ソフトローム多量。硬化物物少量。しまり強い。粘性弱い。
- 7 黑色土 100K2/1 硬化物物中量。しまりややあり。粘性あり。
- 8 灰黃褐色土 100K3/2 ローム少量。他土少量。しまり強い。粘性弱い。
- 9 黑褐色土 100K3/2 黄褐色。他土中量。しまりあり。粘性弱い。
- 10 黑褐色土 100K3/2 2~3cm 植上ブロック体。黑色土。白色粒少量。しまり強い。粘性弱い。
- 11 黄褐色土 100K5/6 硬化物物中量。他土少量。しまり強い。粘性弱い。
- 12 灰黃褐色土 100K6/6 白色粒。ソフトローム多量。しまり強い。粘性弱い。
- 13 灰黃褐色土 100K6/6 白色粒。白色粒多量。しまり強い。粘性弱い。
- 14 黄褐色土 100K5/6 ソフトローム中量。白色粒少量。しまり強い。粘性弱い。
- 15 明黄褐色土 100K6/6 ソフトローム少量。ローム多量。しまり強い。粘性弱い。
- 16 明黄褐色土 100K6/6 ローム中量。しまり強い。粘性弱い。

A区 J-2号竖穴建物跡

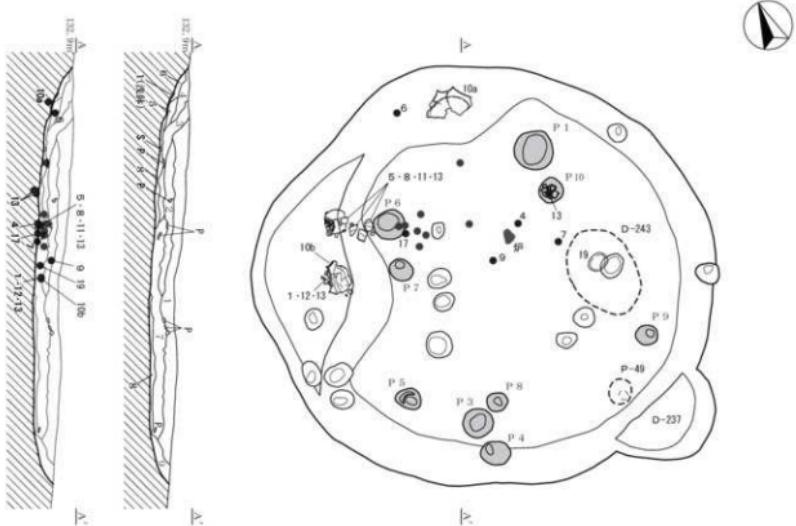


0 (1:60) 2m

0 (1:40) 1m

Fig. 8 A・B区 J-1～3号竖穴建物跡 遺構実測図

A区 J-4号堅穴建物跡



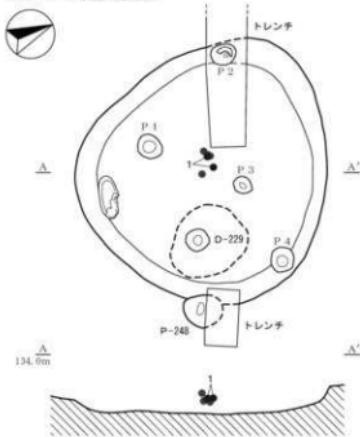
J-4 A-A'

- 1 黄褐色土 10953/3 ソフトローム少量、炭化物少量、しまり強い、粘性弱い。
- 2 灰褐色土 10955/2 ソフトローム中量、炭化物少量、しまり強い、粘性弱い。
- 3 灰褐色土 10955/2 炭化物・ローム少、灰化物・白色灰少量、しまり強い、粘性弱い。
- 4 黄褐色土 10955/6 ソフトローム多量、しまり弱い、粘性弱い。
- 5 明黄色土 10956/6 ソフトローム中量、しまり弱い。

4 黄褐色土 10956/6 ソフトローム多量、しまり強い、粘性弱い。

- 5 明黄色土 10956/6 ソフトローム少量、しまり弱い。
- 6 明黄色土 10956/6 ソフトローム・ローム中量、しまり強い、粘性弱い。
- 7 明黄色土 10956/6 ソフトローム・白色灰少量、しまり強い、粘性弱い。
- 8 黄褐色土 10956/6 ソフトローム多量、しまり強い、粘性弱い。
- 9 黄褐色土 10956/6 ソフトローム多量、しまり強い、粘性弱い。

A区 J-5号堅穴建物跡



A区 D-228号土坑

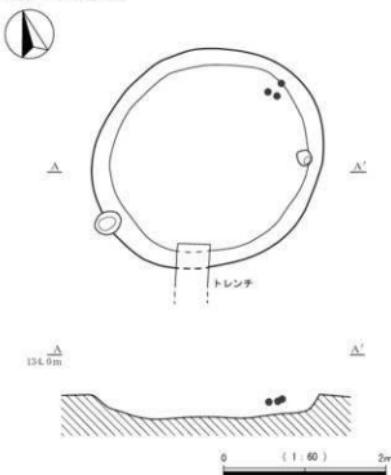


Fig. 9 A区 J-4・J-5号堅穴建物跡, D-228号土坑 遺構実測図

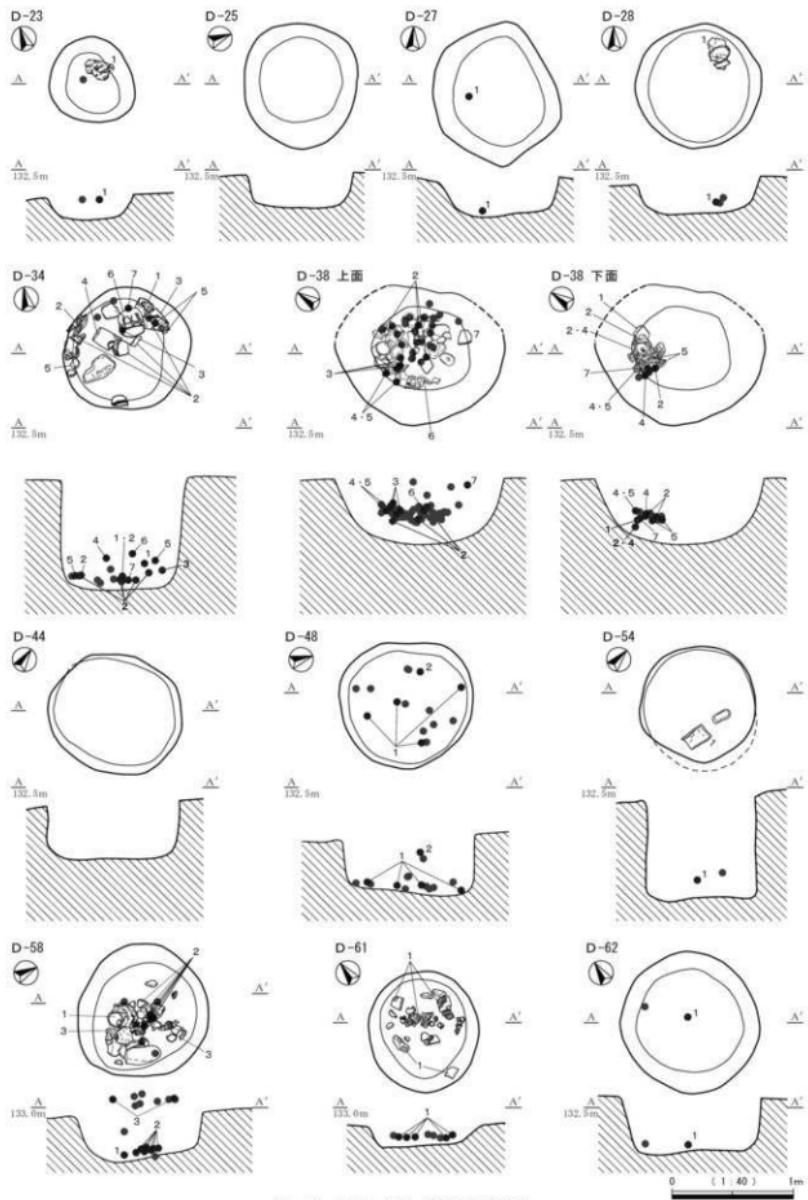


Fig. 10 A区 土坑 遺構実測図 (1)

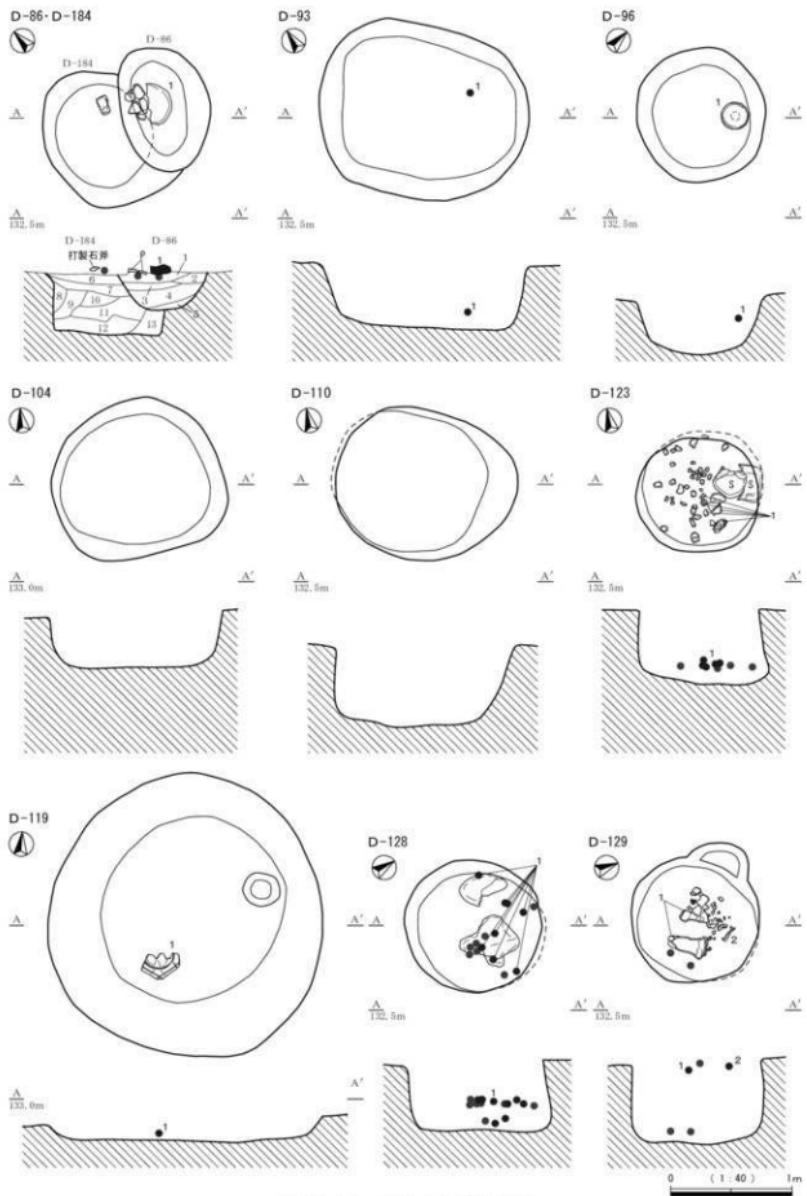


Fig. 11 A区 土坑 遺構実測図 (2)

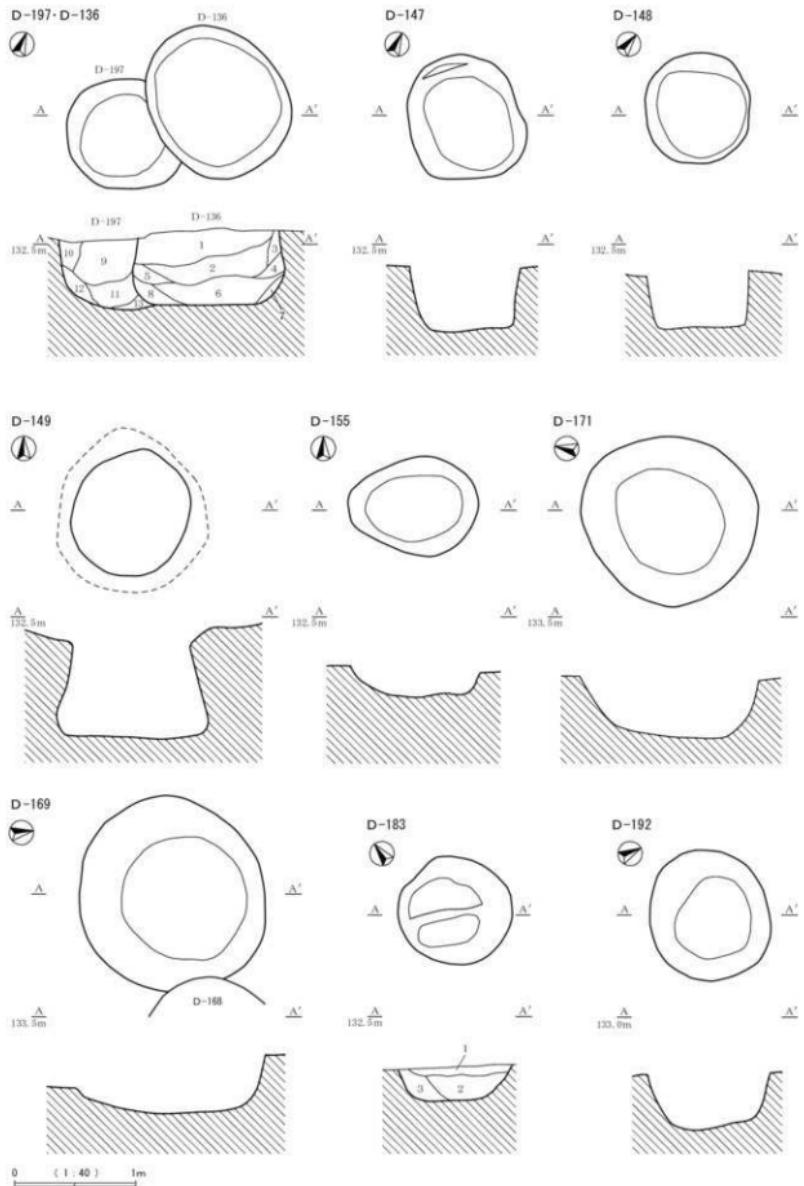


Fig. 12 A区 土坑 遺構実測図 (3)

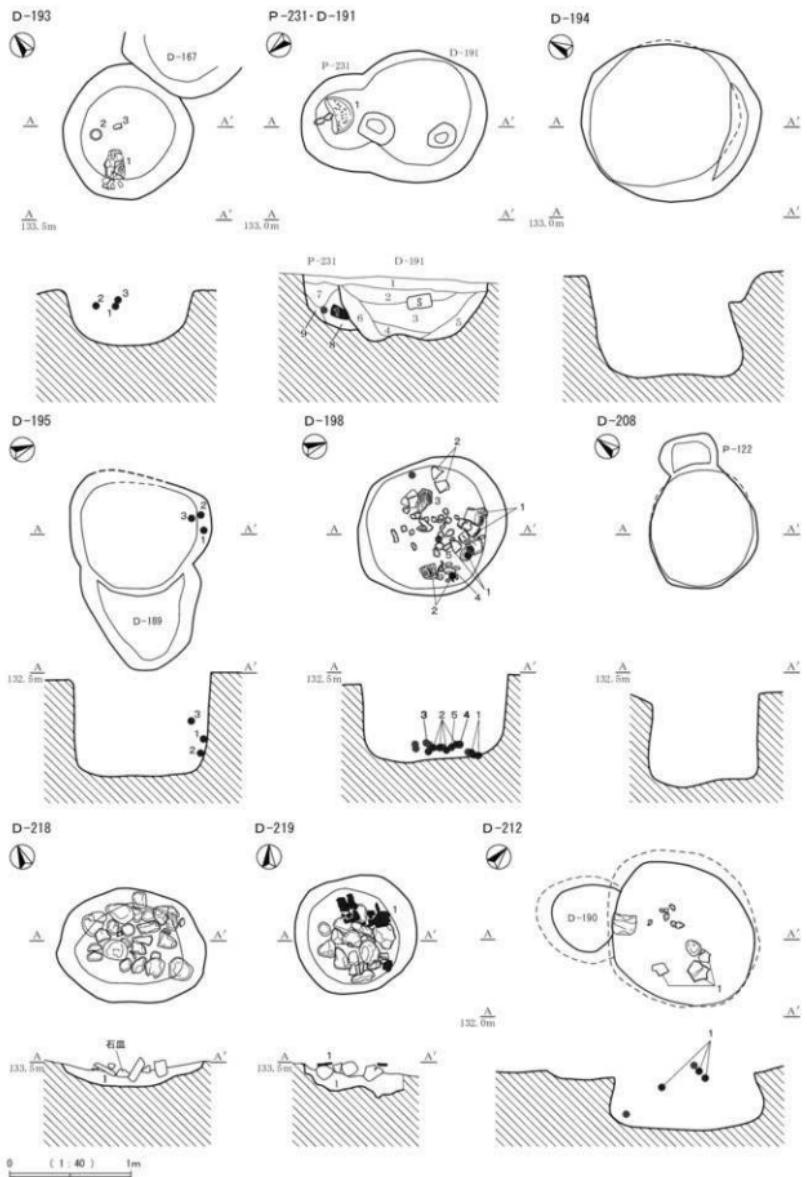


Fig. 13 A区 土坑 遺構実測図 (4)

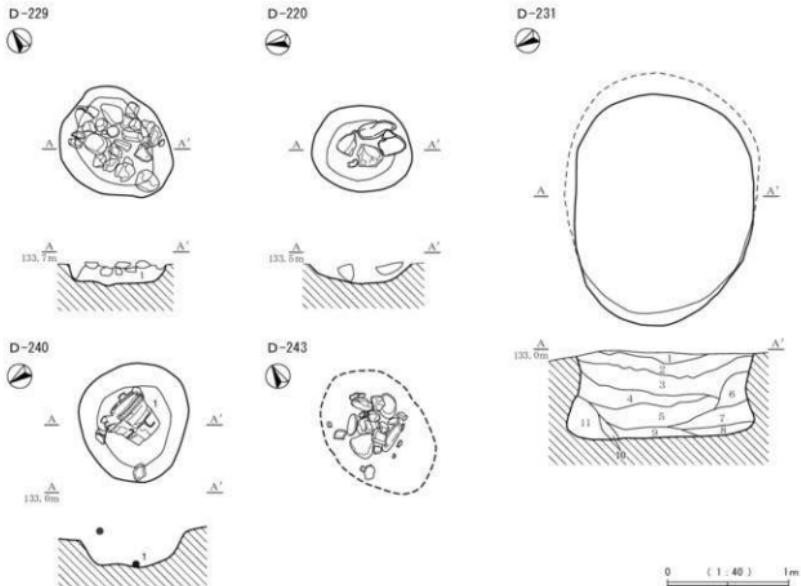
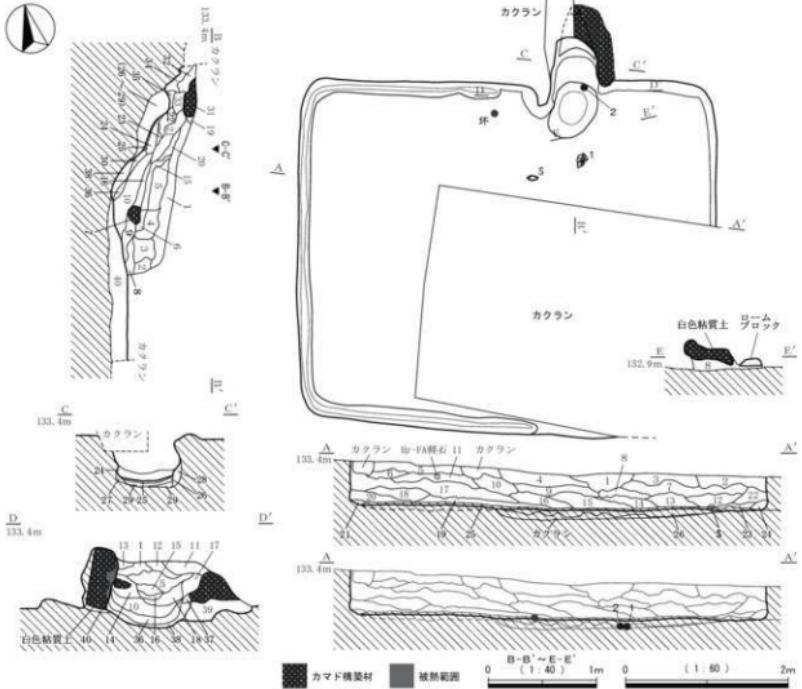


Fig. 14 A区 土坑 遗構素描图 (5)

B区 H-1号竖穴建物跡



H-1 A-A'

- |         |        |  |
|---------|--------|--|
| 1 黄褐色土  | 10W5Y  | 0.1~1cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を含む。中量。粘性あり。        |
| 2 黄褐色土  | 10W5Y  | 0.1~1cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を含む。中量。粘性あり。        |
| 3 黄褐色土  | 10W5Y  | 0.5~1cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を含む。しまりあり。粘性あり。     |
| 4 黑褐色土  | 10Y3/2 | 0.1~1cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を多量。しまりあり。粘性あり。     |
| 5 灰褐色土  | 10W3/2 | 0.1~1cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を多量。しまりあり。粘性あり。     |
| 6 黑褐色土  | 10W1/2 | 0.5~0.9cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を多量。しまりあり。粘性あり。   |
| 7 黑褐色土  | 10W1/2 | 0.5~1~1.9cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を少量。しまりあり。粘性あり。 |
| 8 黄褐色土  | 10Y5/6 | 0.5~1.5cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を少量。しまりあり。粘性あり。   |
| 9 黑褐色土  | 10Y1/2 | 0.1~2cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を多量。しまりあり。粘性あり。     |
| 10 灰褐色土 | 10Y1/2 | 0.1~2cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を多量。しまりあり。粘性あり。     |
| 11 黄褐色土 | 10W5/6 | 0.1~2cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を少量。しまりあり。粘性あり。     |
| 12 灰褐色土 | 10W2/2 | 0.1~2cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を少量。しまりあり。粘性あり。     |
| 13 黄褐色土 | 10Y4/2 | 0.1~2cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を少量。しまりあり。粘性あり。     |
| 14 黑褐色土 | 10Y1/2 | 0.1~2cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を少量。しまりあり。粘性あり。     |
| 15 黄褐色土 | 10Y5/6 | 0.1~1cmの1~2mmの土粒子と中量。In-1a石英粒を少量。しまりあり。粘性あり。     |

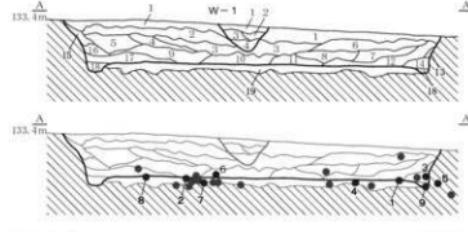
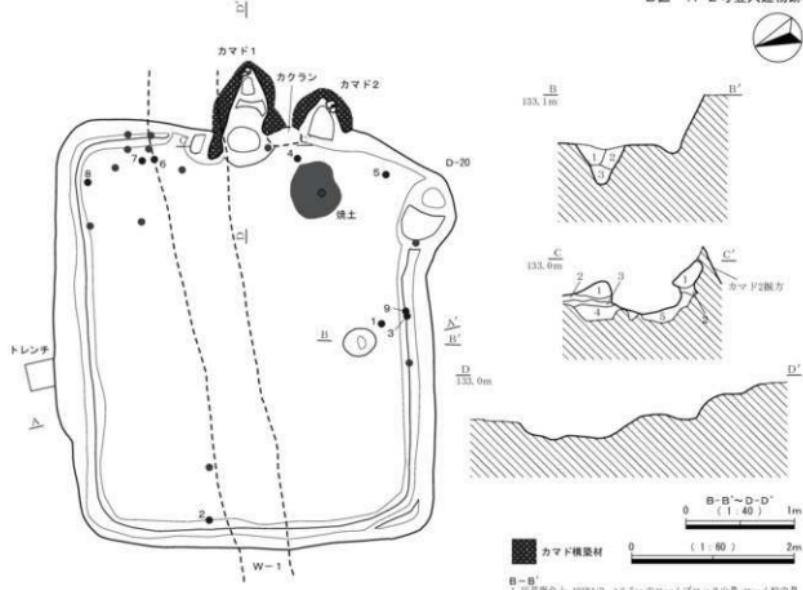
- |                        |        |                                  |          |          |                                  |
|------------------------|--------|----------------------------------|----------|----------|----------------------------------|
| 16 黒褐色土                | 10R5/2 | 約1~3cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 | 6 深い黄褐色土 | 10Y7/2   | 白色粘土質、塊状を中程度に含む。                 |
| 17 黄褐色土                | 10Y5/8 | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を少し含み、しまりり。 | 7 黄褐色土   | 2.5YR7/2 | 白色粘土質上土体、天井層。                    |
| 18 黑褐色土                | 10R5/2 | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 | 8 黄褐色土   | 10R5/2   | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 |
| 19 黑褐色土                | 10R2/3 | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 | 9 黄褐色土   | 10Y5/5   | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 |
| 20 黑褐色土                | 10R3/1 | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 | 10 黄褐色土  | 10Y9/3   | 灰褐色土質で、土壌粒子を多量含む。                |
| 21 黄褐色土                | 10Y5/5 | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 | 11 黄褐色土  | 10Y4/2   | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 |
| 22 黄褐色土                | 10Y5/5 | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 | 12 黄褐色土  | 10Y4/2   | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 |
| 23 黄褐色土                | 10Y5/5 | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 | 13 灰色土   | 10Y7/7   | ソートローム多量、白色粘土質中量、土壌粒子を多量含む。      |
| 24 黄褐色土                | 10R5/6 | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 | 14 灰白色土  | 10Y7/1   | ローム多量、白色粘土質少量、土壌粒子を多量含む。         |
| 25 黄褐色土                | 10R7/7 | 約1~2cmのロームブックテク質。土壌粒子を多く含み、しまりり。 | 15 黄褐色土  | 10Y7/2   | ローム少、土壌粒子を少、しまりり。                |
| <b>■B-1' B-2' E-E'</b> |        |                                  |          |          |                                  |
| 1 灰褐色土                 | 10H4/2 | ローム粘土質、白色粘土質、土壌粒子を中量含み、あります。     | 16 黄褐色土  | 10Y4/2   | ローム多量、しまりり。                      |
| 2 暗灰土                  | 10Y4/1 | ローム少、白色粘土質、土壌粒子を少、しまりり。          | 17 黄褐色土  | 10Y5/6   | ローム多量、しまりり。                      |
| 3 黄褐色土                 | 10Y8/2 | 白色粘土質、ローム少、土壌粒子を多く含み、しまりり。       | 20 灰褐色土  | 10Y7/3   | 白色粘土質上土層を含む。                     |
| 4 黄褐色土                 | 10Y4/2 | 白色粘土質、しまりり。                      | 21 黄褐色土  | 10Y7/1   | ローム多量、土壌粒子を少、しまりり。               |
| 5 黑褐色土                 | 10Y5/1 | ソートロームを多量、しまりり。                  | 22 灰褐色土  | 10Y5/2   | ローム粘土質、泥炭化物粘土中量、土壌粒子を多量含む。       |
| <b>B-2' B-3' E-E'</b>  |        |                                  |          |          |                                  |
| 1 灰褐色土                 | 10H4/2 | ローム粘土質、白色粘土質、土壌粒子を中量含み、あります。     | 23 灰白色土  | 10Y7/7   | ローム少、土壌粒子を多量含む。                  |

Fig. 15 B区 H=1号竖穴建物跡 遺構字調査

- 24 黄褐色土 2.5386/6 白色の粗粒土。ローム粒を多量。しまり強い。粘性なし。  
25 灰褐色土 2.5387/6 粘性質の粗粒土を無量。しまり弱い。粘性あり。  
26 金褐色土 2.5384/6 粘質土。しまり弱い。粘性あり。  
27 河床褐色土 1.0084/2 硬質。ブロック・塊状・砂質を多量。しまりあり。粘性なし。  
28 河床褐色土 1.0084/1 硬質。ブロック・塊状・砂質を多量。しまりやや弱い。粘性あり。  
29 鳥糞褐色土 1.0084/1 硬質。ブロック・塊状・砂質を多量。しまりやや弱い。粘性あり。  
30 安第斯褐色土 1.0086/1 砂・礁・土粒を多量。しまり弱い。  
31 安第斯褐色土 2.5384/1 砂・礁・土粒を多量。しまり弱い。  
32 赤褐色土 2.5384/8 台地褐色土。ローム・砂質を土中にすみ。礁土ブロック多量。しまり  
33 姪褐色土 1.0083/3 白色の粗粒土。ローム・砂質を土中にすみ。礁土ブロック多量。礁・礁土  
白色の粗粒土。礁土ブロックを主体とすら。礁土ブロック・礁土粒を多量。しまりあり。粘性なし。  
礁・礁土粒を多量。しまりあり。粘性なし。

- 34 黄褐色土 1.0083/3 0.2 ~ 5 m のロームブロック中量。礁土粒を多量。しまり強い。粘  
性あり。  
35 姪褐色土 2.5384/6 0.1 ~ 3 m の礁土ブロックを礁土に充満。しまりあり。粘性なし。灰分高  
度。  
36 黄褐色土 1.0086/2 砂・礁・土粒を多量。礁土粒を中量。しまり弱い。粘性ややあり。  
37 姪褐色土 1.0086/2 砂・礁・土粒を多量。礁土粒を中量。しまり弱い。粘性ややあり。  
38 黄褐色土 1.0085/2 砂・礁・土粒を多量。礁土粒を中量。しまり弱い。粘性ややあり。  
39 黄褐色土 1.0085/6 砂・礁・土粒を多量。礁土粒を中量。しまり弱い。粘性ややあり。  
40 黄褐色土 1.0085/6 0.05 ~ 1 cm のロームブロックを多量。2 重あり。粘性あり。

B 区 H-2 号堅穴建物跡

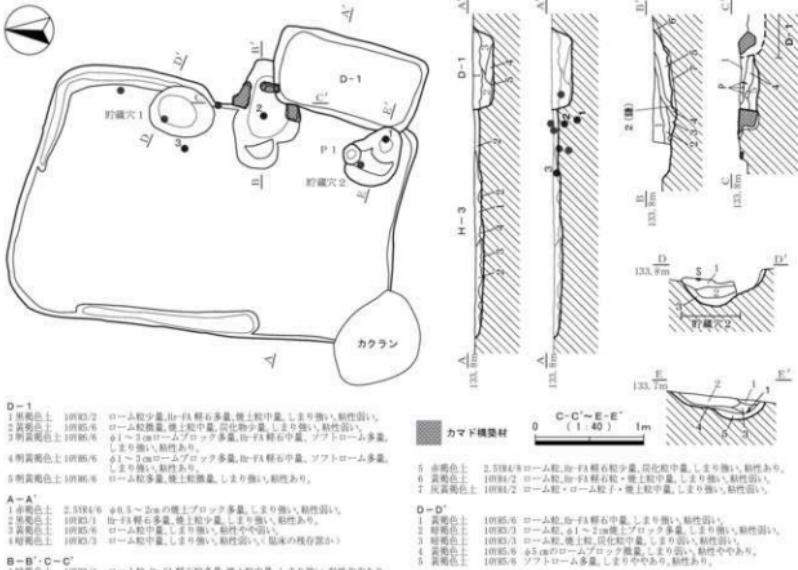


- H-2 A-A'  
 1 黄褐色土 1.0084/4 ローム粒・Hr-FA 粒石多量。粘性弱い。  
 2 黄褐色土 1.0084/4 Hr-FA 粒石多量。礁・礁石細粒少量。しまり弱い。  
 3 黄褐色土 1.0084/2 Hr-FA 粒石多量。ローム粒少量。しまり弱い。粘性ややあり。  
 4 安第斯褐色土 1.0083/2 ソフトローム 多量。Hr-FA 粒石中量。しまり弱い。粘性ややあり。  
 5 青褐色土 1.0083/6 0 ~ 1cm ローム・ブロック少量。Hr-FA 粒石多量。しまり弱い。粘性あり。  
 6 紅褐色土 1.0083/6 0 ~ 1cm ローム・ブロック少量。Hr-FA 粒石多量。しまり弱い。粘性あり。  
 7 姪褐色土 1.0083/3 Hr-FA 粒石多量。ローム粒少量。しまり弱い。粘性や  
やあり。  
 8 姪褐色土 1.0084/4 Hr-FA 粒石中量。ローム粒・ソフトローム少量。しまり弱い。粘性弱い。  
 9 姪褐色土 1.0084/4 Hr-FA 粒石多量。ローム粒。しまり弱い。粘性弱い。  
 10 姪褐色土 1.0084/4 Hr-FA 粒石多量。しまりやや弱い。粘性弱い。  
 11 黄褐色土 1.0084/4 ローム粒・ソフトローム中量。Hr-FA 粒石多量。しまり弱い。粘性やや  
やあり。

- 12 黄褐色土 1.0084/4 ローム粒・ソフトローム中量。Hr-FA 粒石多量。しまり弱い。粘性弱い。  
 13 黄褐色土 1.0084/2 ソフトローム中量。しまりやや弱い。粘性弱い。  
 14 黄褐色土 1.0084/4 ローム粒・砂質を多量。しまりやや弱い。粘性弱い。  
 15 黄褐色土 1.0084/2 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。化物鉱物微量。しま  
り弱い。粘性やや弱い。  
 16 黄褐色土 1.0085/4 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。ローム粒微量。しまり弱い。粘性弱い。  
 17 黄褐色土 1.0085/4 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。ローム粒微量。しまり弱い。粘性弱い。  
 18 黄褐色土 1.0085/4 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。ローム粒微量。しまり弱い。粘性弱い。  
 19 黄褐色土 1.0085/4 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。ローム粒微量。しまり弱い。粘性弱い。  
 20 黄褐色土 1.0085/4 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。ローム粒微量。しまり弱い。粘性弱い。  
 21 黄褐色土 1.0085/4 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。ローム粒微量。しまり弱い。粘性弱い。  
 22 黄褐色土 1.0085/4 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。ローム粒微量。しまり弱い。粘性弱い。  
 23 黄褐色土 1.0085/4 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。ローム粒微量。しまり弱い。粘性弱い。  
 24 黄褐色土 1.0085/4 Hr-FA 粒石中量。礁・粒石細粒。ローム粒微量。しまり弱い。粘性弱い。

Fig. 16 B 区 H-2 号堅穴建物跡 遺構実測図

## B区 H-3号竖穴建物跡



## B区 H-4号竖穴建物跡

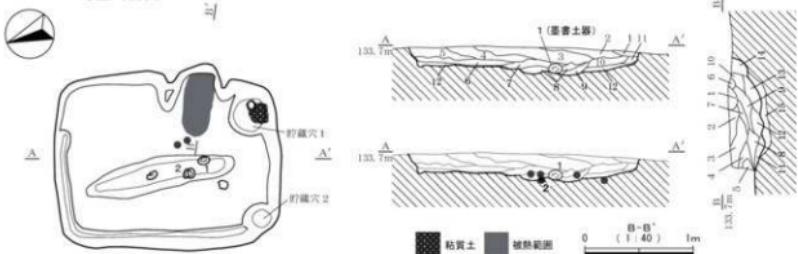
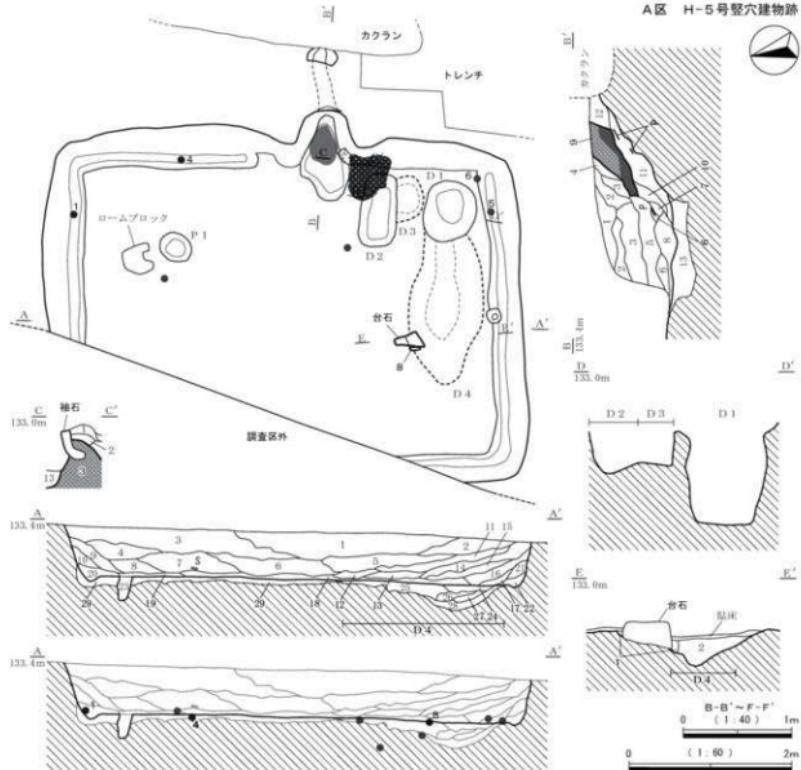
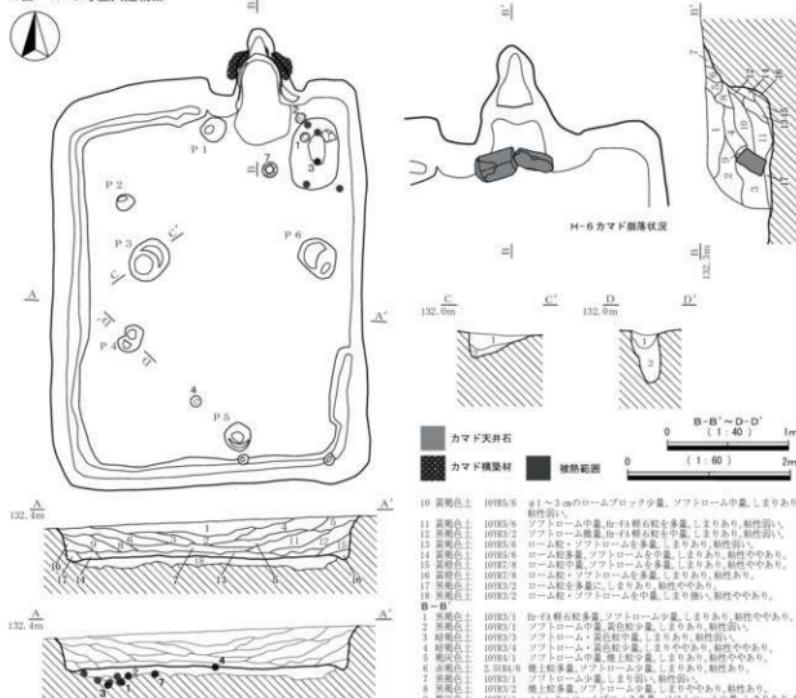


Fig. 17 B区 H-3・4号竖穴建物跡 遺構実測図

### A区 H-5号堅穴建物跡



A区 H-6号竪穴建物跡



- H-6 A-A'
- 黒褐色土 10YR3/2 Ae-HgC 中量, ソフトローム少量, Eo-FA 硅石粒を多量, しまり強い, 硬性のやさり。
  - 黒色土 10YR2/1 Ae-HgC 中量, ソフトローム微量, Eo-FA 硅石粒を多量, しまりあり。
  - 黒褐色土 10YR3/2 Ae-HgC 中量, ソフトローム微量, Eo-FA 硅石粒を多量, しまりあり, 硬性あり。
  - 暗褐色土 10YR3/2 Ae-HgC 中量, Eo-FA 硅石粒を少量, しまりあり, 硬性のやさり。
  - 暗褐色土 10YR3/2 Ae-HgC 中量, Eo-FA 硅石粒を少量, しまりあり, 硬性のやさり。
  - 褐色土 10YR4/4 Ae-HgC 中量, ソフトローム微量, Eo-FA 硅石粒を少量, しまりあり, 硬性のやさり。
  - 灰褐色土 10YR6/2 Ae-HgC 中量, ソフトローム微量, Eo-FA 硅石粒を少量, しまりあり, 硬性のやさり。
  - 暗褐色土 10YR3/2 Ae-HgC 中量, ソフトローム微量, Eo-FA 硅石粒を少量, しまりあり, 硬性のやさり。

Fig. 19 A区 H-6号竪穴建物跡 平面図・断面図

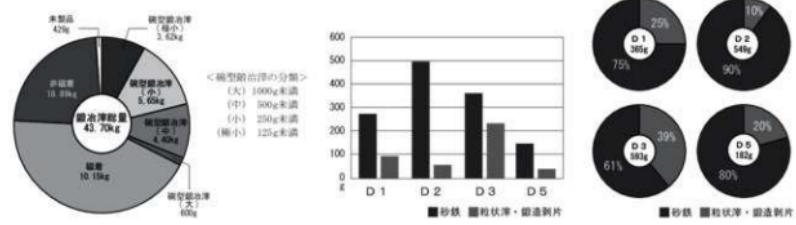


Fig. 20 B区 T-1号造構 鋼鐵滓出土量グラフ

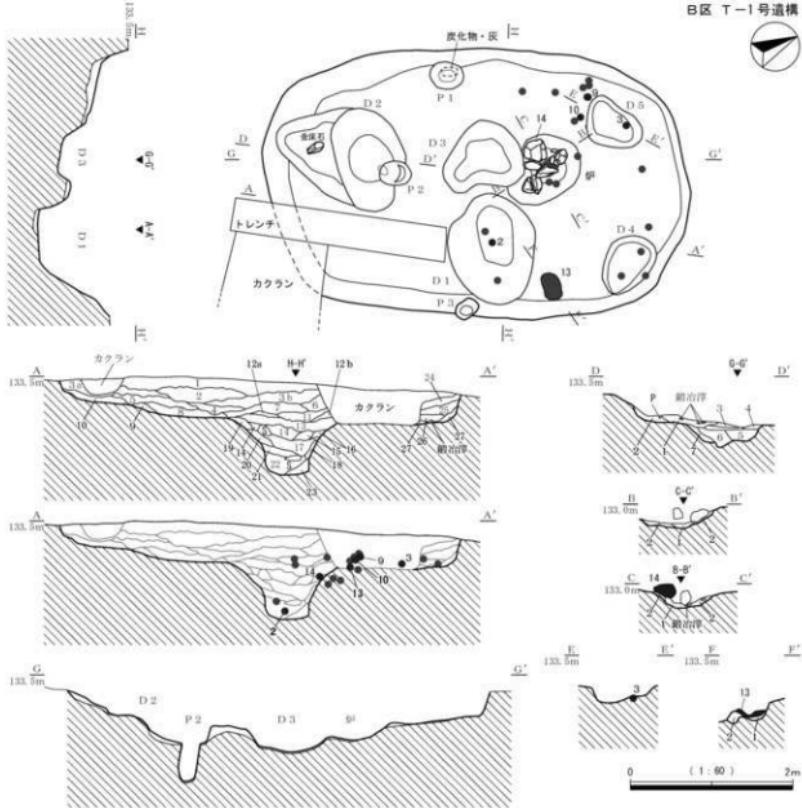


Fig. 21 B区 T=1号遺構 遺構実測図

B区 B-1号掘立柱建物跡

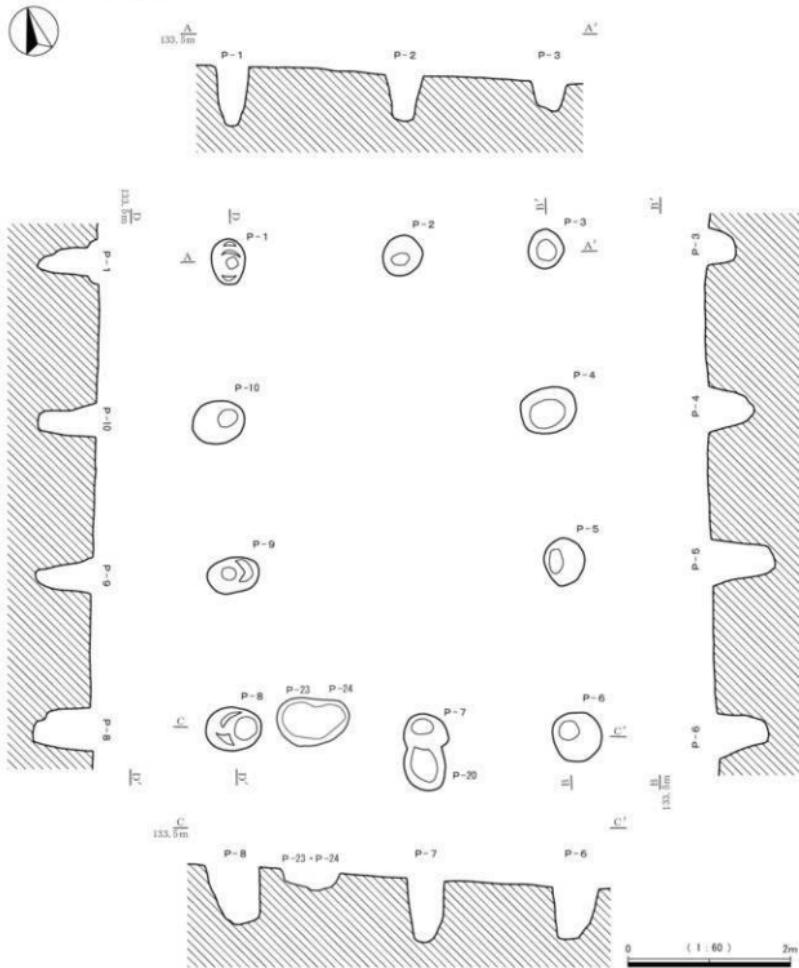


Fig. 22 B区 B-1号掘立柱建物跡 遺構実測図

Tab. 10 B区 B-1号掘立柱建物跡 ピット一覧表

番号	遺構位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P-1	X121, Y132	56	41	75
P-2	X121, Y132	49	50	62
P-3	X122, Y132	48	41	36
P-4	X122, Y133	68	56	49
P-5	X122, Y133	58	48	76

番号	遺構位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P-6	X122, Y134	61	60	65
P-7	X121, Y134	54	43	72
P-8	X120, Y133	68	53	71
P-9	X121, Y133	64	43	67
P-10	X121, Y133	66	52	75

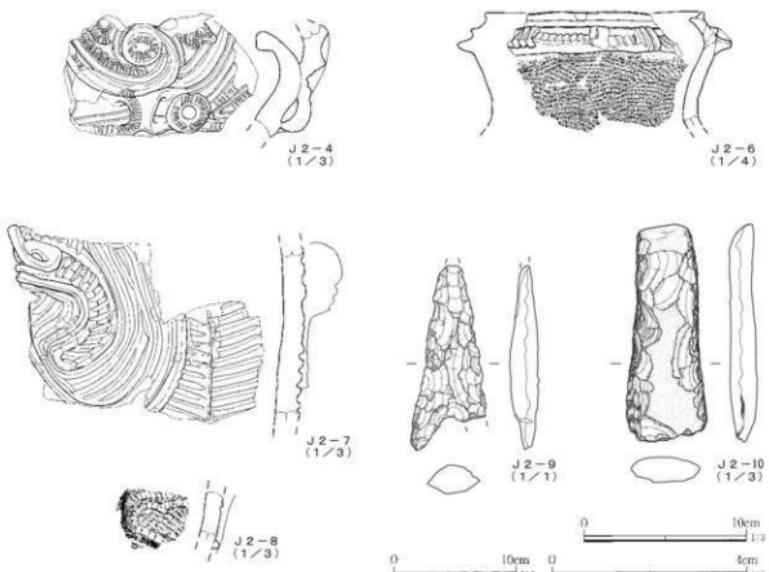
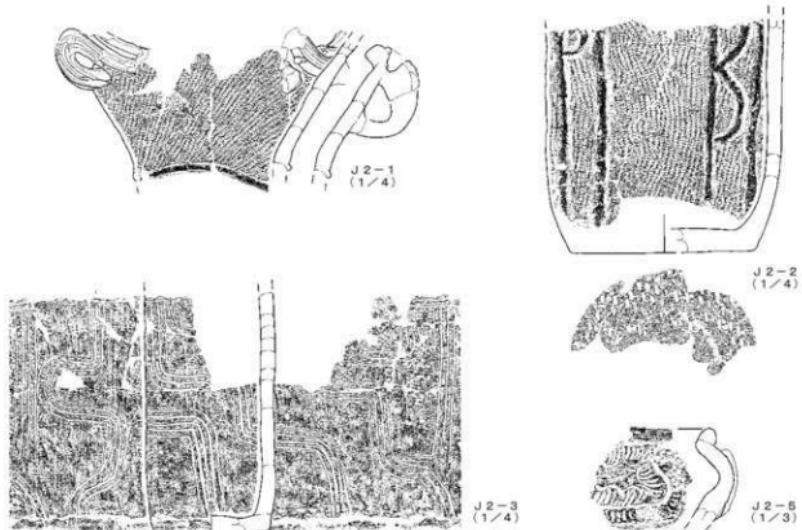


Fig. 23 A区 J-2号竖穴建筑物 遗物实测图

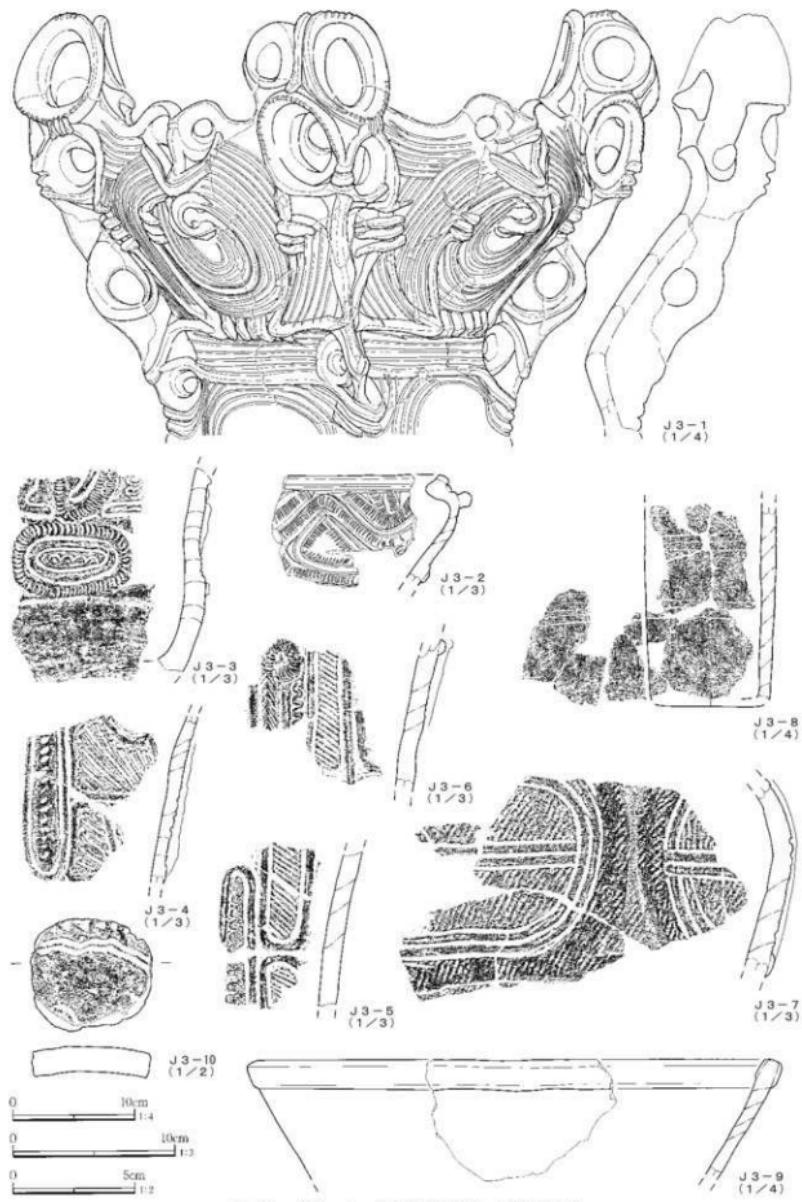


Fig. 24 A区 J-3号竖穴建物跡 遺物実測図

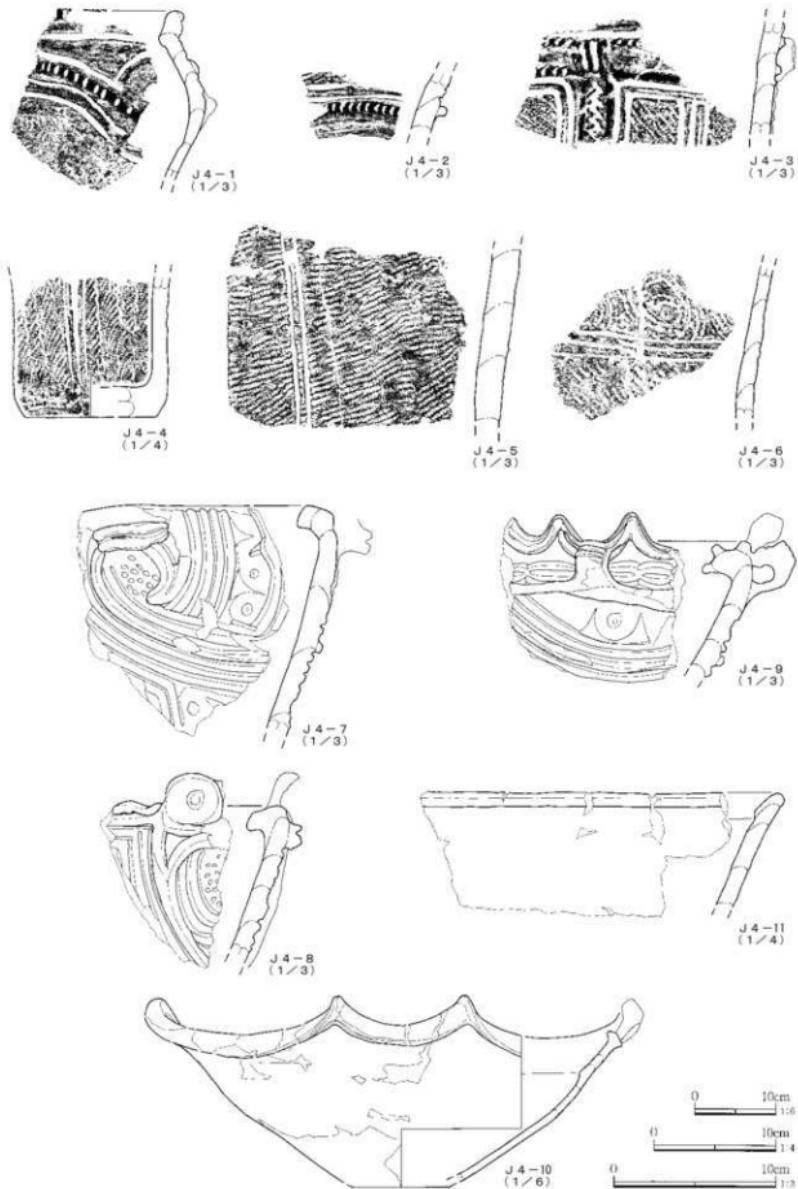


Fig. 25 A区 J-4号竖穴建物跡 遺物実測図

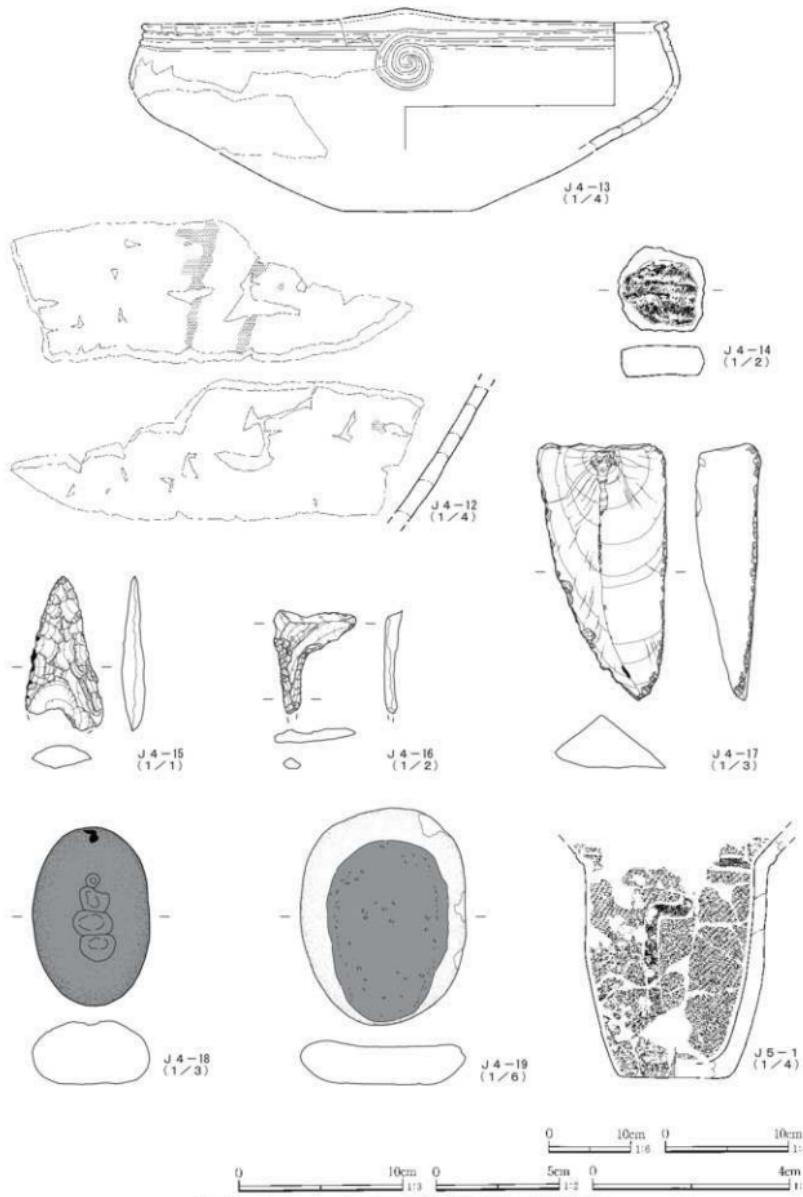


Fig. 26 A区 J-4・J-5号竖穴建物跡 遺物実測図

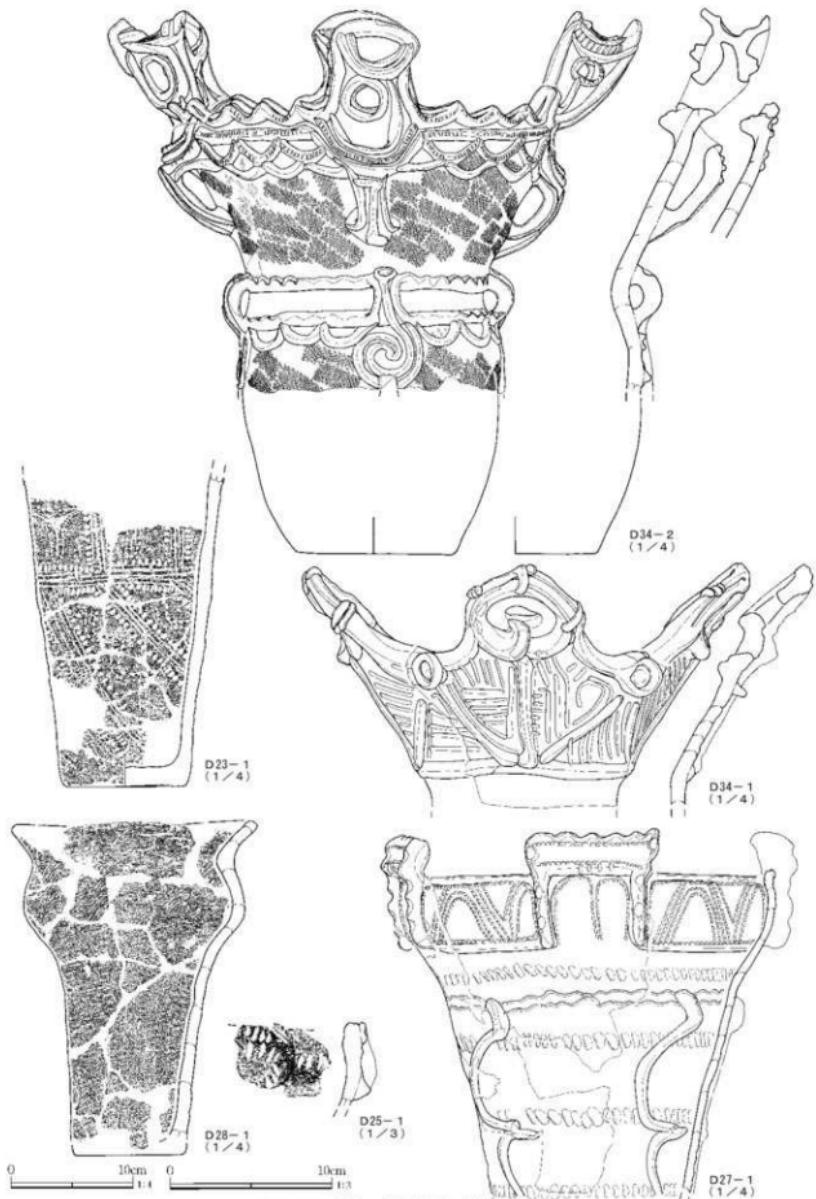


Fig. 27 A区 土坑(1) 遺物実測図

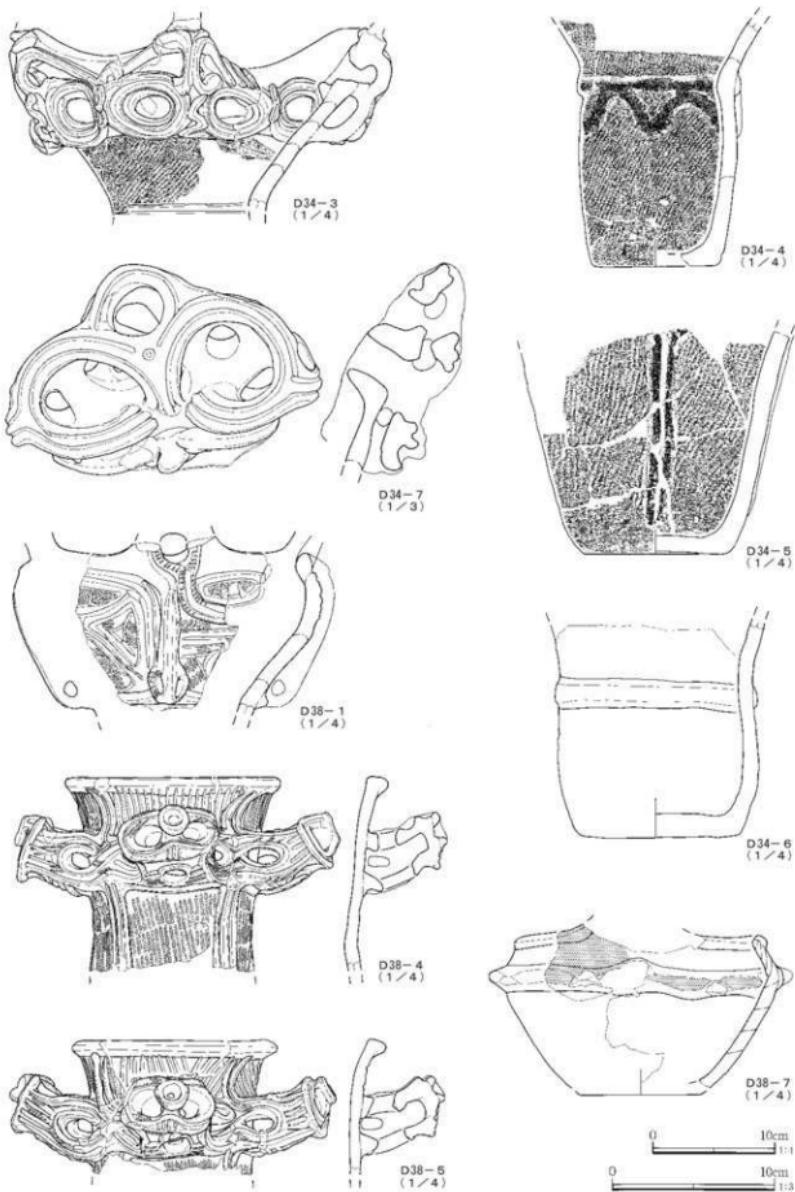


Fig. 28 A区 土坑(2) 遺物実測図

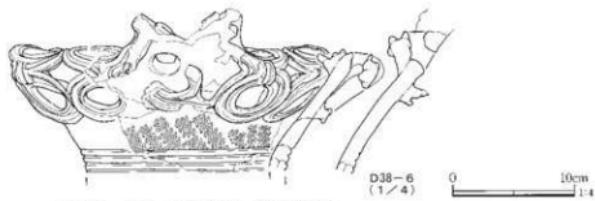
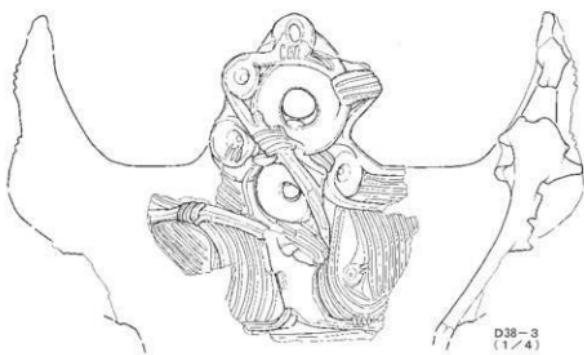
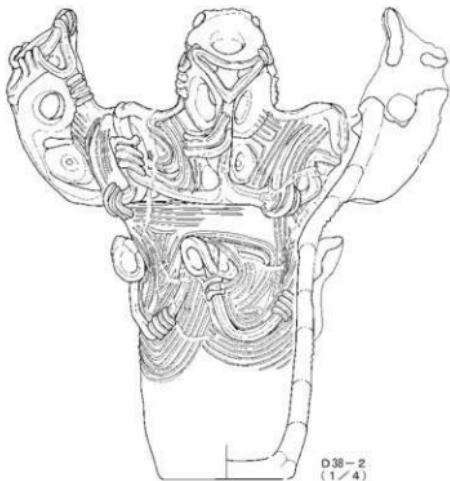


Fig. 29 A区 土坑 (3) 遺物実測図

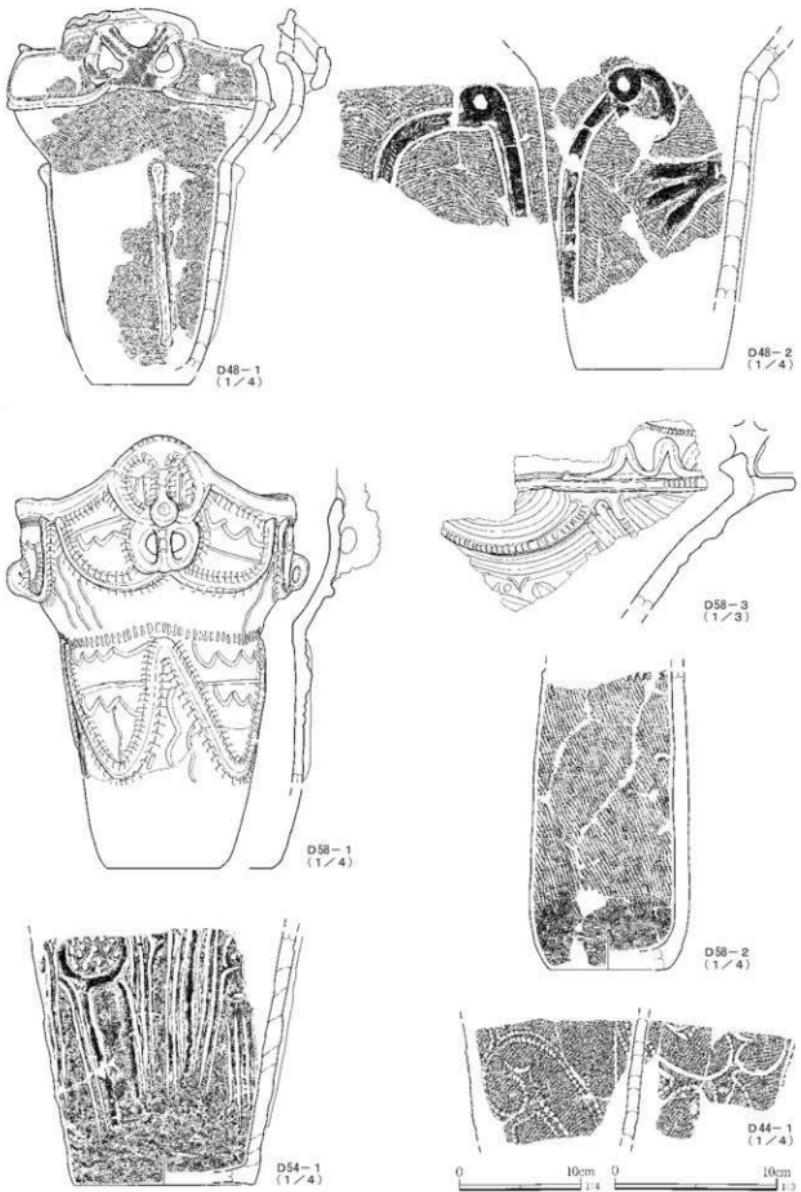


Fig. 30 A区 土坑 (4) 遺物実測図

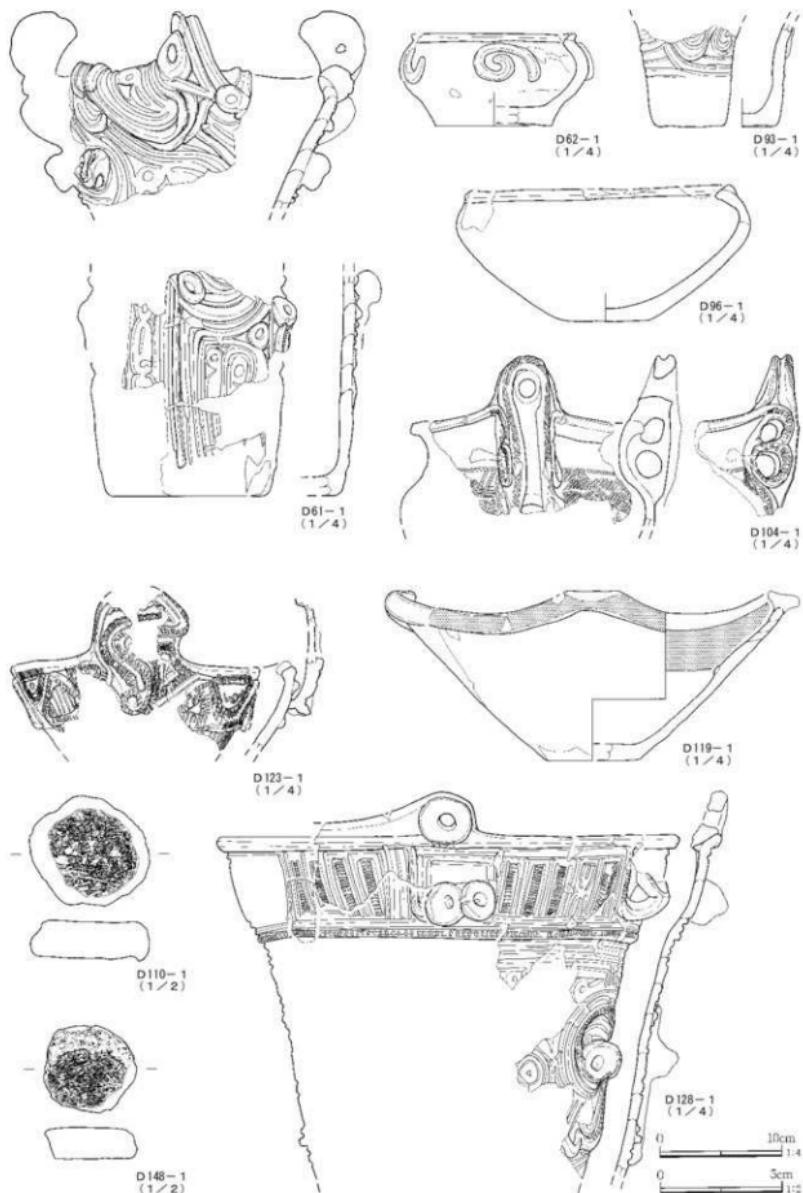


Fig. 31 A区 土坑 (5) 遺物実測図

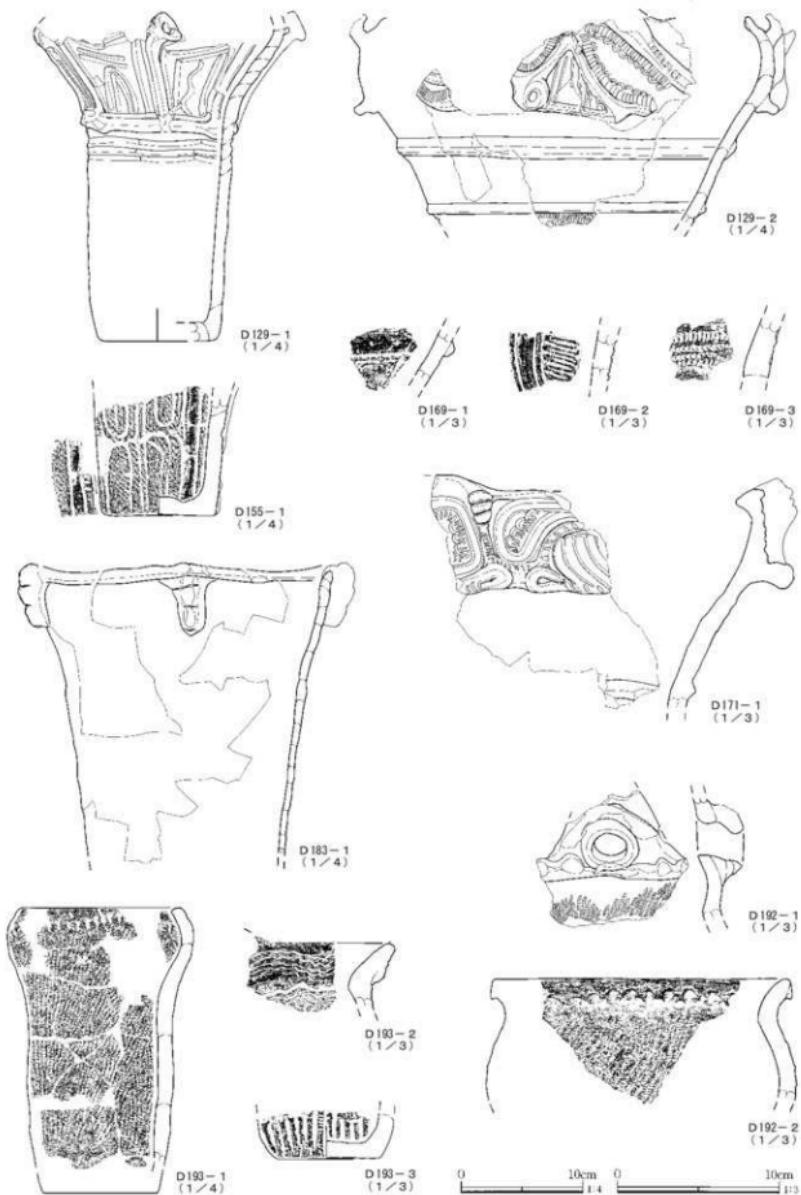


Fig. 32 A区 土坑(6) 遺物実測図

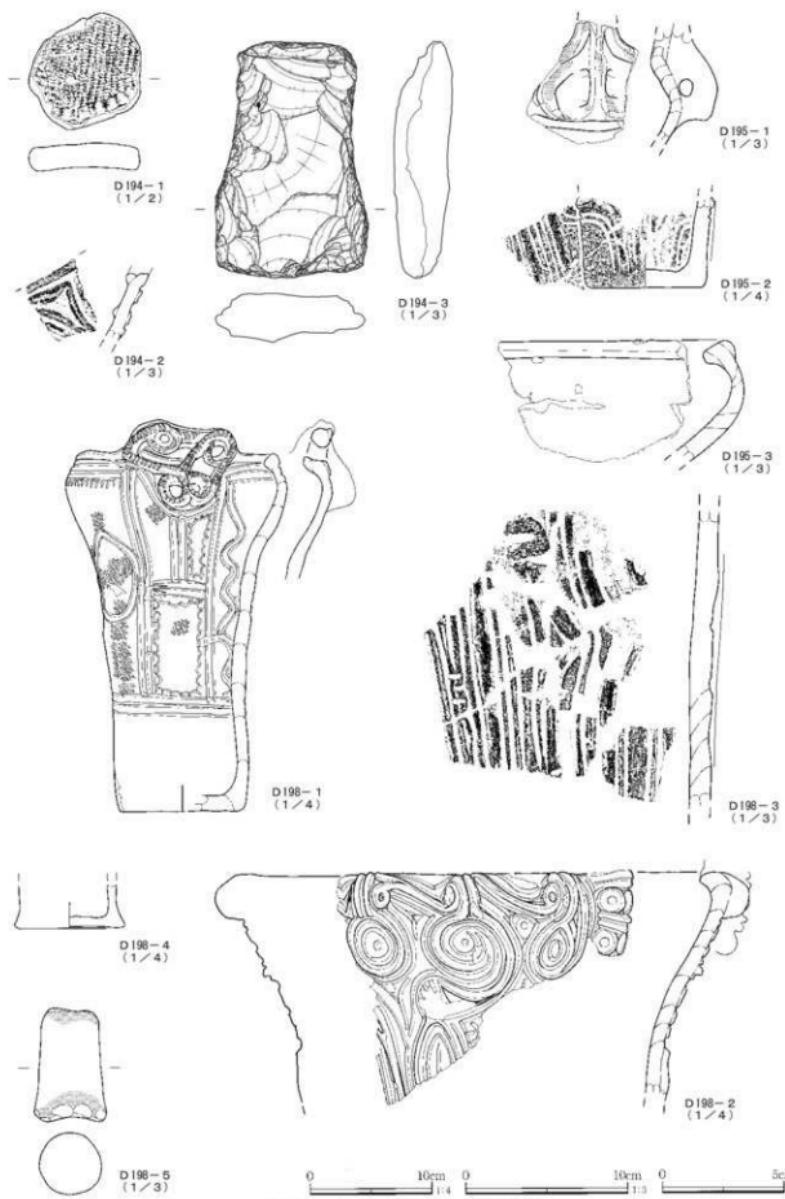
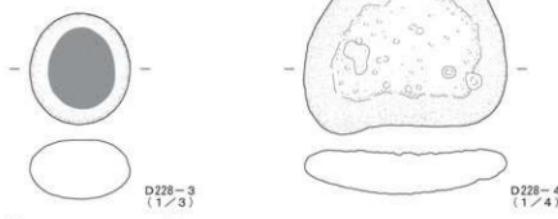
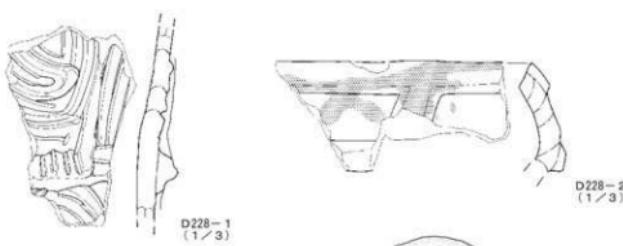
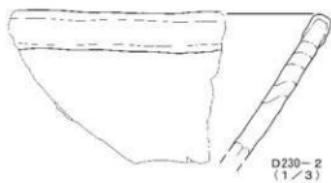
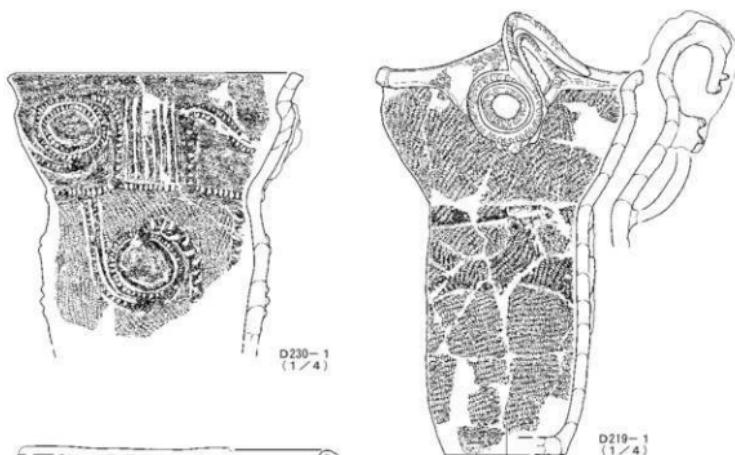
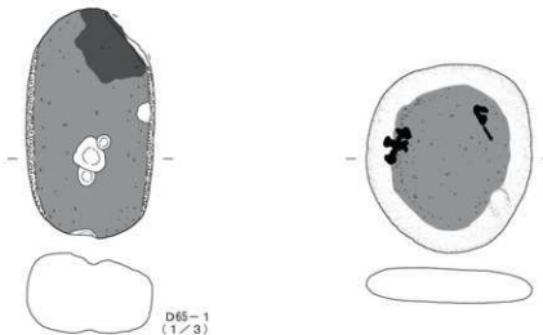
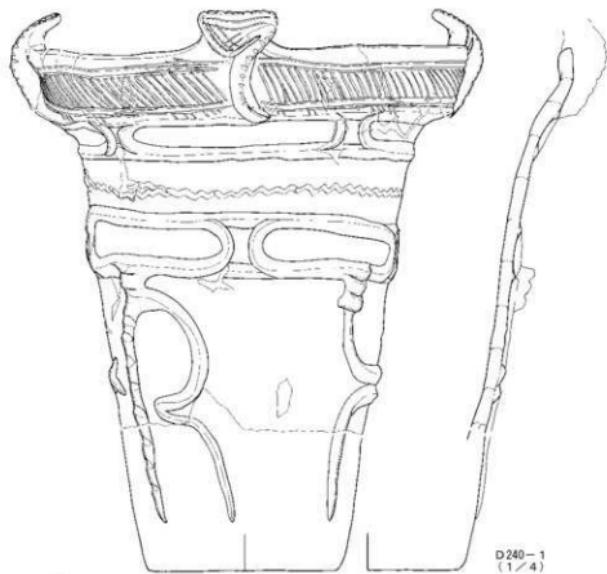
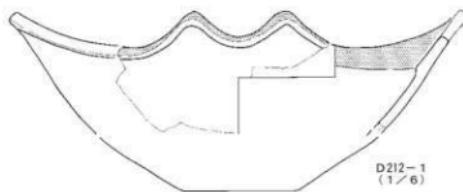


Fig. 33 A区 土坑(7) 遺物実測図



0 10cm 0 10cm  
1:4 1:3

Fig. 34 A区 土坑(8) 遺物実測図



0 10cm 1:6 0 10cm 1:4 0 10cm 1:3

Fig. 35 A区 土坑 (9) 遺物実測図

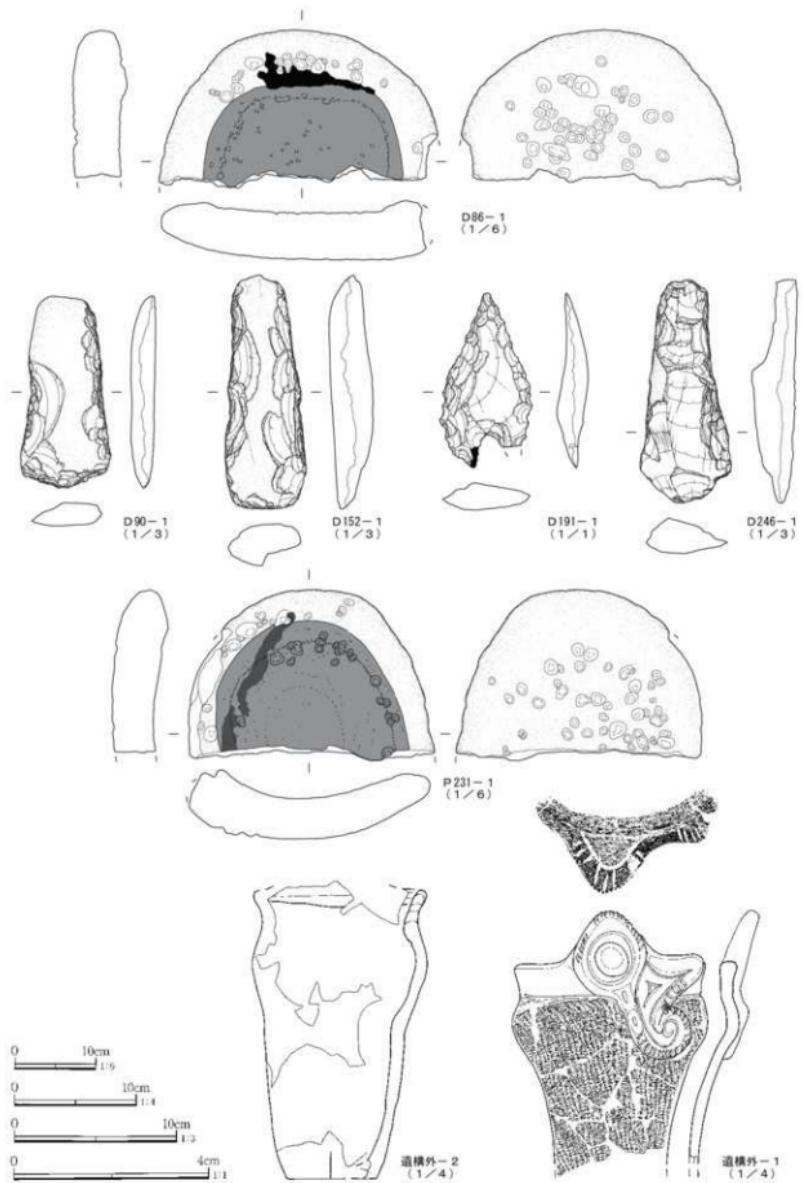


Fig. 36 A区 土坑(10)・遺構外 遺物実測図

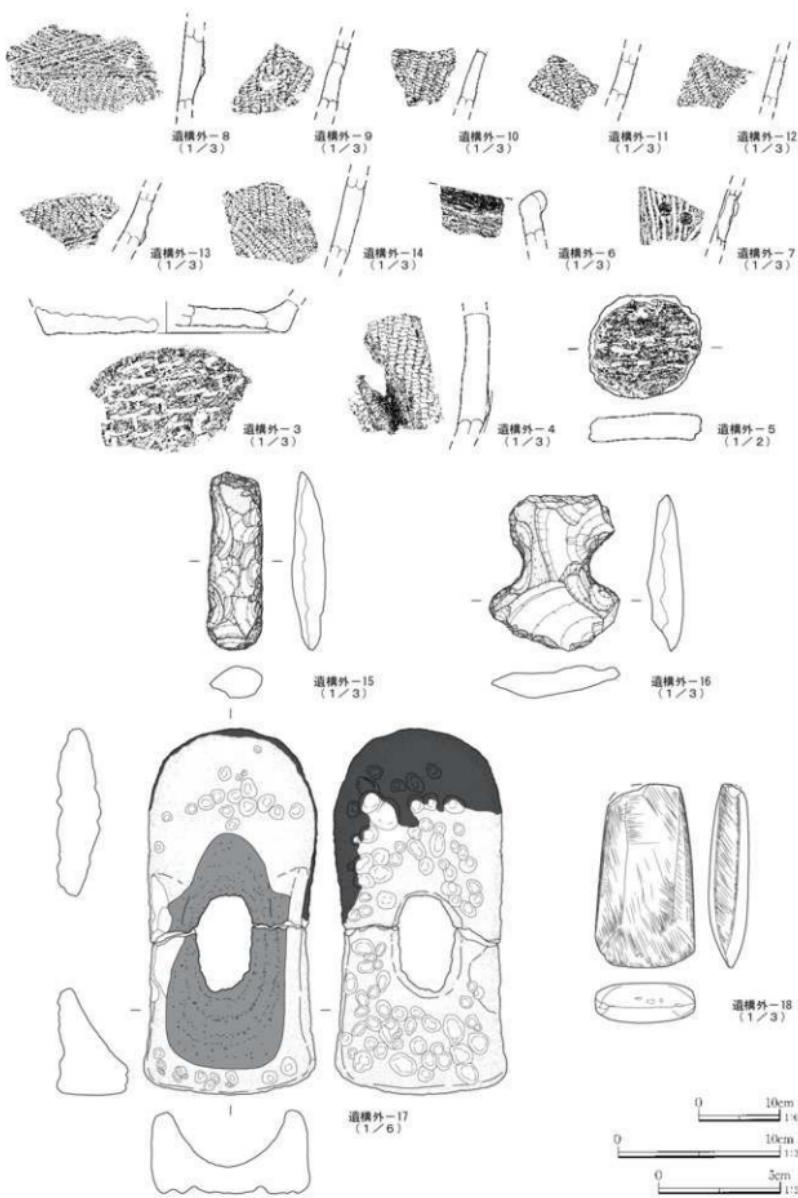


Fig. 37 A・B区 遺構外 遺物実測図

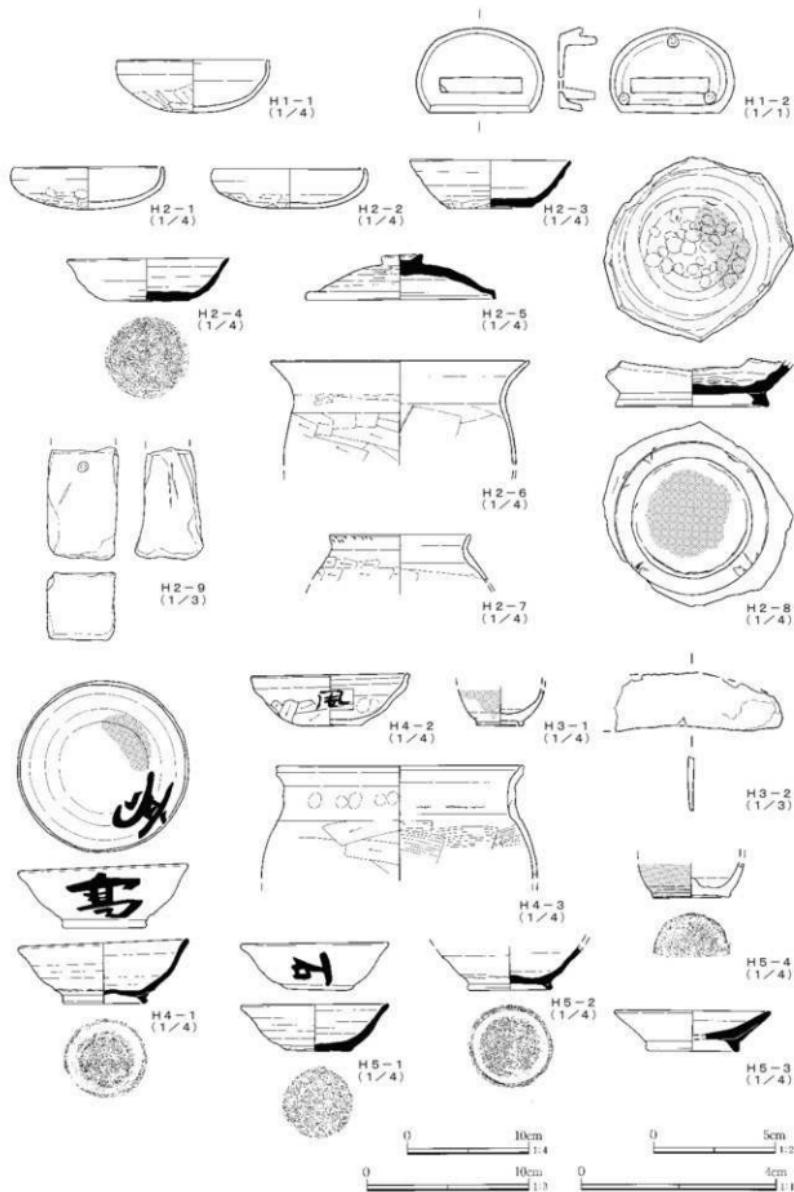


Fig. 38 B区 H-1～5号竖穴建物跡 遺物実測図

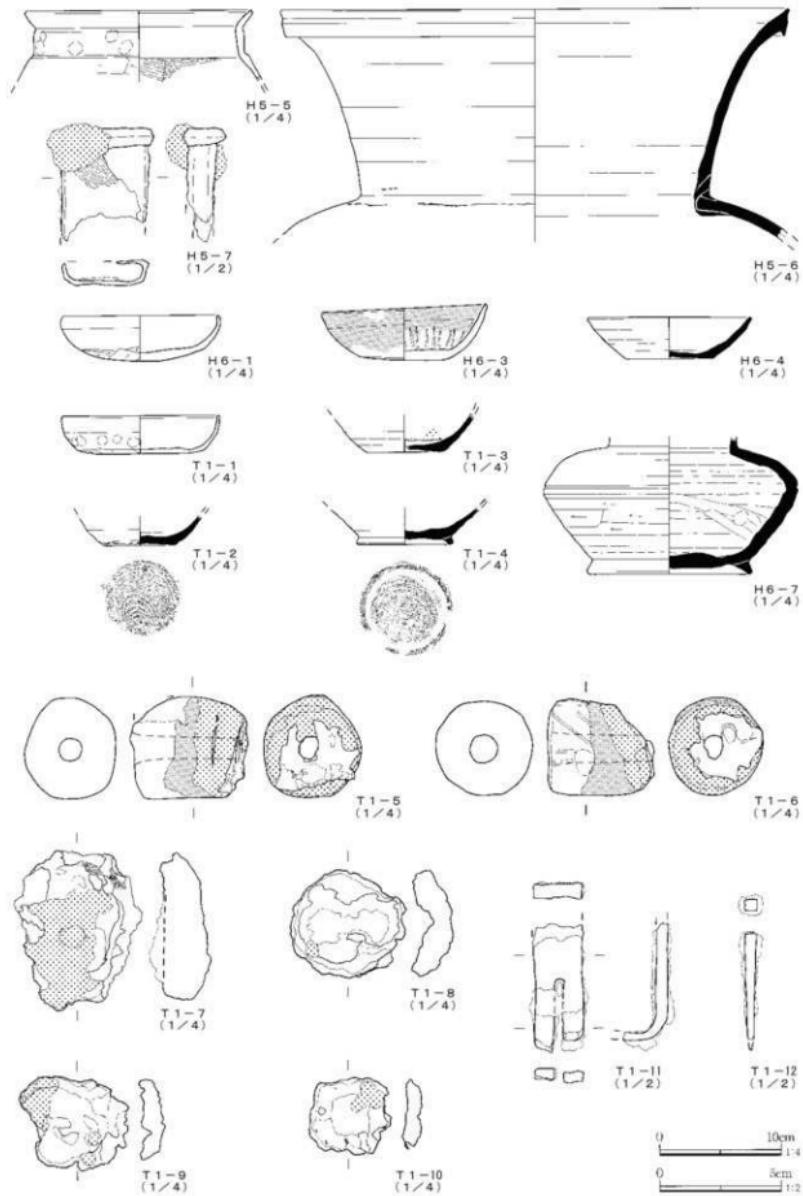


Fig. 39 B区 H-5・H-6号竪穴建物跡、T-1号遺構 遺物実測図

Tab. 11 織文時代出土遺物觀察表 (1)

区	遺構	施	成・整 形 法 の 特徴		寸 法 (cm)	①地土 ②色調	備 考
			寸 法 (cm)	寸 法 (cm)			
A	J-2 1	調文土器 深鉢	4単位の波状口縁。ロ脚部単筋R L調文を施す。右脚部模様埴帯(一部脚部手)。橋脚部手を貼付。陶器手に丸柱状工具による施調。左脚部は半截竹管状工具による横模様。左側の平行施椎を施す。内面は横模のミガキ。	一	①角閃石、石英、長石、白色 ②磁 <sup>2</sup> にぶい緑色 (7.5MR6/6)	調文中期中葉	
A	J-2 2	調文土器 深鉢	脚部單筋R L調文を施す。左脚部手を貼付。赤状施椎を貼付。半截竹管状工具によるナガ。	進退: (15.8) 直径: 9.5 高さ: (19.9)	①石英、赤色粒、白色粒 ②赤褐色 (SYK5/6)	調文中期中葉	
A	J-2 3	調文土器 深鉢	脚部ナギ部分の横模單筋R L調文を施す。手貼り管状工具による平行施椎で施文。波状文を施す。内面は横模のナガ。	一	①角閃石、石英、長石 ②明赤褐色 (SYK5/6)	調文中期中葉	
A	J-2 4	調文土器 深鉢	口縁部R L頭部上面に突起を設定。脚部单筋施椎を貼付。上部R L頭部模様把手・施調。左脚部手による脚部文。刺突による波状文と蓮華文を施す。上部工具による平行施椎で角ねじ。左脚部上面にナガ。	一	①角閃石、石英、長石 ②灰黒色 (10YR8/2)	調文中期中葉	
A	J-2 5	調文土器 深鉢	脚部单筋R L頭部上面に半截竹管状工具による施調。左脚部工具による平行施椎を施す。半截竹管状工具による押棒。キザミで施す。内面は横模のナガ。	一	①角閃石、チャート、白色粒 ②灰黒色 (10YR8/2)	調文中期中葉	
A	J-2 6	調文土器 深鉢	半鍍口縁。内面に施椎をして外反させる。口縁部は無文と想定。脚部上位の要取りを施す。左脚部手を貼付。3単位の横模施椎を貼付。半截竹管状工具による半降起輪を充実。	口径: (18.8) 高さ: (9.8)	①角閃石、石英、長石 ②磁 <sup>2</sup> (7.5MR6/6)	調文中期中葉	
A	J-2 7	調文土器 深鉢	脚部中・上位に施模の平行・一形施椎を貼付。半截竹管状工具による半降起輪を施す。内面は横模のナガ。	高さ: (10.7)	①角閃石、石英、長石 ②灰黒色 (7.5MR6/4)	調文中期中葉	
A	J-2 8	調文土器 深鉢	脚部上位横模R L調文。左脚部手による脚円形内面R L半截竹管状工具による角ねじ。波状文を施す。内面は横模のナガ。	高さ: (13.4)	①雪青、多量の石灰、長石 ②灰黒色 (7.5MR8/4)	調文中期中葉	
A	J-2 9	石器 石刀	(基盤部) 扇形。刃先部・片脚・刀身長: (10.8) cm、幅: (1.96) cm、厚さ: 0.62 cm	-	石材: 真碧		
A	J-2 10	石器 打製石刀	切削形。削痕を左右と二側面を直接接する両面加工が施される。刃先部に施椎が認められる部分にリダクション(刃部内凹)あり。刃長: (13.4) cm、幅: 5.0 cm、厚さ: 1.7 cm、重さ: 146.5 g。	-	石材: 真碧		
A	J-3 1	調文土器 深鉢	複数4単位の波状口縁。底面部部は横模把手。底面部部は脚部施椎の把手を施す。脚部把手部には3単位の脚部把手を施す。口縫部单筋R L頭部上面に半截竹管状工具による平行施椎で蓮華文を施す。内面は横模のミガキ。	口径: (37.6)	①角閃石、灰黒色、石英、白色粒②にぶい黒色 (7.5MR7/6)	調文中期中葉	
A	J-3 2	調文土器 深鉢	半鍍口縁。口縫部R L脚部手によつて肥厚。右脚部下位に横模施椎による三角形内面R L脚部手による脚部文。半截竹管状工具による平行施椎を施す。左脚部手によつて一形引接の接点に3次文を施す。施椎部上面に半截竹管状工具によるヨウ。	高さ: (6.8)	①石英、長石②にぶい赤褐色 (5MR5/4)	調文中期中葉	
A	J-3 3	調文土器 深鉢	脚部に施椎による斜模内面R L頭部上面に半截竹管状工具による脚部文。模様の位置の変遷による3次文を施す。内面に上部R L頭部上面に施椎を施す。	高さ: (<12.4)	①石英、長石、片對多量②にぶい黃褐色 (10YR5/4)	調文中期中葉	
A	J-3 4	調文土器 深鉢	脚部に施椎を貼付。左脚部手による脚部把手を施す。右脚部手による脚部把手を施す。左脚部手による平行施椎で脚部内凹を施す。右脚部手による脚部把手を施す。内面は横模のナガ。	高さ: (<10.2)	①石英、長石、白色粒②明赤褐色 (SYK5/6)	調文中期中葉	
A	J-3 5	調文土器 深鉢	脚部に半鍍口縁。右脚部手によつて肥厚。右脚部下位に横模施椎による三脚形内面R L脚部手による脚部文。半截竹管状工具による平行施椎を施す。左脚部手によつて一形引接の接点を3次文を施す。	高さ: (9.3)	①石英、片對多量②にぶい櫻 (7.5MR8/4)	調文中期中葉	
A	J-3 6	調文土器 深鉢	脚部に施椎を貼付。左脚部手による脚部把手を施す。右脚部手による脚部把手を施す。左脚部手による平行施椎で脚部内凹を施す。右脚部手による脚部把手を施す。内面は横模のナガ。	高さ: (<8.2)	①石英、長石、片對多量②にぶい黃褐色 (2.5SYK4/1)	調文中期中葉	
A	J-3 7	調文土器 深鉢	脚部に横模R L頭部上面に半截竹管状工具による脚部文。脚部把手を施す。左脚部手による脚部把手を施す。右脚部手による脚部把手を施す。内面は横模のナガ。	一	①角閃石、石英、白色粒②にぶい赤褐色 (SYK5/4)	調文中期中葉	
A	J-3 8	調文土器 小型深鉢	円筒形容の斜模内面。各ガニキ一頭。脚部把手による脚部把手。竹管状工具による円文で施文。内面に横模のナガ。	進退: (7.7) 高さ: (<12.0)	①角閃石、石英、チャート、長石②櫻 (7.5SYK4/1)	調文中期中葉	
A	J-3 9	調文土器 深鉢	半鍍口縁。底面によつて脚部施椎する。外面・内面ともにナガ。	口径: (43.8) 高さ: (19.0)	①石英、赤色粒、長石、白色 ②粘土にぶい黃褐色 (2.5SYK4/1)	調文中期中葉	
A	J-3 10	土製品 印鑑	脚部上位にナゲ・拂狀工具による横模キザミ。半截竹管状工具による排列平行施椎で波状文を施す。内面施椎。底面: (1.6) cm、幅: 5.0 cm、厚さ: 0.3 cm。	一	①石英、長石②櫻 (7.5SYR6/6)	調文中期中葉	
A	J-4 1	調文土器 深鉢	口縫部R L頭部上面に施椎による脚部把手を施す。左脚部手によつて肥厚。右脚部手によつて横模施椎を施す。施椎部突起を貼付。内面に小口状工具による横模のナガ。	高さ: (<10.4)	①角閃石、石英、赤色粒、片對多量②にぶい赤褐色 (7.5SYR4/4)	調文中期中葉	
A	J-4 2	調文土器 深鉢	脚部单筋貼付。左脚部上面に半截竹管状工具によるキザミ。施椎部突起を施す。左脚部手によつて横模施椎を施す。	高さ: (<3.5)	①角閃石、石英・赤色粒・半截竹管状工具による横模キザミ。	調文中期中葉	
A	J-4 3	調文土器 深鉢	脚部に2単位の脚部把手。横模施椎を貼付。横模施椎上面に半截竹管状工具によるキザミ。施椎部突起を施す。V字形のキザミ。上部工具による平行施椎を施す。内面は横模のナガ。	高さ: (6.30) 直径: (41.2)	①角閃石、石英②櫻 (SYR6/6)	調文中期中葉	
A	J-4 4	調文土器 深鉢	脚部下位に單筋R L調文を施す。無捺しによる結縫織文を施す。施椎部突起を施す。内面は横模のナガ。	進退: (10.2) 高さ: (41.2)	①角閃石、石英②櫻 (SYR6/6)	調文中期中葉	
A	J-4 5	調文土器 深鉢	脚部は脚部R L調文を施す。左脚部手による半截竹管状工具による脚部文。右脚部手による脚部把手を施す。内面は横模のナガ。	進退: (<10.4) 高さ: (10.4)	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒②明赤褐色 (SYR5/6)	調文中期中葉	
A	J-4 6	調文土器 小型深鉢	脚部に2単位の脚部把手。横模施椎を貼付。横模施椎上面に半截竹管状工具によるキザミ。施椎部突起を施す。内面は横模のナガ。	口径: - 高さ: (6.30) 直径: (41.2)	①角閃石、石英、赤色粒②櫻 (7.5SYR6/6)	調文中期中葉	
A	J-4 7	調文土器 深鉢	脚部は脚部R L調文を施す。左脚部手による半截竹管状工具による脚部文。右脚部手による脚部把手を施す。内面は横模のナガ。	進退: (14.1) 高さ: (14.1)	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒②明赤褐色 (SYR5/6)	調文中期中葉	
A	J-4 8	調文土器 深鉢	半鍍口縁に横模突起を貼付。一形施椎を貼付。半截竹管状工具による平行施椎で脚部把手を施す。内面は横模のナガ。	高さ: (41.8)	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒②明赤褐色 (SYR5/6)	調文中期中葉	
A	J-4 9	調文土器 深鉢	口縫部は形状変化。口縫部上面に脚部把手を施す。左脚部手によつて脚部把手。右脚部手によつて脚部把手。左脚部手による脚部把手。右脚部手による脚部把手。内面は横模のナガ。	高さ: (10.6) 直径: (23.1)	①角閃石、石英、赤色粒、白色粒②明赤褐色 (SYR4/2)	調文中期中葉	
A	J-4 10	調文土器 深鉢	底部欠損。口縫部は4単位の脚部把手を施す。内面に横模のナガ。	口径: (66.2) 高さ: (23.1)	①雪青、長石、石英・赤色粒・黃褐色 (10YR6/2)	調文中期中葉	
A	J-4 11	調文土器 深鉢	半鍍口縁。外面・内面ともに横模のナガ・ミガキ。	口径: (55.8) 高さ: (9.3)	①角閃石、石英、赤色粒・黃褐色 (SYR4/2)	調文中期中葉	

Tab. 12 繩文時代出土遺物觀察表（2）

Tab. 13 織文時代出土遺物観察表(3)

区	遺構	施	器種	成・整 形 法 の 特徴		寸 法 (cm)	①地土 ②色調	備 考
				寸 法 (cm)	備 考			
A	D-38	7	調文土器 深鉢	2単位の波状口縁。もしくは正面に斜起を付せ、側面裏出し部に横曲陣を附し、前面を波状にする。外縁に内縁ともにミガキや外縁口縁部から斜面にまで磨きを施す。	口径: (19.2) 高さ: (<13.4)	①金雲母、石英、長石②にぶい黄鐵 (10YR8/3)	調文中期中葉	
A	D-44	1	調文土器 深鉢	単眼R1。口縁文を施す文様→半截竹管状工具による單列の角押文・複列の角押文で波状文・溝状文の文様を施す。内縁には横位のナデ。	口径: (9.6) 高さ: (2.5)	①石英、長石、白色粒②にぶい壁 (5.5YR7/4)	調文中期中葉	
A	D-48	1	調文土器 深鉢	平縁口縁。2単位の波状起伏・側面斜起を付せ→口縁部を直角で横位・弧状に区画。脣部には小突起を付せ、垂下陰面と凸台→無縫し調文を口縁部へ施す。斜起・一部の陰面に及ぶ。脣部等に先端がやや尖る「直頭」工具による有筋斜縫を施す。把手の一部を小波状に作出し、内縁に把手の形状に沿した斜縫を施す。内縁には口縁部が模様、斜縫がミガキ、発泡割穿孔。	口径: (20.0) 高さ: (29.7)	①角閃石、石英、赤褐色②にぶい壁 (2.5YR4/6)	調文中期中葉	
A	D-48	2	調文土器 深鉢	太い堆積層による円筒と直角斜縫、脣部斜縫を付す→円筒部に内縁で直角文で充填→直角部に半截竹管状工具による半周斜縫を施す。	口径: (21.6) 高さ: (30.6)	①金雲母、石英、黑色粒②赤褐色 (5YR5/6)	調文中期中葉	
A	D-54	1	調文土器 深鉢	脣部は陰面による円筒と直角斜縫、脣部斜縫を付す→円筒部に内縁で直角文で充填→直角部に半截竹管状工具による半周斜縫を施す。	口径: (14.8) 高さ: (20.6)	①石英、長石、白色粒②赤褐色 (5YR4/6)	調文中期中葉	
A	D-58	1	調文土器 深鉢	2単位の波状口縁。正面には脣部斜起を下と2段目に付く。後面は直巻状陰面→脣部に直巻状陰面による押印文を施す。脣部には弧状陰面、一部の陰面に弧状陰面と同様の工具による三角彎文を施す。内縁には脣部が横位、脣部が縦位ミガキ。	口径: (22.9) 高さ: (27.1)	①金雲母、石英、長石、白色粒②赤褐色 (5YR7/6)	調文中期中葉	
A	D-58	2	調文土器 深鉢	直角部に無縫し斜縫を斜位施す→脣部上位に半截竹管状工具による横曲沈縫。	口径: (9.0) 高さ: (24.4)	①石英、白色粒②赤褐色 (5YR4/6)	調文中期中葉	
A	D-58	3	調文土器 深鉢	口縁部には斜起が見止められ、脣部全体に内側に屈曲。口縁部下に直巻の状態で行脚陰面を付す上記工具による押印文を施す。脣部上部は直巻の状態で行脚から脣部を低張に付す→半截竹管状工具による平行直巻、上記工具の内面による平行直巻の内文・直巻陰面を施す。	口径: (11.9) 高さ: (21.9)	①角閃石、石製、チャート、長石②明褐色 (5YR5/6)	調文中期中葉	
A	D-61	1	調文土器 深鉢	推定直巻式口縁。口縁部は直巻状斜縫を付す→直巻開始部に斜位斜縫→脣部直巻に付す連続・半截竹管状工具による直巻斜縫を斜位に付す→脣部・直巻開始部に斜位斜縫を付す→脣部直巻を斜位に上記工具による半周斜縫を付す脣部に沿せる→直巻開始部に内文・直巻文を施す。内縁には横位のナデ。	口径: (29.9) 高さ: (12.4) 厚さ: (24.4)	①石英、長石、白色粒②赤褐色 (5YR6/6)	調文中期中葉	
A	D-62	1	調文土器 小型深鉢	平縁口縁。縫跡に直巻を貼付。脣部に陰面による直巻文・波状文を貼付。外縁にも横位のナデ。	口径: (13.5) 高さ: (7.5)	①角閃石、石英、長石②にぶい壁 (5.5YR6/4)	調文中期中葉	
A	D-65	1	石器 石器	構円形。赤・青に薄い鉛釉を付す。上部上曲面・底面に波状模様に施す。腹窓あり。厚さ: 9mm。直徑: 796.1g。	-	石材: 安山岩		
A	D-65	2	石器 石器	大形扁平な礫を素材とする。直線は使用により平滑化している。長さ: 23.2cm。幅: 20.4cm。厚さ: 4.4cm。重さ: 2,720.0g。	-	石材: 安山岩		
A	D-86	1	石器 石器	直面は焼成後で表面に薄い部分分布する小さな打痕が認められ表面の一部や背面には打痕集中より大きな打痕がある。下部欠損部。長さ: (19.5)cm。幅: (34.4)cm。厚さ: 7.3cm。重さ: 5,410g。	-	石材: 安山岩		
A	D-90	1	打製石斧	樹形。別離を素材として両側面を直接打撃による平面両面加工が施される。刃部の一部に粗細剥離・摩擦痕あり。長さ: 11.8cm。幅: 5.6cm。厚さ: 1.5cm。重さ: 124.2g。	-	石材: 青銅		
A	D-93	1	調文土器 小型深鉢	調査部直下に直巻状斜縫を貼付→半柱状工具による半截竹管状工具による直巻文・直巻陰面を施す。内縁には横位のナデ。	口径: (5.6) 高さ: (2.7)	①角閃石、石英②明褐色 (5.5YR5/6)	調文中期中葉	
A	D-96	1	調文土器 深鉢	平縁口縁。口縫部から脣部上位は横位のミガキ。脣部中位以下は斜位のミガキ。内縁にも同様。	口径: (21.1) 高さ: (6.6) 厚さ: (11.1)	①石英、長石、片状雲母②にぶい壁 (5YR6/4)	調文中期中葉	
A	D-104	1	調文土器 深鉢	推定 2 位傾仄口縁。中空把手→脣部斜起を貼付→把手部位に傾仄斜縫を付す→把手部に斜位斜縫を付す。脣部上位に横位のミガキ。脣部中位以下は斜位のミガキ。内縁には横位のナデ。	口径: (19.2) 高さ: (<13.7)	①石英、赤色粒。長石②灰褐色 (5.5YR4/2)	調文中期中葉	
A	D-110	1	土製品 凹盤	底部平。外縁ノギヤ、内縁ノギヤナデ。縫辺部全面研磨。長さ: 4.5cm。幅: 4.9cm。厚さ: 3.5cm。重さ: 4.57g。	-	①石英、長石、長石②にぶい黃褐色 (10YR5/2)	調文中期中葉	
A	D-119	1	調文土器 深鉢	推定 4 位傾仄口縁。口縫部下と口縫部中に斜位を持つ。外縁・内縁ともにミガキと直角部外縫と口縫部内側から脣部底まで赤色を施す。口縫部外縫にスカリ。	口径: (33.8) 高さ: (7.9) 厚さ: (17.9)	①角閃石、石英、長石②にぶい赤褐色 (5YR4/3)	調文中期中葉	
A	D-123	1	調文土器 深鉢	主突起部に行脚陰面→付随→直巻状陰面による→半截竹管状工具による平縫行脚陰面→上記工具による斜位斜縫。チャミン・蓮華文・直巻文による三角彎文→区画内に平行直巻・直角斜縫・直巻文を施す。	口径: (20.4) 高さ: (13.0)	①石英、長石、白色粒②赤褐色 (5.5YR5/6)	調文中期中葉	
A	D-128	1	調文土器 深鉢	平縁口縁。口縫部に推定 1 単位のなだらかな有孔形突起を貼付。口縫部には後後によう横位のミガキと直角斜縫を施す。直角斜縫は直角部斜縫と貼付→直角部に無縫し調文を施す。斜位斜縫は斜位斜縫と貼付→斜位斜縫の手法で横位直角斜縫・直角斜縫を施す。直角斜縫は直角部斜縫と貼付→直角部に横位のミガキ、斜位斜縫のナデ。斜位斜縫。	口径: (37.2)	①石英、長石、白色粒②にぶい壁 (5.5YR2/4)	調文中期中葉	
A	D-129	1	調文土器 深鉢	脣部上方は陰面による横位・傾位区画一画巻状の突起を貼付。陰面による区画内に半截竹管状工具凸面による单轴斜縫と直角斜縫・直角斜縫を施す。脣部中位以下に直角斜縫。内縁には横位・傾位ナデ。内縁脣部中位以下にコット付す。	口径: (9.7) 高さ: (26.8)	①角閃石、石英、チャート、長石②にぶい黄褐色 (10YR6/4)	調文中期中葉	
A	D-129	2	調文土器 深鉢	波状口縁。口縫部円錐状突起を付した陰面による三角彎調和の区画文を施す。脣部は横位脣部を貼付→直巻脣に半截竹管状工具凸面による直角斜縫を施す→直角斜縫の手法で横位直角斜縫・直角斜縫に同様の工具と直角斜縫を施す。内縁には横位のミガキと直角斜縫を施す。外縁波状・縫跡を施す。	口径: (29.5)	①石英、長石、白色粒②明褐色 (5YR5/6)	調文中期中葉	
A	D-148	1	土製品 凹盤	底部平。外縁ナデ。内縁ナデ。縫辺部粗く研磨。長さ: 3.6cm。幅: 3.8cm。厚さ: 1.3cm。重さ: 3.46g。	-	①石英、長石、白色粒②にぶい黃褐色 (10YR6/3)		
A	D-152	1	石器 打製石斧	直角形。削離を素材とし側面縫を直接打撃による両面加工が施される。刃部に微細剥離痕あり。長さ: 14.4cm。幅: 5.0cm。厚さ: 2.7cm。重さ: 211.4g。	-	石材: 青銅		

Tab. 14 繩文時代出土遺物観察表(4)

区	遺物	No.	器種	成・整・形・技・法の特徴		寸法(cm)	①出土	②色調	法値の( )は推定値、<は推存値。	備考
				寸法(cm)	寸法(cm)					
A	1 繩文土器	9-155	深鉢	脚部下位に4輪位の縦位陣布を貼付→陣布間に半截竹管状工具による平行沈鉢を施し起居を記す。区画内に象形状工具による點描文と構形区画文。区画内には横位のナダ。	底径：9.0 器高：<30.0	①石英、長石、長石②にぶい褐色 (7.5YR6/3)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-169	深鉢	脚部に横位のナダ。脚部下位に4輪位の縦位陣布を貼付→脚部上位に半截竹管状工具による平行沈鉢を施す。区画内には横位のナダ。	底径：— 器高：—	①金雲母、石英、白色粘土に ぶい黄色(10YR5/3)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-169	深鉢	脚部下位に4輪位の縦位陣布を貼付→脚部上位に半截竹管状工具による平行沈鉢を施す。区画内には横位のナダ。	底径：— 器高：—	①石英、長石、石英②にぶい 褐色(10YR5/4)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-169	深鉢	脚部下位に4輪位の縦位陣布を貼付→脚部上位に半截竹管状工具による平行沈鉢を施す。区画内には横位のナダ。	底径：— 器高：—	①角閃石、石英、長石、片岩 ②にぶい褐色(10YR7/4)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-171	深鉢	脚部下位に4輪位の縦位陣布を貼付→脚部上位に半截竹管状工具による平行沈鉢を施す。区画内には横位のナダ。	底径：— 器高：<13.9	①石英、長石、チャート②明 赤褐色(5YR6/6)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-183	深鉢	脚部下位に4輪位の縦位陣布を貼付→脚部上位に横位。外面にはスクリュー状工具による突起、キヨミカニ模様などを施す。区画内には横位のナダ。	底径：(12.2) 器高：(22.3)	①金雲母、石英、長石②にぶい 褐色(7.5YR4/6)	縄文中期中葉			
A	1 石器	9-191	石斧	圓基無茎。片脚欠損。長さ：[3.6] cm、幅：1.9 cm、厚さ：0.66 cm、重さ：3.0 kg	石材：ガラス質安山岩					
A	1 繩文土器	9-192	深鉢	推定山形状の縦位起居。突起の孔縁に縦位陣布を貼付。突起下部に横位陣布を貼付→脚部上位に半截竹管状工具による斜位施設。	底径：(9.1) 器高：(28.1)	①角閃石、石英、長石②にぶい 褐色(7.5YR6/3)	縄文中期中葉			
A	2 繩文土器	9-192	深鉢	脚部下位に半截竹管状工具による斜位施設。脚部上位に半截竹管状工具による横位のナダ。	底径：(18.2) 器高：(22.2)	①角閃石、石英、長石②深灰色 色(2.5Y4/1)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-193	深鉢	脚部下位に4輪位の縦位陣布を貼付→脚部上位に横位。脚部下位以下は縦位のナダ。外面にはスクリュー状工具による突起。	底径：(12.9) 器高：(21.1)	①石英、チャート、長石明赤 褐色(5YR6/6)	縄文中期中葉			
A	2 繩文土器	9-193	深鉢	底位付近まで半截竹管状工具による横位起居式を施す。内面は横位のナダ。	底径：— 器高：—	①石英、長石、白色粘土明赤 褐色(2.5YR6/6)	縄文前期後葉			
A	3 繩文土器	9-193	深鉢	底位付近まで半截竹管状工具による半截起居式を施す。横位施設→手取起居上面にキザミ。脚部上位に横位の沈鉢が複数存在する。内面は横位のナダ。	底径：(2.4) 器高：(2.4)	上灰色粘、黑色粘、石英、 長石、白色粘(2.5Y6/3)	縄文中期中葉			
A	1 土製品	9-194	人形	口縁部R1. 繩文土器による半截竹管状工具の正面による横位起居。内面は横位のナダ。脚部粗面。表面に化粧物付着。大きさ：4.5 cm、幅：3.8 cm、厚さ：1.0 cm、重さ：26.8 g	①石英、長石②灰(5YR4/1)	縄文中期中葉				
A	2 繩文土器	9-194	深鉢	底位付近まで半截竹管状工具による横位起居式を施す。内面は横位のナダ。	底径：(4.1) 器高：(2.4)	①角閃石、長石、白色粘(2.5YR5/6)	縄文中期中葉			
A	3 石器	9-194	石斧	概形。大形片割を主とし、刃頭部と直接打撃による両面加工が施される。刃部に斜面削痕、摩耗あり。大きさ：14.5 cm、幅：9.4 cm、厚さ：3.6 cm、重さ：549.2 g	石材：黑色安山岩					
A	1 繩文土器	9-195	深鉢	口縁部R1. 繩文土器による半截竹管状工具の正面による横位起居。内面は横位のナダ。	底径：(3.8) 器高：(2.4)	①金雲母、石英、長石②にぶい 褐色(7.5YR7/4)	縄文中期中葉			
A	2 繩文土器	9-195	深鉢	脚部下位に横位陣布を貼付→半截竹管状工具による横位起居式で三角文施設。内面は三叉点を充満。内面は横位のナダ。	底径：(3.7) 器高：(2.4)	①石英、長石、白色粘(2.5YR5/6)	縄文中期中葉			
A	3 繩文土器	9-195	深鉢	底位付近まで半截竹管状工具による横位起居式を施す。外側には横位のナダ。	底径：(6.3) 器高：(2.4)	①石英、チャート、長石、片岩 ②にぶい赤褐色(5YR5/4)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-198	深鉢	平縫口縁。口縁部下位の把手を貼付(横位・縦位)→陣布上面に半截竹管状工具によるナダ。縫跡部粗面。表面に化粧物付着。大きさ：15.8 cm、幅：13.5 cm、厚さ：3.9 cm	底径：(15.8) 直径：(16.0) 器高：(3.9)	①石英、片岩②にぶい褐色 (7.5YR5/3)	縄文中期中葉			
A	2 繩文土器	9-198	深鉢	口縁部R1. 突起は横位陣布と口縁を貼付。脚部下位に横位起居式を施す。脚部上位に半截竹管状工具による斜位施設。斜位施設→斜位施設。区画内には円文、横位起居式、縦位施設がある。内面は横位のナダ。	底径：(96.0) 器高：(39.9)	①角閃石、石英、長石、白色粘(2.5YR5/6)	縄文中期中葉			
A	3 繩文土器	9-198	深鉢	弧形。突起位陣布を貼付→半截竹管状工具による手取起居式で三角文施設→「一円文」→二文式を充満。内面は横位のナダ。	底径：(96.0) 器高：(39.9)	①石英、チャート、長石、片岩 ②にぶい赤褐色(5YR5/4)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-198	深鉢	平縫口縁。陣布貼付して肥厚する。外側、内面ともにミガキ。	底径：(6.3) 器高：(2.4)	①石英、片岩②にぶい赤褐色 (5YR5/4)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-199	深鉢	平縫口縁。口縁部下位の把手を貼付(横位・縦位)→陣布上面に半截竹管状工具によるナダ。縫跡部粗面。表面に化粧物付着。大きさ：9.1 cm、幅：9.1 cm、厚さ：2.5 cm	底径：(9.1) 直径：(9.1) 器高：(2.5)	①石英、片岩②にぶい褐色 (7.5YR6/4)	縄文中期中葉			
A	5 土製品	9-199	不明	土製品。内面、内面ともにナダ→ミガキ。被熱による変色部分あり。	最大幅：4.4 最大長：17.9 cm	赤色粘、黃色粘、白色 粘(2.5YR6/6)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-212	深鉢	外側、内面ともに丁寧なミガキ。外側口縁部、内面上面に赤彩。	底径：(15.0) 器高：(15.1)	①石英、チャート、長石②に ぶい赤褐色(5YR5/6)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-219	深鉢	平縫口縁。口縁部下位の把手を貼付(横位・縦位)→陣布上面に半截竹管状工具によるナダ。縫跡部粗面。表面に化粧物付着。大きさ：12.5 cm、幅：12.5 cm、厚さ：2.6 cm	底径：(21.2) 直径：(21.2) 器高：(2.6)	①黑色粘、石英、長石、白色 粘(2.5YR5/6)	縄文中期中葉			
A	1 繩文土器	9-228	深鉢	脚部下位に横位陣布と口縁を貼付。脚部上位に半截竹管状工具による手取起居式で三角文施設→「一円文」→二文式を充満。内面は横位のナダ。	底径：(12.1) 器高：(3.6)	①角閃石、石英、長石粘(2.5YR5/6)	縄文中期中葉			
A	2 繩文土器	9-228	深鉢	平縫口縁。表面には把手、縦位陣布を貼付。脚部下位に半截竹管状工具による手取起居式で三角文施設→「一円文」→二文式を充満。内面は横位のナダ。	底径：(6.6) 器高：(3.6)	①石英、チャート、白色粘(2.5YR5/6)	縄文中期中葉			
A	3 石器	9-228	磨石	脚部下位に横位陣布を貼付。脚部上位に半截竹管状工具による手取起居式で三角文施設→「一円文」→二文式を充満。内面は横位のナダ。	底径：(6.7) 器高：(22.9)	石材：安山岩				
A	4 石器	9-228	磨石	脚部下位に横位陣布を貼付。脚部上位に半截竹管状工具による手取起居式で三角文施設→「一円文」→二文式を充満。内面は横位のナダ。	底径：(14.7) 器高：(10.0)	石材：安山岩				
A	1 繩文土器	9-230	深鉢	平縫口縁。脚部下位に横位陣布を貼付。脚部上位に半截竹管状工具による手取起居式で三角文施設→「一円文」→二文式を充満。内面は横位のナダ。	底径：(24.2) 直径：(22.1) 器高：(9.9)	①角閃石、石英、白色粘(2.5YR4/6)	縄文中期中葉			
A	2 繩文土器	9-230	深鉢	平縫口縁。脚部下位に横位陣布を貼付。脚部上位に半截竹管状工具による手取起居式で三角文施設→「一円文」→二文式を充満。内面は横位のナダ。	底径：(9.9) 器高：(9.9)	①角閃石、石英、白色粘(2.5YR6/6)	縄文中期中葉			

Tab. 15 繩文時代出土遺物觀察表（5）

法量の(3)は推定値、(4)は残存値。

Tab. 16. 奈良・平安時代出土遺物觀察表（1）

注冊の（△）は研究被（△）は教育被

区	道	県	市	種	文・整・形・法・技・術		寸 法(cm)	①土器	②焼成	③色調	備 考
					外	内					
B	H-1	1	土師器 外	外面：口縁部ヨコテ、底部下位から底部までハラケズリ。 内面：ヨコナラヒヘラケズリの間に横筋圧痕が残る。 裏面：ヨコナラヒ。	口径：12.3 底径：4.3	①右美、角閃石、白色粒 ②良好 ③桜 Blue(SR678/6)	8世紀後3四半期				
B	H-2	2	陶製品 火鉢	正面かゞ裏面に向かって台形状を呈する。正面には方長形の透かしがあり、裏面には3点状に透かしがある。	縦幅：1.8 横幅：2.6 厚さ：0.1 重さ：0.5kg		カマド内出土				
B	H-2	1	土師器 外	外面：口縁部ヨコテ、底部下位から底部までハラケズリ。 内面：ヨコナラヒヘラケズリの間に横筋圧痕が残る。	口径：12.2 底径：3.4	①右美、角閃石、白色粒 ②良好 ③桜 Blue(SR678/6)	8世紀後3四半期				
B	H-2	2	土師器 外	外面：口縁部ヨコテ、底部下位から底部までハラケズリ。 内面：ヨコナラヒヘラケズリの間に横筋圧痕が残る。 裏面：ヨコナラヒ。	口径：12.4 底径：3.2	①右美、角閃石、白色粒 ②良好 ③桜 Blue(SR678/6)	8世紀後3四半期				
B	H-2	3	須恵器 外	外面：ロクロ調整。低窓切妻切り手持ちヘラケズリ。 内面：ロクロナダ。	口径：13.2 底径：6.8 高さ：4.0	①右美、黒褐色、白色粒 ②良好 ③窓元焼成 ④白目 (BlueW67/1)	8世紀後3四半期				
B	H-2	4	須恵器 外	外面：ロクロ調整。低窓切妻切り手回転ヘラケズリ。 内面：ロクロナダ。	口径：13.3 底径：6.7 高さ：3.6	①右美針状突起物、辰石、右美 ②良好 ③窓元焼成 ④白目 (BlueW67/1)	南北全須恵器坏 8世紀後3四半期				
B	H-2	5	須恵器 蓋	外面：天井部斜削ヘラケズリ。口縁部ロクロナダ。 内面：ロクロナダ。	口径：15.6 底径：7.2 厚さ：2.3 重さ：1.3	①右美、墨色、白色粒 ②良好 ③窓元焼成 ④白目 (BlueW67/1)	8世紀後3四半期				

Tab. 17 奈良・平安時代出土遺物觀察表（2）

区	遺跡	No.	器種	外観	寸法(cm)	整・整形 法の特徴			備考
						土師器	骨器	金物	
B	H-2	6	土師器 甕	外面：口縁部ヨコナギ。胴部上位方向へハラケメリ。 内面：口縁部ヨコナギ。胴部上位方向へハラケメリ。	口径：11.6 深さ：3.7	①細部・白色粒・黒色粒 ②良好・黄褐色 ③良好・白(Blue2.5YR5/6)	8世紀後3四半期		
B	H-2	7	土師器 甕	外面：口縁部ヨコナギ。頸部は棒状工具でナガ。胴部へラグミズ。 内面：口縁部ヨコナギ。胴部上位方向へハラケメリ。	口径：(21.2) 底径：(8.5)	①細部・石英・角閃石②良好・白(Blue2.5YR6/4)	8世紀後3四半期		
B	H-2	8	須恵器 軋用器 軋用器	外面：ロクロ調整。高台貼り付け。底部に木椎痕あり。中腹部に凹掘り彫り。 内面：ロクロナギ。指捺痕重複。底部に灰施釉あり。削痕の角3点が当たるためのため彫刻。	口径：(3.8) 底径：(2.6)	①石英・長石・白色粒 ②良好・還元焼成 ③灰(Blue2.5YR4/1)	8世紀後第3四半期		
B	H-2	9	土製品 碗	最辺の4面に使用。片面に貫通しない小孔あり。刃・斜封等の特徴無し。	長径：(6.8) 幅：(4.5) 高さ：(1.6) 重さ：(186g)				
B	H-3	1	灰釉器 小瓶	外面：ロクロ調整。高台貼り付け。灰釉あり。 内面：ロクロナギ。底部中央に灰施釉。	口径：3.8 底径：(3.1)	①白色粒・黒色粒②良好・灰(Blue2.5YR7/1)	9世紀後手以降 東濃産		
B	H-3	2	鉄製品 鍔	全長：(30.0) 幅：(3.5) 厚さ：(0.33) 重量：(27.83g) 鍔の先から、中間の部分、カマ穴から出ます。		①良好・白(Blue2.5YR7/2)	9世紀後3四半期		
A	H-4	1	須恵器 甕	外面：ロクロ調整。高台貼り付け。底部に墨書きで「高」。 内面：ロクロナギ。底部に墨書きで「高」。	口径：(14.0) 底径：(6.8) 高さ：(5.2)	①片岩・角閃石・石英 ②やや不良・酸化焼成 ③灰(Blue2.5YR7/1)	9世紀後3・4四半期		
A	H-4	2	土師器 甕	外面：口縁部ヨコナギ。底部下位～底部までハラケメリ。中腹部に墨書きで天文学「風」。 内面：ロヨナギ。底部に指捺痕直刺あり。	口径：(13.0) 底径：(5.2) 高さ：(4.3)	①長石・石英・角閃石 ②良好・灰(Blue2.5YR7/2)	9世紀後3四半期		
A	H-4	4	土師器 甕	外面：ロクロ調整。頸部ヨコナギ。底部に指捺痕直刺あり。胴部上位ヨコナギ。 内面：ロクロ調整。頸部ヨコナギ。底部に指捺痕直刺あり。胴部上位ヨコナギ。	口径：(20.0) 底径：(9.2)	①粗粒・長石・石英・角閃石②良好・白(Blue2.5YR7/1)	9世紀末～10世紀 初頭		
A	H-5	1	須恵器 甕	外面：ロクロ調整。底部斜面角削り～部分的にハラケメリ。 底部に墨書きで「石」か。 内面：ロクロナギ。	口径：(12.2) 底径：(5.2) 高さ：(3.9)	①角閃石・石英・長石 ②良好・酸化焼成 ③灰(Blue2.5YR8/3)	8世紀後3四半期		
A	H-5	2	須恵器 甕	外面：ロクロ調整。底部斜面角削り～部分的にハラケメリ。 底部に墨書きで「石」か。 内面：ロクロナギ。底部に墨書きがあるが記述不可。	口径：(12.6) 底径：(5.2) 高さ：(3.3)	①白色粒・石英 ②やや不良・酸化焼成 ③褐色(Blue10YR4/1)	9世紀後4四半期		
A	H-5	3	須恵器 高台付 甕	外面：ロクロ調整。底部斜面角削り～高台貼り付け。 内面：ロクロナギ。墨書き。	口径：(12.6) 底径：(7.2) 高さ：(3.3)	①黑色粒・白色 ②やや不良・酸化焼成 ③灰(Blue10YR4/1)	9世紀後4四半期		
A	H-5	4	灰釉器 鉢皿	外見：ロクロ調整。底部斜面角削り～墨書き未調査。胴部下位に灰施釉あり。 内面：ロクロナギ。底部に墨書き。	口径：(12.6) 底径：(6.2) 高さ：(3.3)	①白色粒・石英 ②やや不良・酸化焼成 ③灰(Blue10YR4/1)	9世紀後手以降 美濃産		
A	H-5	5	土師器 甕	外面：ロクロ調整。底部斜面角削り～高台貼り付け。 内面：ロクロナギ。墨書き。	口径：(18.6) 底径：(9.2)	①石英・赤色粒・白色 ②良好・白(Blue2.5YR6/4)	9世紀後4四半期		
A	H-5	6	須恵器 大甕	外・内面：ロクロナギ。	口径：(41.8) 底径：(19.0)	①長石・石英・長石・軟玉・籽白 ②良好・還元焼成③灰(Blue3/1)	9世紀後手以降		
A	H-5	7	陶製品 刀具	始端部、内面に木片が保存する。長さ：(4.8) 幅：(3.5)～(4.4) 厚さ：(2.6) 重さ：(21.8g)					
A	H-6	1	土師器 甕	外面：口縁部ヨコナギ。体部ナギ。底部へラケメリ。 内面：ロヨナギ。	口径：(12.7) 底径：(3.7)	①石英・角閃石・良好 ②白(Blue2.5YR6/6)	8世紀後3四半期		
A	H-6	3	土師器 甕	外面：口縁部ヨコナギ。体部ナギ。底部へラケメリ。 内面：ロヨナギ。体部下位から上位へ方針のミガキ(磨き)。	口径：(13.6) 底径：(7.3) 高さ：(4.5)	①長石・チャート・赤色粒 ②石英・良好 ③白(Blue2.5YR7/6)	8世紀後半平か		
A	H-6	4	須恵器 甕	外面：ロクロ調整。体部斜面へ切羽～削痕ハラケメリ。 内面：ロクロナギ。	口径：(13.5) 底径：(7.4) 高さ：(3.5)	①白色粒・長石 ②良好・還元焼成 ③灰(Blue2.5YR7/2)	8世紀後3四半期		
A	H-6	7	須恵器 高台付 甕	外面：ロクロ調整。頸部最大の位置に墨書き。高台貼り付け。 内面：ロクロナギ。底部下位に指捺痕直刺あり。	口径：(10.1) 底径：(13.4) 高さ：(11.2)	①白色粒・長石・石英・良好 ②良好・還元焼成③灰(Blue2.5YR8/1)	8世紀後2・3四半期		
B	T-1	1	土師器 甕	外面：口縁部ヨコナギ。体部ナギ。指捺痕直刺あり。底部へラケメリ。 内面：ロクロナギ。底部下位から体部ヨコナギ。	口径：(13.0) 底径：(G.2) 高さ：(3.1)	①石英・角閃石・良好 ②白(Blue2.5YR6/4)	9世紀前半		
B	T-1	2	須恵器 甕	外面：ロクロ調整。底部斜面角削り～墨書き未調査。罐着付。 内面：ロクロナギ。底部中央に保付着。	口径：- 底径：(5.8) 高さ：(2.3)	①石英・片岩・白色粒 ②良好・酸化焼成 ③灰(Blue2.5YR3/1)	9世紀前半		
B	T-1	3	須恵器 甕	外面：ロクロ調整。底部斜面角削り～墨書き未調査。部分的に墨沿付着。罐付着。内面：ロクロナギ。部分的に墨沿付着が付着。	口径：(6.2) 底径：(5.8) 高さ：(3.1)	①石英・片岩・白色粒 ②良好・酸化焼成 ③灰(Blue2.5YR1/1)	9世紀前半		
B	T-1	4	須恵器 甕	外面：ロクロ調整。底部斜面角削り～高台貼り付け。罐沿付着が少く数箇所。	口径：(8.0) 底径：(5.8) 高さ：(3.0)	①石英・長石・籽白 ②良好・還元焼成 ③灰(Blue2.5YR7/2)	9世紀前半		
B	T-1	5	土製品 羽羽	先端に擦痕付着有し。1.0～1.5cm付近まで高温により黒色化する。端部は半球状である。裏面ははるかに黒色化はない。先端部は半球状然としている黒色化はほなし。	全長：(9.7) 幅：(7.5) 厚さ：(1.8) 重さ：(1.8×1.9)	①石英・角閃石・白色粒・黒色粒 ②良好・酸化焼成 ③灰白(Blue2.5YR7/2)	北西遺物集中範囲から出土		
B	T-1	6	土製品 羽羽	外面上にスカラップの植物の葉痕とナゲ痕あり。先端に擦痕沿付着有し。先端から1.5～2.8cm付近まで高圧により黒色化する。端部は半球状然としている黒色化はほなし。	全長：(8.2) 幅：(7.8) 厚さ：(0.6)	①石英・角閃石・白色粒・黒色粒 ②良好・酸化焼成 ③灰白(Blue2.5YR7/2)	北西遺物集中範囲から出土		
B	T-1	7	楕円形 鉗形	平面不整形。上面はやや平坦状に隆む。上面には酸化土砂が付着。側面には土砂痕及び土砂付着後灰化後其側面は鐵錆色であります。手縫合部に木板附。下面は縫い目隠し。	長径：(13.1) 短径：(10.5) 厚さ：(5.5) 重さ：(60.0g)				
B	T-1	8	楕円形 鉗形	平面円形。上面は墨書きで塗ぬる。中央は鐵錆色。一部に鐵錆色付着。側面には縫合無。下面には縫い目隠し。	長径：(9.3) 短径：(9.9) 厚さ：(3.4) 重さ：(296.5g)				
B	T-1	9	楕円形 鉗形	平面不整形且つ凹凸。上面は中央や外側で墨書きで塗ぬる。鐵錆色付着。側面は左側側面で突起を除き完全。下面は縫い目隠し。	長径：(9.0) 短径：(7.8) 厚さ：(2.1) 重さ：(27.1g)				
B	T-1	10	楕円形 鉗形	平面円形。上面は中央や外側で墨書きで塗ぬる。鐵錆色付着。側面及び鋸歯化の矢印が記載される。側面は右側側面以外完結。下面は縫い目隠し。	長径：(6.7) 短径：(5.3) 厚さ：(1.3) 重さ：(27.8g)				
B	T-1	11	鉗形 鉗形	二又に分かれる端部が彎曲し。先端は欠損。	長径：(5.2) 幅：(2.1) 厚さ：(0.6) 重さ：(22.5g)		北側上層から出土		
B	T-1	12	鉗形 鉗形	先端部欠損。	長径：(4.4) 幅：(0.9) 厚さ：(0.8) 重さ：(5.0g)	D 2上層の遺物集中範囲から出土			

Tab. 18 石器一覧表（1）

区	遺構名	石盤	石刀	石斧	石凿	S c	R F	打削	挫削	三鍔	剥片	石核	薄占	厚占	中占	圓占	磨擦	磨石	合占	張占	研磨	磨片	研磨	計	遺構	件数	備註
A	J-2	1	1	11	15	11				103			4	2				1		1			150		12	3	
A	J-3			9	6	8				68		1	2										95				
A	J-4	2	2	24	15	12	1			183		1	6						2				246		10		
A	J-5			3	1					29				1									25				
A	J-18			1	2					2			1										6				
A	D-25			1						10													11				
A	D-27									2													2				
A	D-28			1	1					7								1					10		4		
A	D-29			2	1					1													4		1		
A	D-30					3							1										4				
A	D-31		3	2	1					35			1										42				
A	D-32		1	3		9																	13		5		
A	D-34			1	1					5		2	1										10		8		
A	D-37		1	2	1					12													16				
A	D-38		1	2	3					10		1	3		3	3							26		2	9	
A	D-40	1			2	2				17		1											23		7		
A	D-41		1	1	1					7		1						1					12				
A	D-42									1													1				
A	D-43				2					2													4				
A	D-44			4	1					7													12				
A	D-45			1	1					1													3				
A	D-46			3						6													9				
A	D-48			1		9				1	1												12		3	1	
A	D-49				1																		1				
A	D-50					1																	1				
A	D-54			1		4																	6				
A	D-55					6																	6		3		
A	D-58		1	3		5																	9		13		
A	D-59					1																	2				
A	D-61	1		3						1	1												6		7	5	
A	D-62	1		1		2																	4				
A	D-63			1		5				1													7				
A	D-64			1		9	1																12				
A	D-65		1	1	1	9	1																13				
A	D-66			1		4																	5				
A	D-67			1		1											1						3				
A	D-69		2			1																	4				
A	D-71					1	1																2				
A	D-72		1			3																	1		2		
A	D-81					2																	4				
A	D-83					4																	2				
A	D-89		1			1																	5				
A	D-90																						1				
A	D-91																						1				
A	D-93		1	3		19																	24				
A	D-96		1	3		3																	7		2		
A	D-97					1																	1				
A	D-102					1																	1				
A	D-103																						3				
A	D-104		2	2		8																	12				
A	D-110		1	1	3					7													12				
A	D-114					2																	2				
A	D-116			2	2																		4				
A	D-118					1																	1				
A	D-119					2																	2				
A	D-120				1																		1				
A	D-121					1	3																4				
A	D-123			1		9																	10				
A	D-124					4																	4				
A	D-125		2	1		2																	5		1		
A	D-127																						9		3		
A	D-128																						2		1		
A	D-129			4	1	6				2													13				
A	D-132		2	2	2	4											1						11		3		
A	D-133		1	1																			3				
A	D-135																	2					2				
A	D-136					2				5													7				
A	D-138	1								10													1				
A	D-143									3													3				
A	D-145					1																	1				
A	D-146									4													4				
A	D-147			1	1	1				10													12				

椎石：槍状石器 S c: スクレイパー R F: リッパードフレイク 打削：打製石斧 三鍔：三角鍔石器 邵磨：部分研磨石器 條狀：棒状石器 多孔石：多孔石 磨斧：磨製石斧 留平鐵：留平鐵 自然鐵

Tab. 19 石器一覽表 (2)

## VI まとめ

### 縄文時代の五代南部団地地区遺跡

五代深堀Ⅰ遺跡No.2では、堅穴建物跡6軒と土坑124基、ピット34基を確認した。堅穴建物跡の時期は縄文時代中期中葉（J-1～5）である。土坑・ピットに関しても縄文時代中期中葉のみで構成される。

本遺跡の全体図と五代南部団地地区内の遺跡全体図に地形図を合成したものがFig.40である。南部団地地区全体を時期別にみると、五代中原Ⅰ・Ⅱ遺跡（⑩・⑪）と五代山街道Ⅰ遺跡（⑯）では、縄文時代前期（関山式・諸磯a～c式期）の堅穴建物跡が検出されている。五代伊勢宮Ⅱ・V遺跡（⑦・⑫）では、縄文時代前期（黒浜式・諸磯a～c式期）と中期後葉（加曾利E I・II式期）の堅穴建物跡が集中する。本遺跡が立地する台地の東側では、五代深堀Ⅰ・II遺跡（⑤・⑨）で縄文時代中期後葉（加曾利E III・IV式期）の堅穴建物跡が2軒検出された。これらの分布状況から、本遺跡を含めた縄文時代中期中葉の集落と、前期および中期後葉の集落が占地を画していたことが指摘できよう。なお、縄文時代前期の集落は本遺跡西側を走る谷の両岸に立地し、中期後葉の加曾利E III・IV式期の集落は、同じ台地の中央部に立地する傾向にある。

本遺跡で検出した堅穴建物跡の配置は、北西側から南東側に弧状を呈し、その内側に土坑群・ピット群がある。本遺跡西側に位置する五代伊勢宮IV・VI遺跡（⑪・⑯）においても、縄文時代中期中葉の堅穴建物跡と土坑群が弧状に検出されており、本遺跡を含め同一の環状集落の可能性が高い。つまり、本遺跡は南北230m×東西100mの長大な環状集落の北東縁に位置する。ただし、本遺跡および五代伊勢宮IV遺跡と五代伊勢宮VI遺跡の堅穴建物跡と土坑群の分布は8の字状を呈しており、近接した2つの環状集落が存在していたと捉えることも可能である。あるいは、2つの環状集落が統合した形で大規模な集落を形成していた可能性も考えられるだろう。

### 五代深堀Ⅰ遺跡No.2における縄文時代中期中葉の出土遺物

ここで扱う縄文時代中期中葉の出土遺物は深鉢と浅鉢である。これらの出土遺物には様々な型式の特徴がみられたため、型式名を断定することは避けた。しかし、型式における文様構成をあげるならば、阿玉台I b・II・III式、勝坂II・III式、新巻類型、焼町類型、三原田類型、大木8a式の特徴がみられた。なかでも阿玉台I b・II式、勝坂II・III式、焼町類型の特徴を持つものは比較的型式として捉えやすい印象が見受けられた。これに対して大木8a式の特徴は、型式としては捉えにくいものの、その影響は強いといえるものが多くみられた。

本遺跡における異なる型式の共伴事例としては、深鉢では勝坂式と焼町類型、浅鉢では阿玉台式と勝坂式のセット関係が多い（J-4、D-38ほか）。なお、浅鉢の形態については、第27回縄文セミナーにおいて、外反系浅鉢は阿玉台式系、内折系浅鉢は勝坂式系としてとらえられており、本遺跡出土の浅鉢についてもこれに従った。

ここで、浅鉢の共伴事例として、J-4号堅穴建物跡で出土した阿玉台系の浅鉢（J4-10）と北陸系の浅鉢（J4-13）を提示しておきたい。

群馬県内での北陸系の浅鉢の出土例は、渋川市の白井大宮遺跡（230号土坑）、吉岡町の沼南遺跡（95号住居、319号土坑）の浅鉢があげられる。いずれも内折系で、口縁部から屈折部にかけて沈線や刻み、体部には縄文が施文される。これらは、北関東における内折系浅鉢の異系統（3群）に分類され、阿玉台II・III式期に並行するとして指摘されており（福田ほか2014）、糸魚川より東側の地域に分布の中心を持つと指摘されている。

これに対し、J-4号堅穴建物跡から出土した北陸系の浅鉢（J4-13）は、口縁部に横位の平行沈線と弧状文と推定される文様があり、体部は無文で、色調は灰白色を呈する。これらの特徴は、糸魚川より西側の地域に分布する浅鉢にみられるものであり、阿玉台III・IV式期に並行すると捉えられている。糸魚川以西での類例としては、富山県朝日町の境A遺跡、富山県氷見市上久津呂中屋遺跡出土の浅鉢があげられる。

これらのことから、J-4号堅穴建物跡で出土した浅鉢は、糸魚川より西側に地域から搬入された可能性が高い。また現段階では、群馬県内において糸魚川以西の特徴を持つ浅鉢の出土例は報告されていない（第27回縄文セミナー資料集による）。



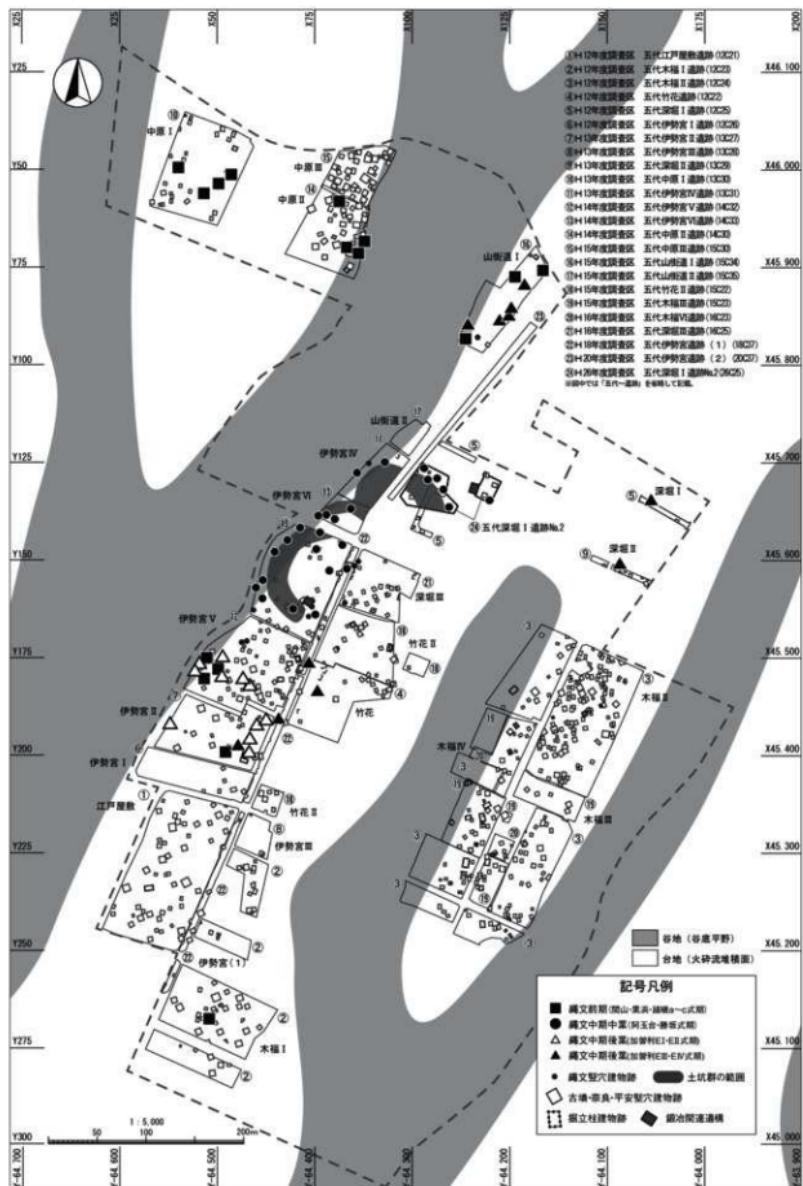


Fig. 40 五代南部团地地区 遗跡全体図（模式図）

## 抄 錄

ふりがな 書名	ごだいふかぼりいちいせきなんぱーに 五代深堀 I 遺跡 No.2
副書名	五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	
編著者名	藤坂 和延 小此木 真理
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒 379-2146 群馬県前橋市公田町 1002 番地 1 Tel 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒 371-0853 群馬県前橋市総社町 3-11-4 Tel 027-280-6511
発行年月日	西暦 2015 年 3 月 10 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)	(度分秒)			
五代深堀 I 遺跡 No.2	群馬県前橋市五代町 1081 番地 1	10201	26C25	36° 24' 44"	139° 6' 47"	20140707 ～ 20150310	2,290 m <sup>2</sup>	工場用地 造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
五代深堀 I 遺跡 No.2	集落跡	縄文時代 奈良・平安時代	堅穴建物跡 土坑 ビット  堅穴建物跡 鍛冶関連遺構 掘立柱建物跡 溝状遺構 ビット 道路状遺構 土坑（時期不明）	5 軒 124 基 34 基  6 軒 1 基 1 棟 6 条 34 基 2 条 99 基	縄文土器 石器  土師器 須恵器 鉄製品 灰釉陶器 銅製品 石製品 鍛冶滓	

### 五代深堀 I 遺跡 No.2

#### 五代南部団地地区計画区域内工場誘致に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 27 年 2 月 23 日 印刷

平成 27 年 3 月 10 日 発行

発行／前橋市教育委員会

群馬県前橋市総社町 3-11-4

編集／有限会社毛野考古学研究所

印刷／朝日印刷工業株式会社